

葛 飾 区  
ヤングケアラー状況調査  
報 告 書

令和5年3月

葛 飾 区



# 目次

第1章 調査の概要	1
I.調査の目的と方法	3
1 調査の趣旨	3
2 調査の概要	3
第2章 児童・生徒調査	7
I.小中学生調査	9
1 基本情報	9
2 ふだんの生活について	13
3 家族や家庭のことについて	20
4 ヤングケアラーについて	36
5 自由意見	39
II.高校生世代調査	44
1 基本情報	44
2 ふだんの生活について	48
3 家族や家庭のことについて	54
4 ヤングケアラーについて	67
5 自由意見	70

第3章 関係機関調査 .....	75
I.区立小中学校調査 .....	77
1 支援が必要と思われる子どもへの対応 .....	77
2 ヤングケアラーについて .....	88
3 自由意見 .....	107
II.高齢及び障害に関わる事業所調査 .....	109
1 基本情報 .....	109
2 支援が必要と思われる子どもへの対応 .....	110
3 ヤングケアラーについて .....	119
4 自由意見 .....	127
III.区内民生委員・児童委員調査 .....	129
1 基本情報 .....	129
2 支援が必要と思われる子どもへの対応 .....	130
3 ヤングケアラーについて .....	131
4 自由意見 .....	140
資料編 .....	143

# 第 1 章

## 調査の概要



# I. 調査の目的と方法

## 1 調査の趣旨

ヤングケアラーとは、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされています。家族のケアをすることによるヤングケアラーの生活への影響は様々ですが、自分の時間が取れない、勉強する時間が充分に取れないなど、悩みを抱えている場合もあります。

本区では、ヤングケアラーに対する包括的な支援の構築に向けて基礎資料とするため、小学4年生から高校生世代の子ども及び関係機関を対象に、ヤングケアラー本人や家族の状況、ヤングケアラーが行っているケアの内容や頻度等の状況調査を行いました。

## 2 調査の概要

### (1) 児童・生徒調査

#### ア 小学生

調査対象	区立小学校の4年生から6年生	10,176 人
調査期間	令和4年 12 月 19 日～令和5年1月 16 日 調査延長期間：令和5年2月9日～令和5年2月 19 日	
調査方法	学校を通して調査依頼文を配布 (Web 調査)	
回収数・率	1,189 人 (11.7%)	

#### イ 中学生

調査対象	区立中学校の1年生から3年生	8,762 人
調査期間	令和4年 12 月 19 日～令和5年1月 16 日 調査延長期間：令和5年2月9日～令和5年2月 19 日	
調査方法	学校を通して調査依頼文を配布 (Web 調査)	
回収数・率	1,719 人 (19.6%)	

#### ウ 高校生世代

調査対象	高校1年生から3年生の年齢の区民	10,504 人
調査期間	令和4年 12 月 22 日～令和5年1月 16 日	
調査方法	調査依頼文を郵送 (Web 調査)	
回収数・率	1,257 人 (12.0%)	

## (2) 関係機関調査

### ア 区立小学校・中学校

調査対象	区立小学校、中学校	74校
調査期間	令和4年12月19日～令和5年1月16日	
調査方法	調査依頼文を配付(Web調査)	
回収数・率	74校(100.0%)	

### イ 高齢者及び障害者に関わる区内の事業所

調査対象	高齢者及び障害者に関わる区内の事業所	354か所
調査期間	令和5年1月6日～令和5年1月30日	
調査方法	調査依頼文を郵送(Web調査)	
回収数・率	138か所(39.0%)	

### ウ 民生委員・児童委員

調査対象	民生委員・児童委員	384人
調査期間	令和4年11月21日～令和4年12月6日	
調査方法	合同民生委員・児童委員協議会で配付(紙調査票)	
回収数・率	253人(65.9%)	



## ◆調査結果の見方について

- 集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値(%)を全て合計しても、四捨五入の関係で100%にならない場合があります。
- 複数回答の場合、回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- 回答結果を見やすくするために、グラフや表等で回答のなかった選択肢や無回答など一部の項目を省略している場合があります。
- 記述式の回答は、主なものを要約して掲載している場合があります。

## 《参考》ヤングケアラーのイメージ(例)



障害や病気のある  
家族に代わり、買い物・  
料理・掃除・洗濯など  
の家事をしている。



家族に代わり、幼  
いきょうだいの  
世話をしている



障害や病気のある  
きょうだいの世  
話や見守りをし  
ている



目を離せない家族の  
見守りや声かけなど  
の気づかいをしている



日本語が第一言語で  
ない家族や障害の  
ある家族のために  
通訳をしている



家計を支えるため  
に労働をして、障  
害や病気のある  
家族を助けている



アルコール・薬物・  
ギャンブル問題を  
抱える家族に対応  
している



がん・難病・精神  
疾患など慢性的  
な病気の家族の  
看病をしている



障害や病気のある  
家族の身の回り  
の世話をしている



障害や病気のある  
家族の入浴や  
トイレの介助をし  
ている

イラスト出典元：厚生労働省ホームページ



## 第 2 章

# 児 童 ・ 生 徒 調 査



# I.小中学生調査

## 1 基本情報

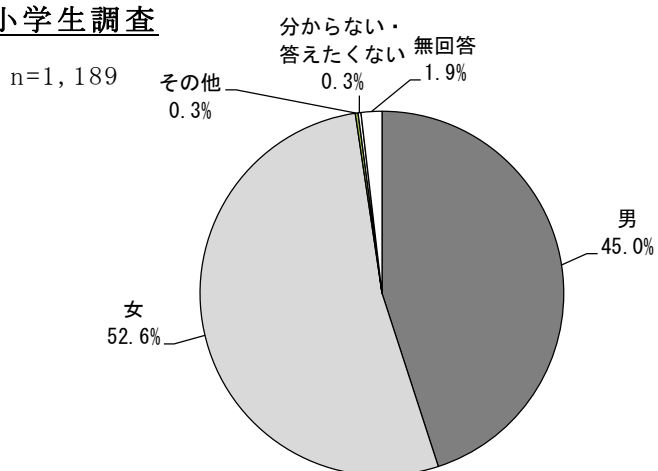
### ①性別

問1.あなたの性別について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

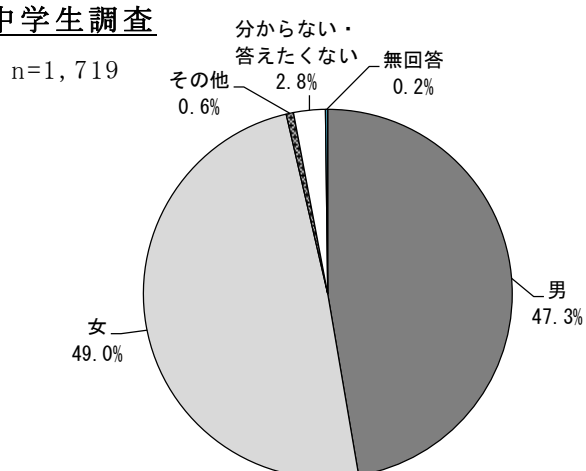
小学生調査では、「男」が45.0%、「女」が52.6%となっている。

中学生調査では、「男」が47.3%、「女」が49.0%となっている。

小学生調査



中学生調査



## ②学年

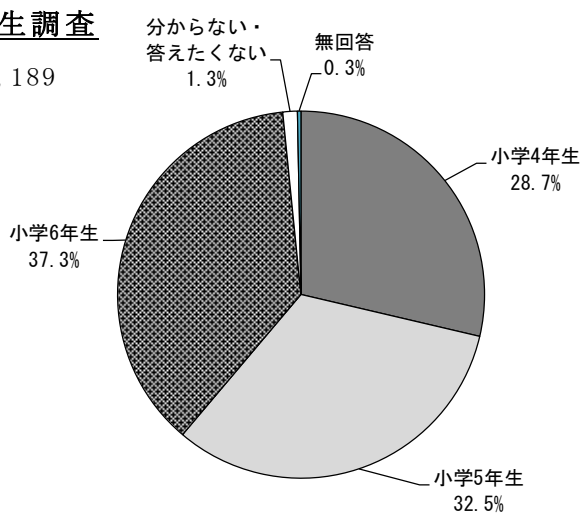
問 2.あなたの学年を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「小学4年生」が28.7%、「小学5年生」が32.5%、「小学6年生」が37.3%となっている。

中学生調査では、「中学1年生」が32.2%、「中学2年生」が31.9%、「中学3年生」が34.6%となっている。

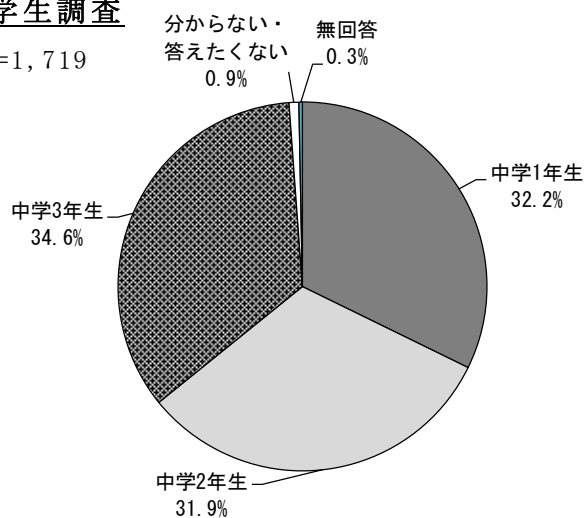
### 小学生調査

n=1,189



### 中学生調査

n=1,719



### ③家族構成

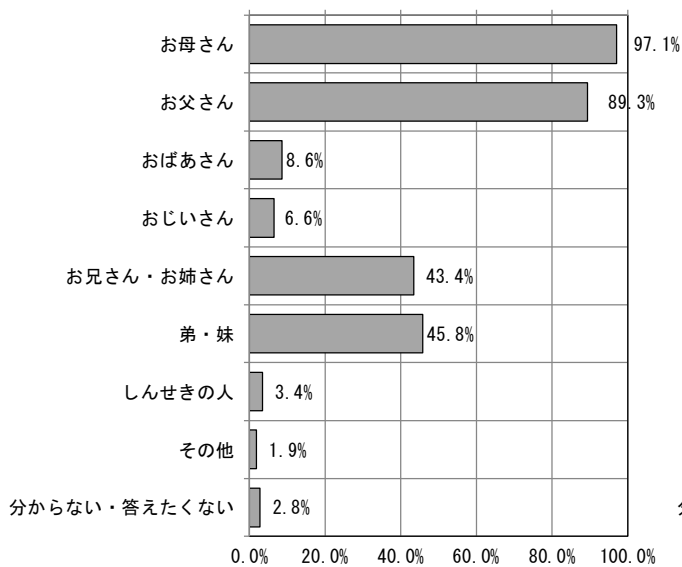
問 3.今、いっしょに住んでいる人について教えてください。あてはまるもの全てにチェックをしてください。「( )人」と書かれているものは、何人いるか入力してください。

小学生調査では、「お母さん」が97.1%と最も多く、次いで「お父さん」が89.3%、「弟・妹」が45.8%、「お兄さん・お姉さん」が43.4%となっている。

中学生調査では、「お母さん」が95.9%と最も多く、次いで「お父さん」が83.8%、「弟・妹」が46.8%、「お兄さん・お姉さん」が46.0%となっている。

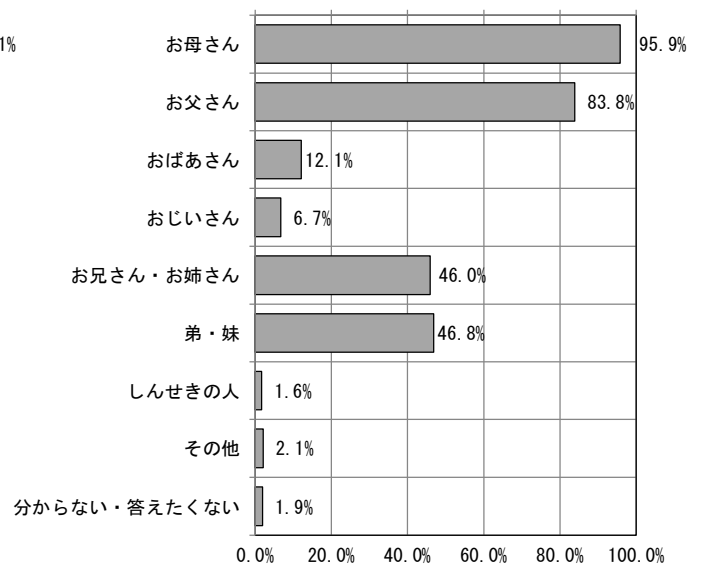
#### 小学生調査

n=1,189



#### 中学生調査

n=1,719



#### ④体調について

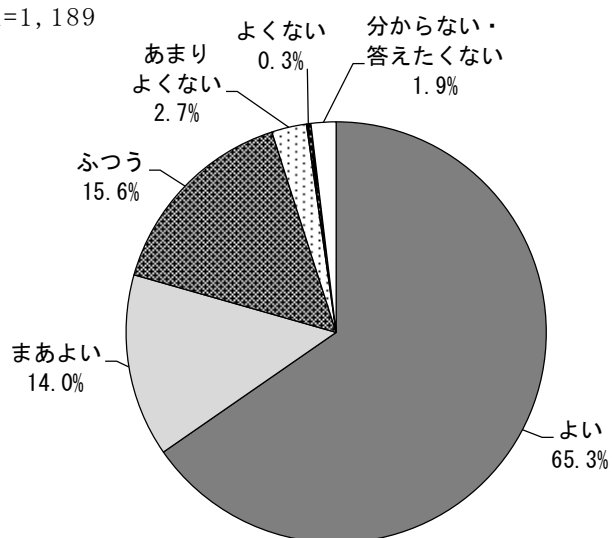
問 4.あなたの体調について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「よい」が 65.3%と最も多く、次いで「ふつう」が 15.6%、「まあよい」が 14.0%、「あまりよくない」が 2.7%となっている。

中学生調査では、「よい」が 48.7%と最も多く、次いで「ふつう」が 26.1%、「まあよい」が 17.0%、「あまりよくない」が 5.0%となっている。

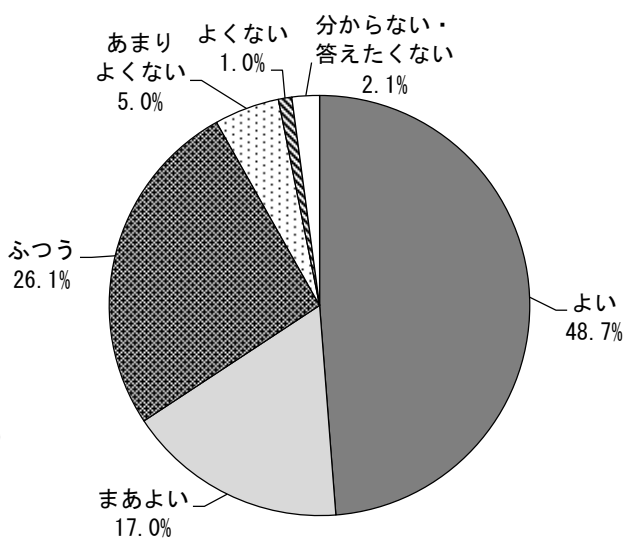
#### 小学生調査

n=1,189



#### 中学生調査

n=1,719





## 2 ふだんの生活について

### ①学校を休むことがあるか

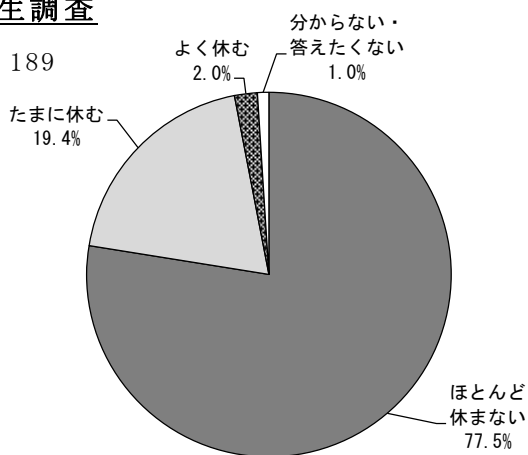
問 5.学校を休むことがありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「ほとんど休まない」が 77.5%と最も多く、次いで「たまに休む」が 19.4%、「よく休む」が 2.0%となっている。

中学生調査では、「ほとんど休まない」が 81.2%と最も多く、次いで「たまに休む」が 15.5%、「よく休む」が 2.2%となっている。

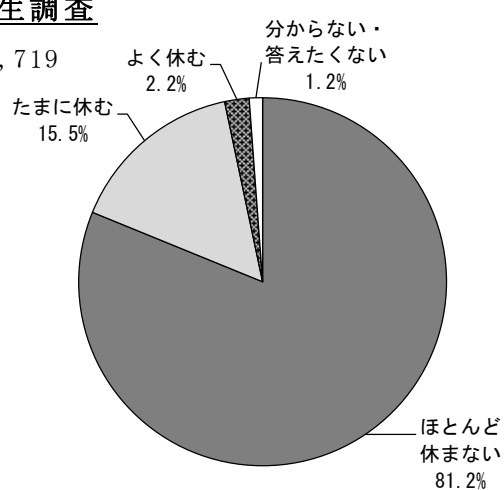
#### 小学生調査

n=1,189



#### 中学生調査

n=1,719



## ②遅刻や早退の有無

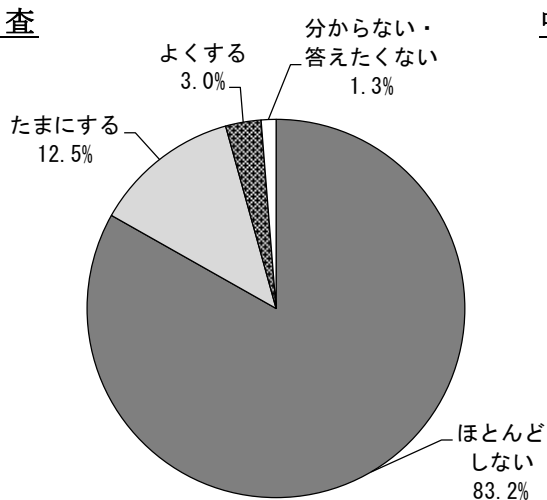
問 6. 学校に遅刻をしたり、早退をすることがありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「ほとんどしない」が 83.2%と最も多く、次いで「たまにする」が 12.5%、「よくする」が 3.0%となっている。

中学生調査では、「ほとんどしない」が 79.5%と最も多く、次いで「たまにする」が 15.1%、「よくする」が 4.1%となっている。

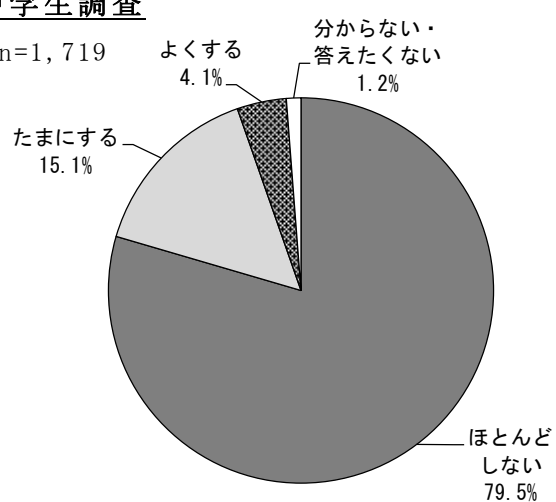
### 小学生調査

n=1,189



### 中学生調査

n=1,719



### ③塾や習い事、クラブ活動、部活動などを行っているか

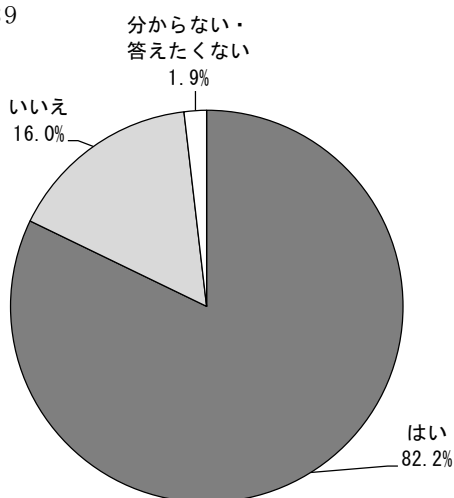
問7.放課後、塾や習い事、クラブ活動、部活動などを行っていますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「はい」が82.2%、「いいえ」が16.0%となっている。

中学生調査では、「はい」が86.3%、「いいえ」が12.0%となっている。

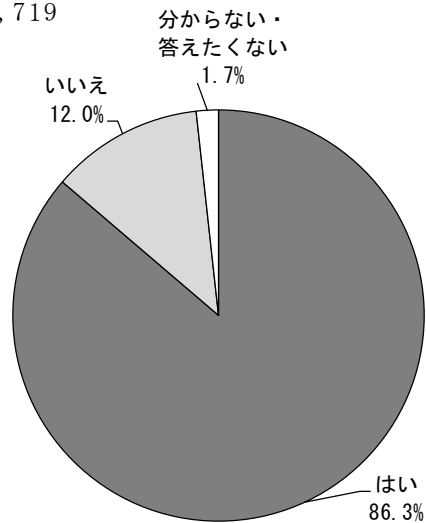
#### 小学生調査

n=1,189



#### 中学生調査

n=1,719



#### ④学校生活での課題

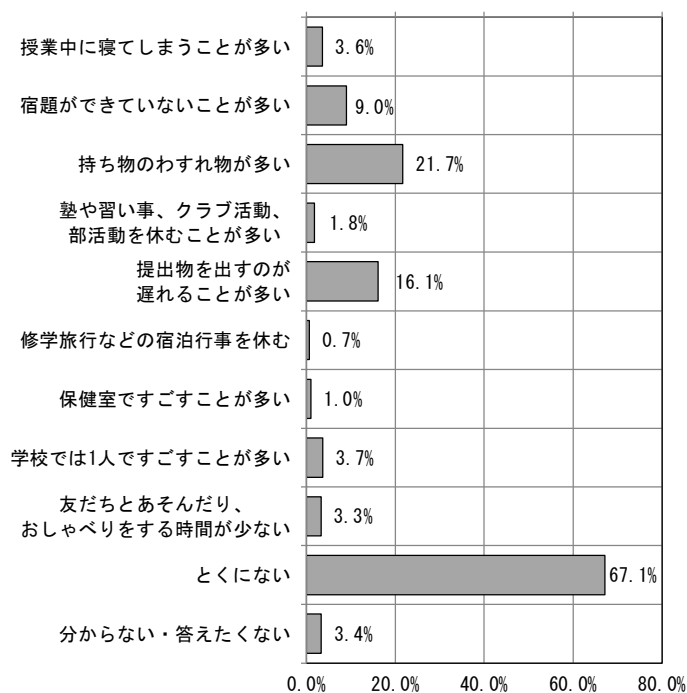
問 8.ふだんの学校生活において、あてはまるものはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「持ち物のわすれ物が多い」が 21.7%と最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が 16.1%、「宿題ができていないことが多い」が 9.0%となっている。「とくにない」は 67.1%となっている。

中学生調査では、「提出物を出すのが遅れることが多い」が 22.2%と最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が 21.2%、「授業中に寝てしまうことが多い」が 17.3%となっている。「とくにない」は 55.0%となっている。

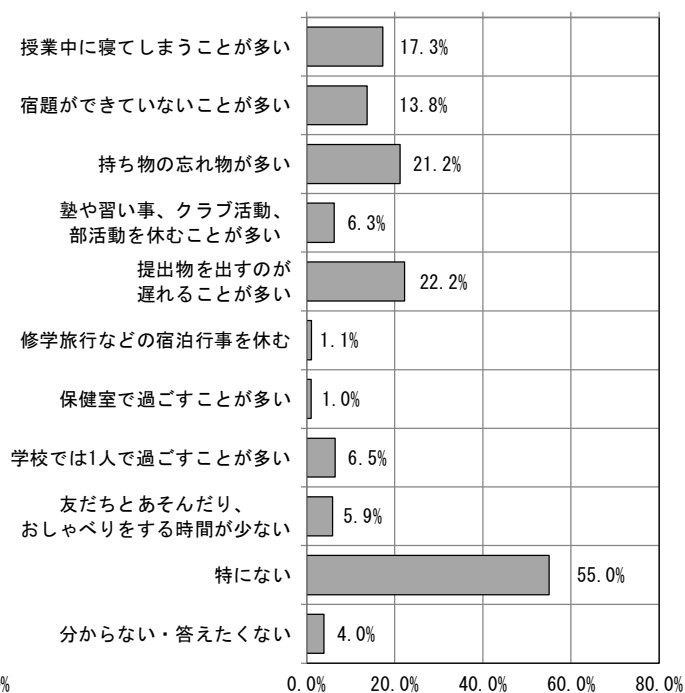
#### 小学生調査

n=1,189



#### 中学生調査

n=1,719



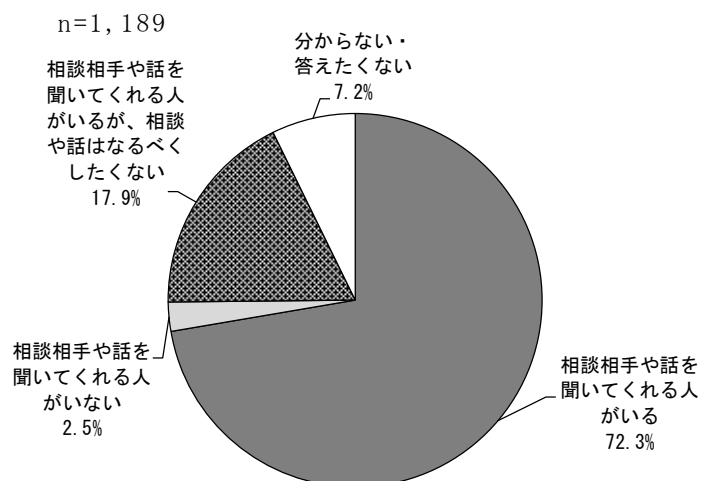
## ⑤相談相手の有無

問 9.「悩(なや)み」や「困っていること」があるとき、相談をしたり、話を聞いてくれる人が近くにいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

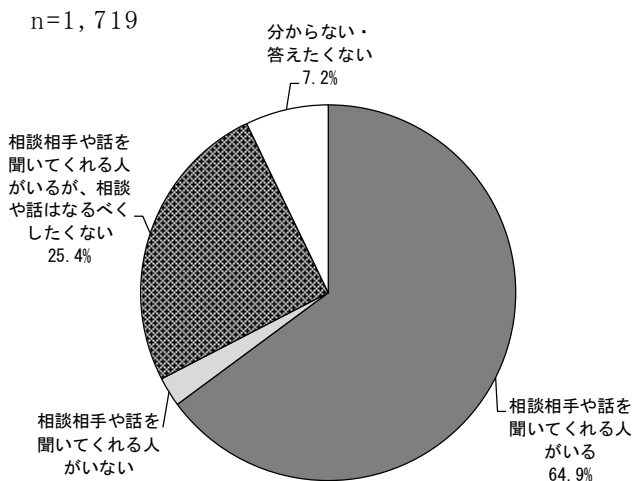
小学生調査では、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が 72.3%と最も多く、次いで「相談相手や話を聞いてくれる人がいるが、相談や話はなるべくしたくない」が 17.9%、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が 2.5%となっている。

中学生調査では、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が 64.9%と最も多く、次いで「相談相手や話を聞いてくれる人がいるが、相談や話はなるべくしたくない」が 25.4%、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が 2.6%となっている。

### 小学生調査



### 中学生調査



## ⑥悩みや困りごとの有無

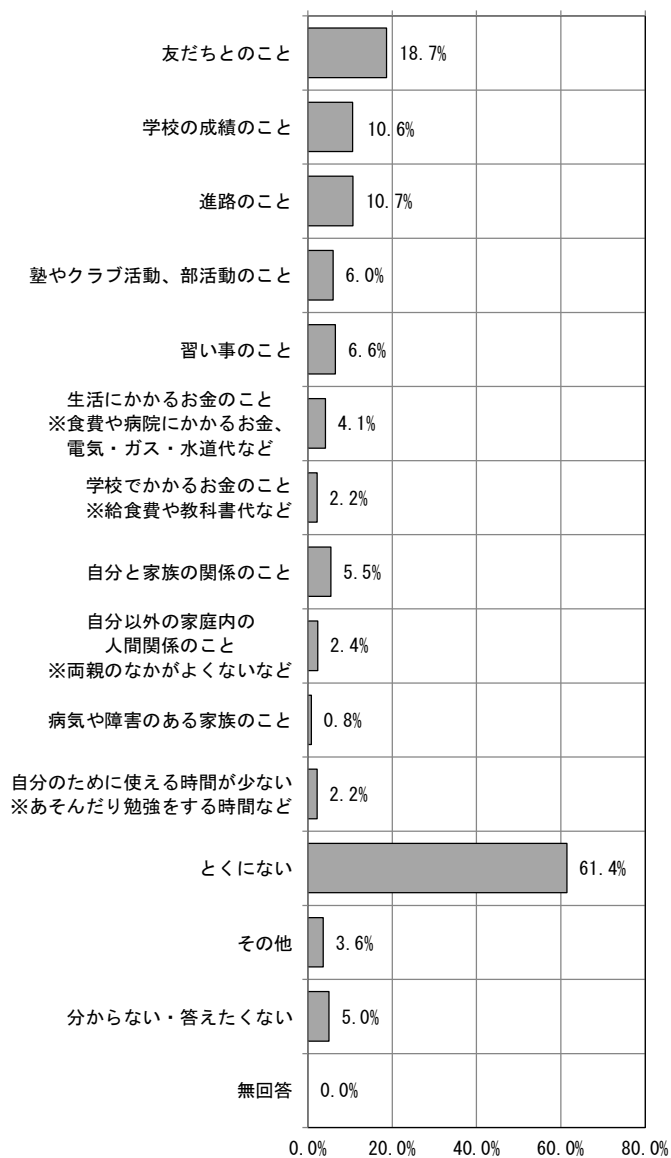
問 10. 今、悩(な)やん(ん)でいることや困(こ)っていることはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「友だちのこと」が 18.7%と最も多く、次いで「進路のこと」が 10.7%、「学校の成績のこと」が 10.6%となっている。「とくにない」は 61.4%となっている。

中学生調査では、「進路のこと」が 34.9%と最も多く、次いで「学校の成績のこと」が 32.0%、「友だちのこと」が 17.3%となっている。「特(と)くにない」は 42.6%となっている。

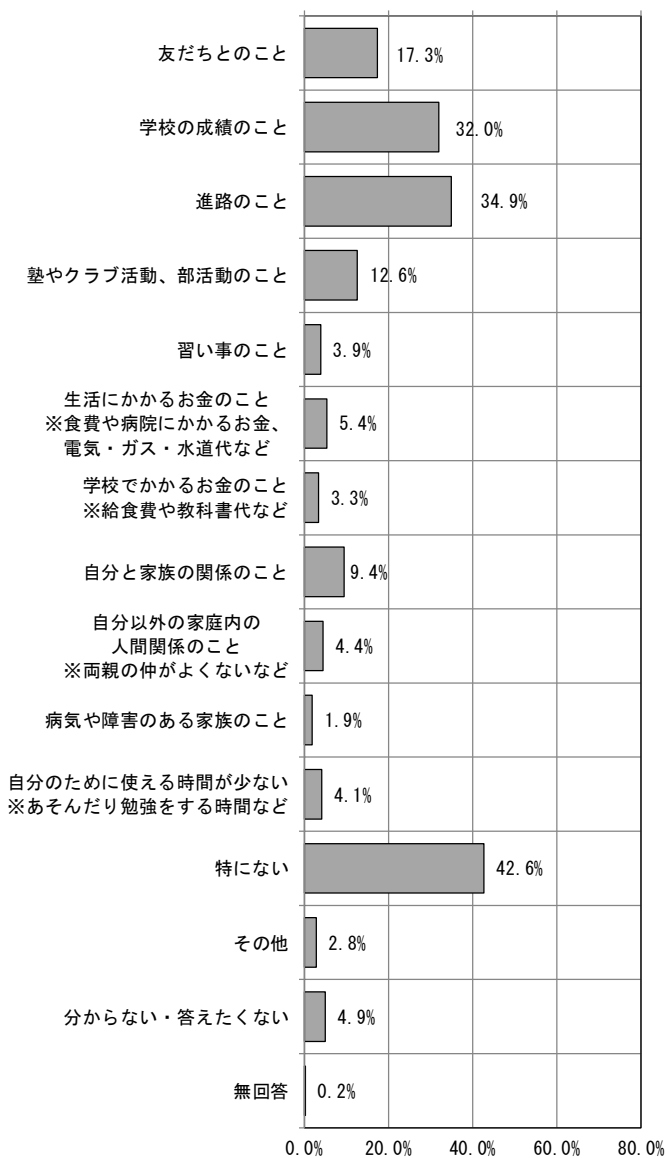
### 小学生調査

n=1,189



### 中学生調査

n=1,719



## ⑦相談先の認知状況

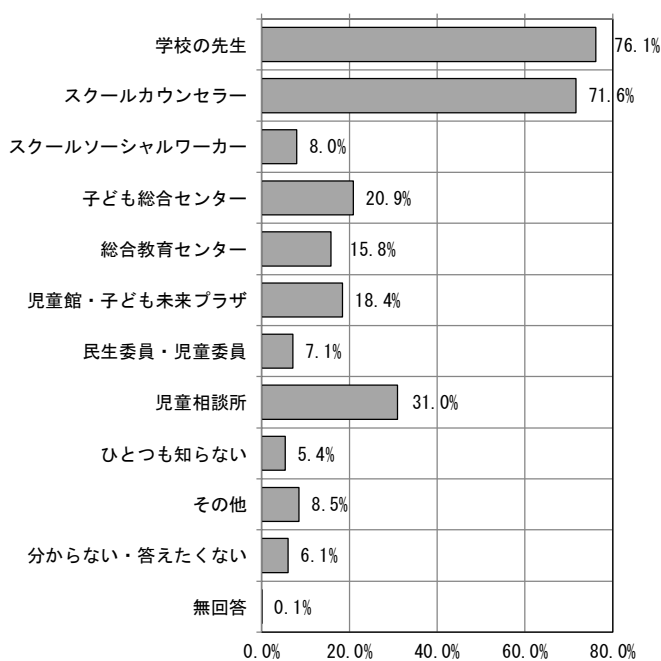
問 11.問 10 で答えた「悩(なや)み」や「困っていること」について、相談できる場所を知っていますか。知っているもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「学校の先生」が 76.1%と最も多く、次いで「スクールカウンセラー」が 71.6%、「児童相談所」が 31.0%となっている。

中学生調査では、「学校の先生」が 71.4%と最も多く、次いで「スクールカウンセラー」が 66.2%、「児童相談所」が 29.5%となっている。

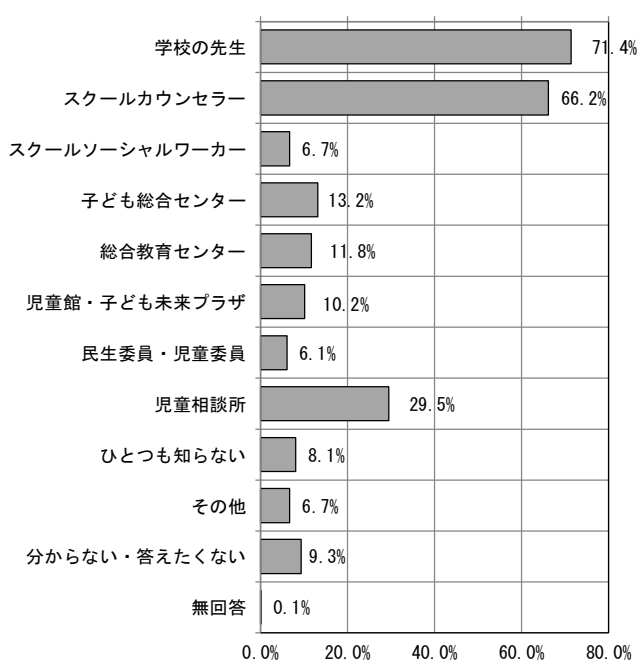
### 小学生調査

n=1,189



### 中学生調査

n=1,719



### 3 家族や家庭のことについて

#### ①家族のお世話をしているか

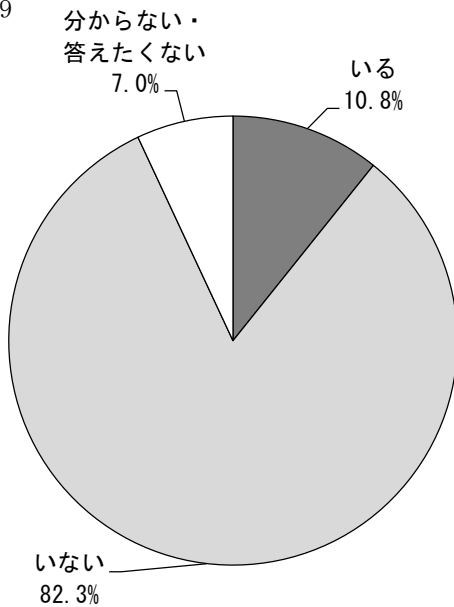
問 12.家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「いる」が10.8%、「いない」が82.3%となっている。

中学生調査では、「いる」が11.5%、「いない」が82.0%となっている。

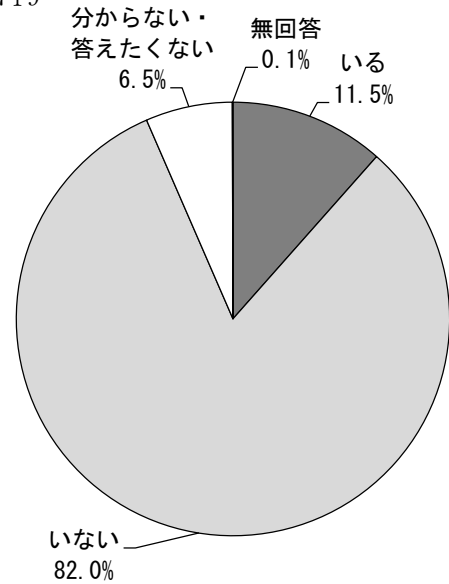
#### 小学生調査

n=1,189



#### 中学生調査

n=1,719





## ②お世話をしている相手

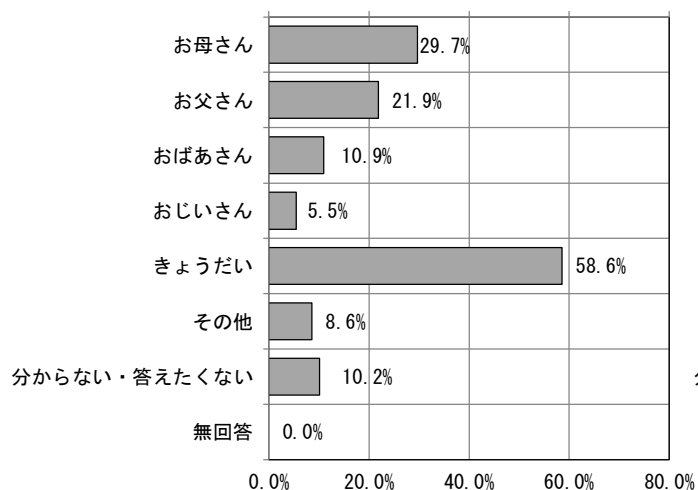
問 13.問 12 で「いる」と答えた人にお聞きします。あなたがお世話をしている人はだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「きょうだい」が 58.6%と最も多く、次いで「お母さん」が 29.7%、「お父さん」が 21.9%、「おばあさん」が 10.9%となっている。

中学生調査では、「きょうだい」が 61.6%と最も多く、次いで「お母さん」が 32.3%、「お父さん」が 20.2%、「おばあさん」が 12.6%となっている。

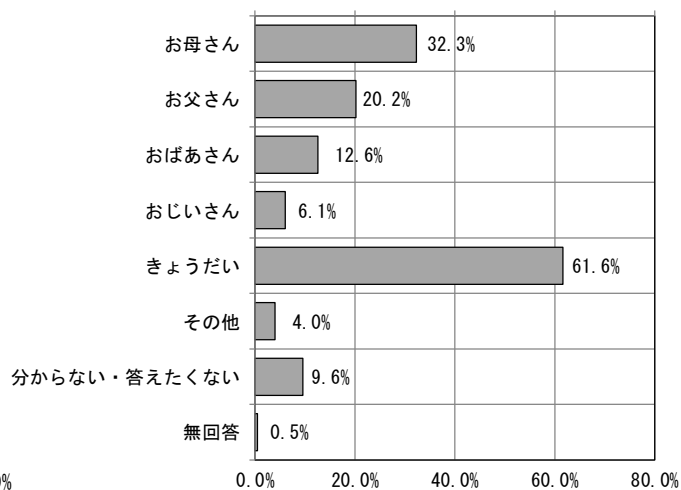
### 小学生調査

n=128



### 中学生調査

n=198



### ③お世話を必要としている理由

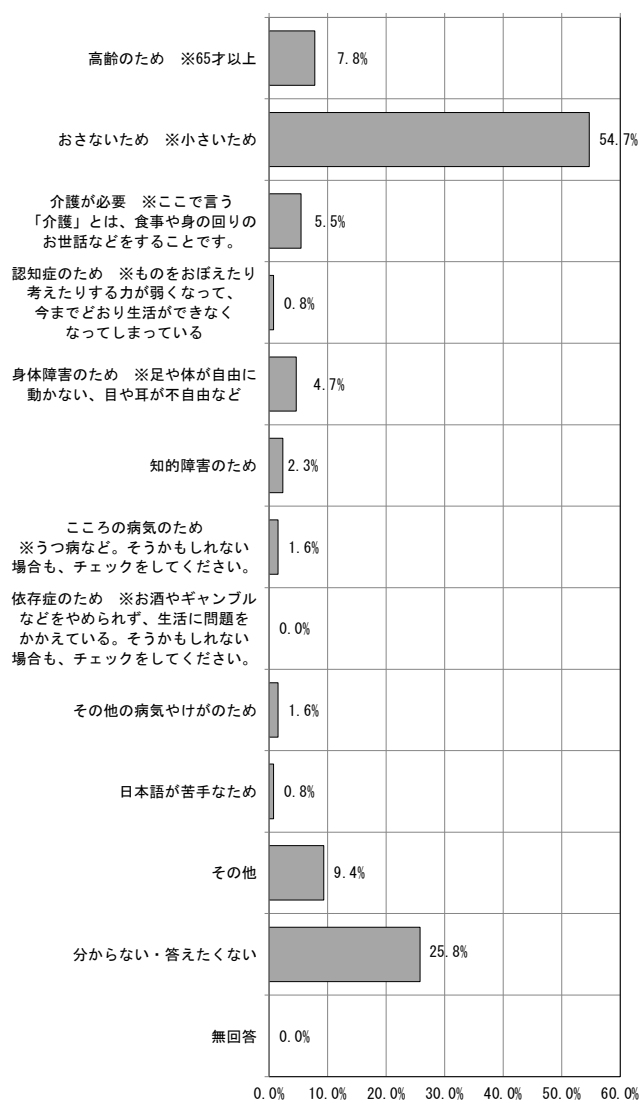
問 14.その人は、どのような理由でお世話を必要としていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「おさないため」が 54.7%と最も多く、次いで「その他」が 9.4%、「高齢のため」が 7.8%、「介護が必要」が 5.5%となっている。

中学生調査では、「おさないため」が 50.5%と最も多く、次いで「その他」が 11.1%、「高齢のため」が 7.1%、「日本語が苦手なため」が 6.6%となっている。

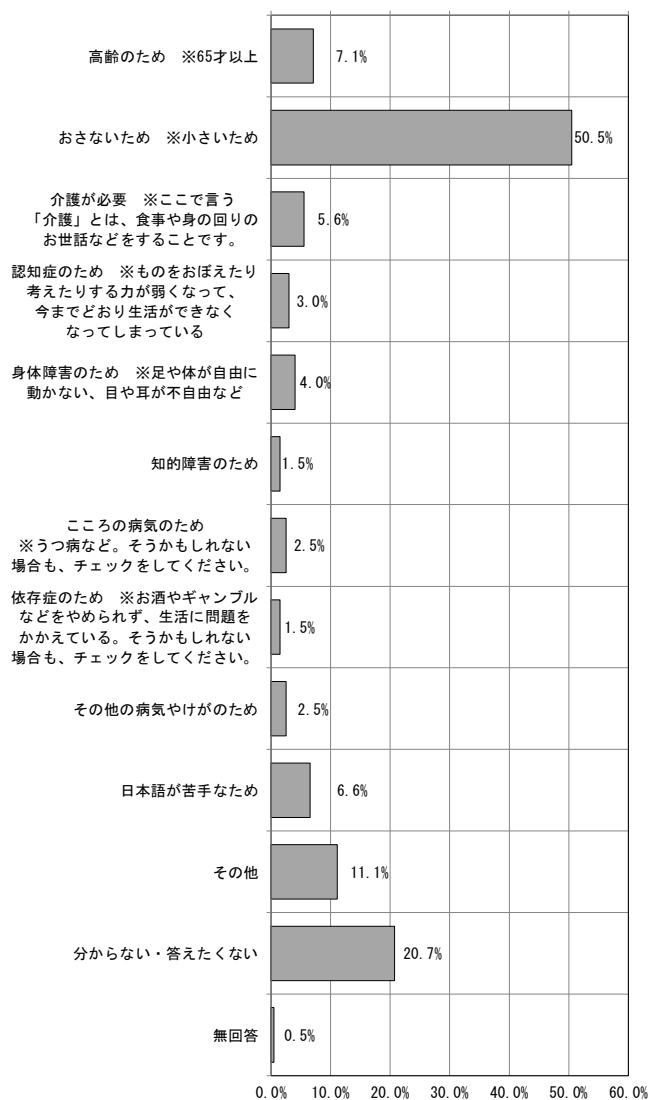
#### 小学生調査

n=128



#### 中学生調査

n=198



## ④どのようなお世話をしているか

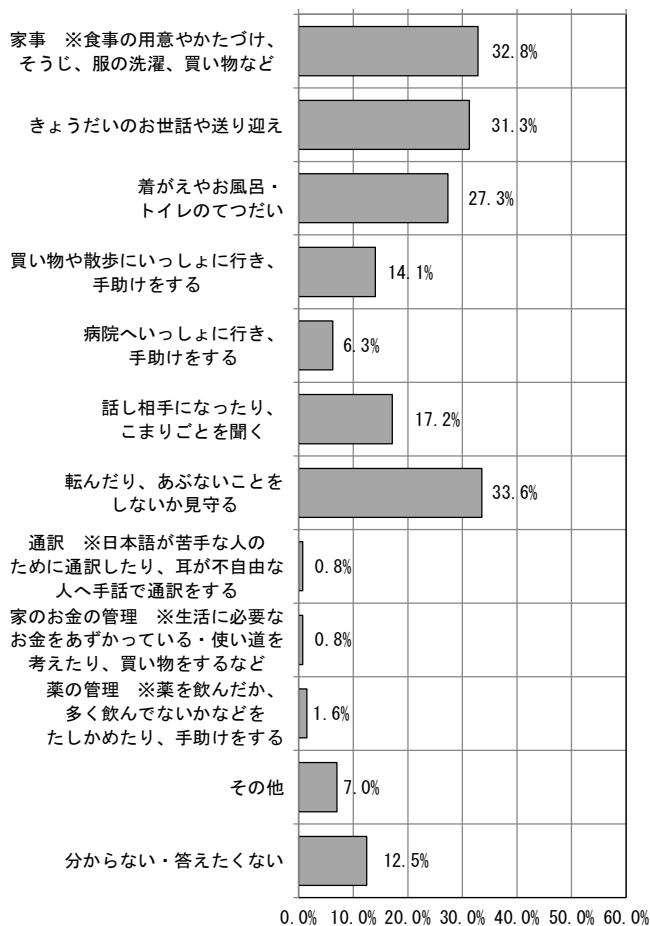
問 15.あなたはどのようなお世話をしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「転んだり、あぶないことをしないか見守る」が 33.6%と最も多く、次いで「家事」が 32.8%、「きょうだいのお世話や送り迎え」が 31.3%、「着がえやお風呂・トイレのてつだい」が 27.3%となっている。

中学生調査では、「家事」が 50.0%と最も多く、次いで「きょうだいのお世話や送り迎え」が 38.4%、「転んだり、危ないことをしないか見守る」が 27.3%、「着がえやお風呂・トイレの手伝い」が 24.2%となっている。

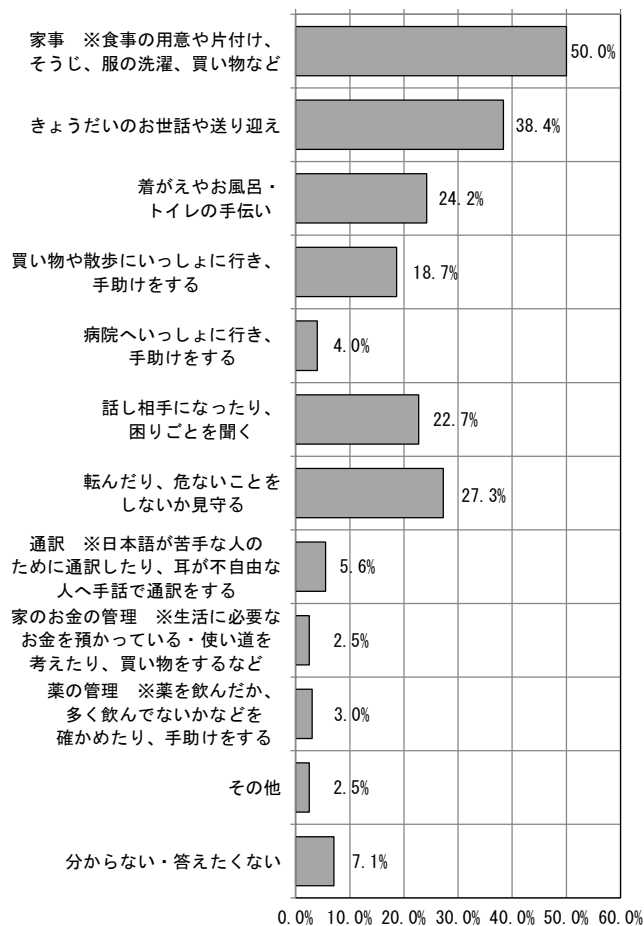
### 小学生調査

n=128



### 中学生調査

n=198



## ⑤一緒にお世話をしている人

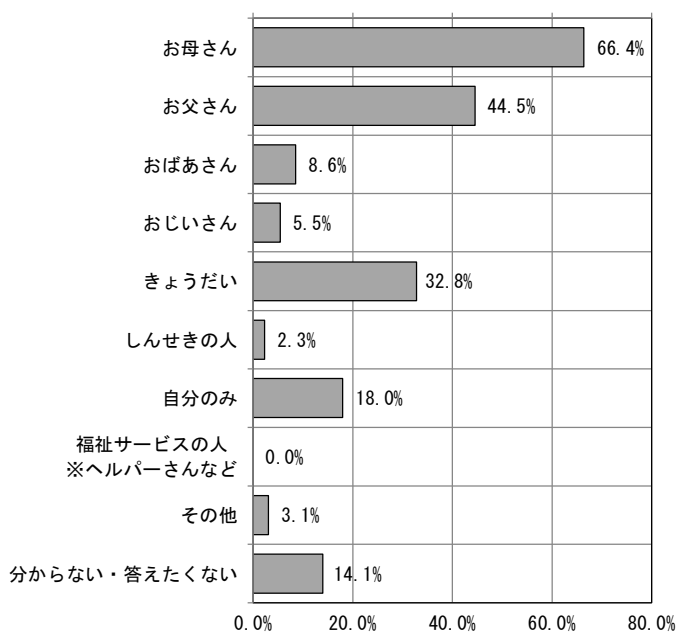
問 16.あなたはお世話をだれといっしょにしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「お母さん」が66.4%と最も多く、次いで「お父さん」が44.5%、「きょうだい」が32.8%、「自分のみ」が18.0%となっている。

中学生調査では、「お母さん」が62.6%と最も多く、次いで「お父さん」が47.5%、「きょうだい」が36.9%、「自分のみ」が18.7%となっている。

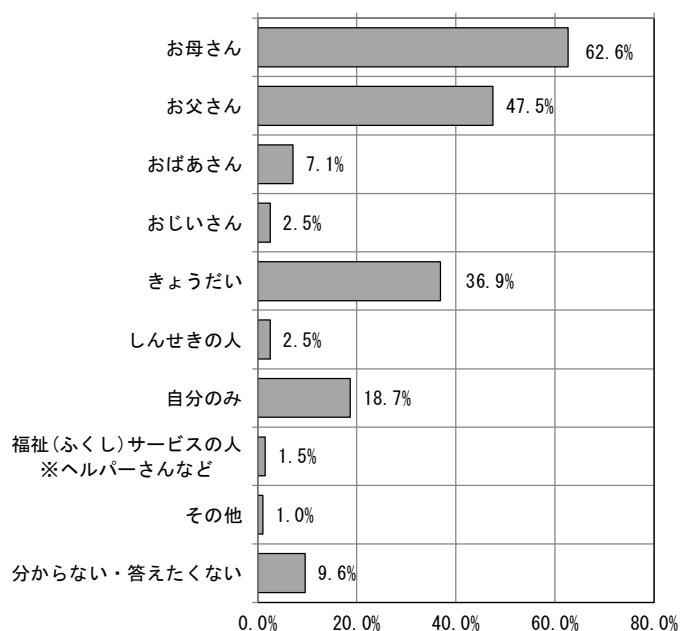
### 小学生調査

n=128



### 中学生調査

n=198



## ⑥お世話を始めた年齢

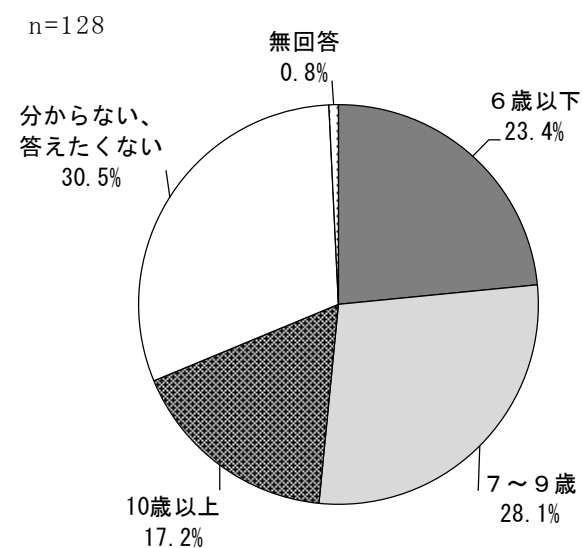
問 17.あなたはお世話を何才の時からしていますか。

※はっきりと分からない場合は、大体の年で答えてください。

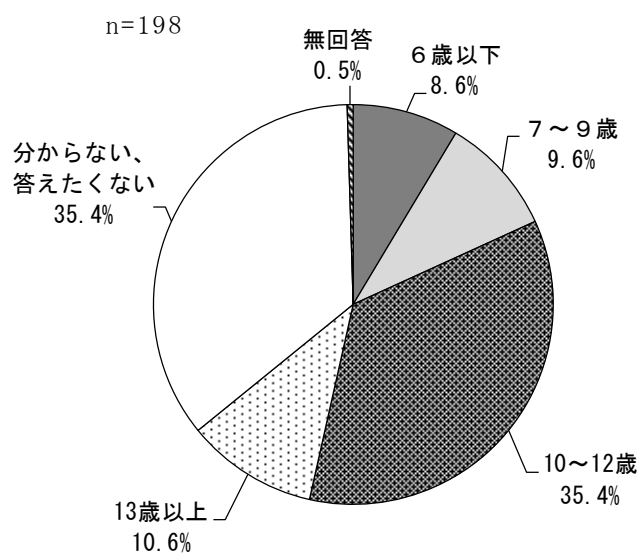
小学生調査では、「7～9歳」が28.1%と最も多く、次いで「6歳以下」が23.4%、「10歳以上」が17.2%となっている。

中学生調査では、「10～12歳」が35.4%と最も多く、次いで「13歳以上」が10.6%、「7～9歳」が9.6%、「6歳以下」が8.6%となっている。

### 小学生調査



### 中学生調査



## ⑦お世話をする頻度

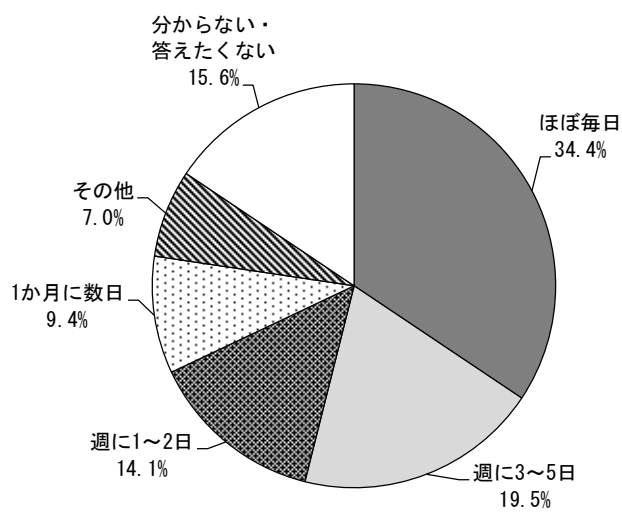
問 18.あなたはどれくらいお世話をしていますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「ほぼ毎日」が 34.4%と最も多く、次いで「週に3～5日」が 19.5%、「週に1～2日」が 14.1%、「1か月に数日」が 9.4%となっている。

中学生調査では、「ほぼ毎日」が 38.4%と最も多く、次いで「週に3～5日」が 20.7%、「週に1～2日」が 16.7%、「1か月に数日」が 5.6%となっている。

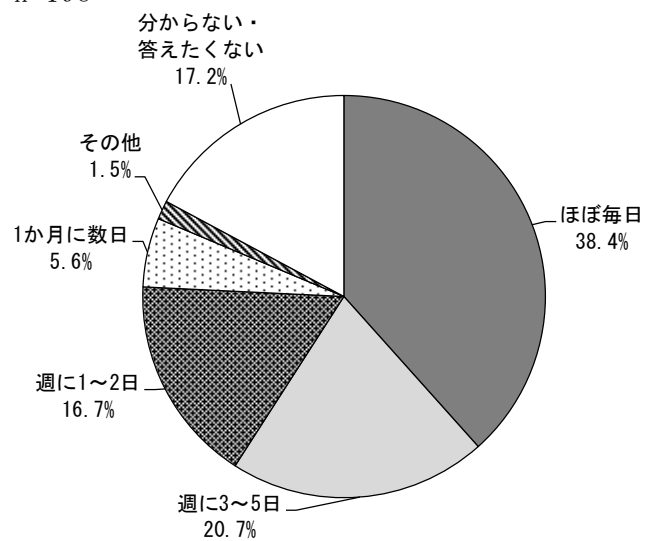
### 小学生調査

n=128



### 中学生調査

n=198



## ⑧お世話に費やす時間

問 19.あなたは1日のうち、何時間くらいお世話をしていますか。

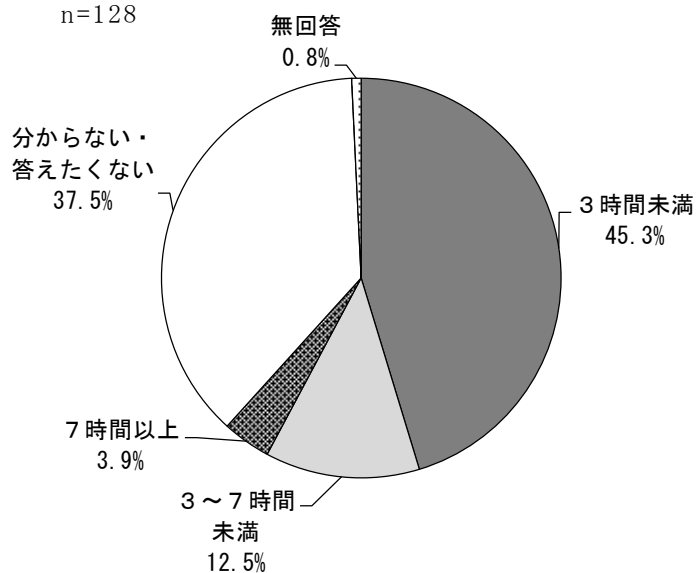
※日によってちがう場合は、この1か月でいちばん長かった日の時間を教えてください。

小学生調査では、「3時間未満」が45.3%と最も多く、次いで「3～7時間未満」が12.5%、「7時間以上」が3.9%となっている。

中学生調査では、「3時間未満」が39.4%と最も多く、次いで「3～7時間未満」が10.6%、「7時間以上」が4.5%となっている。

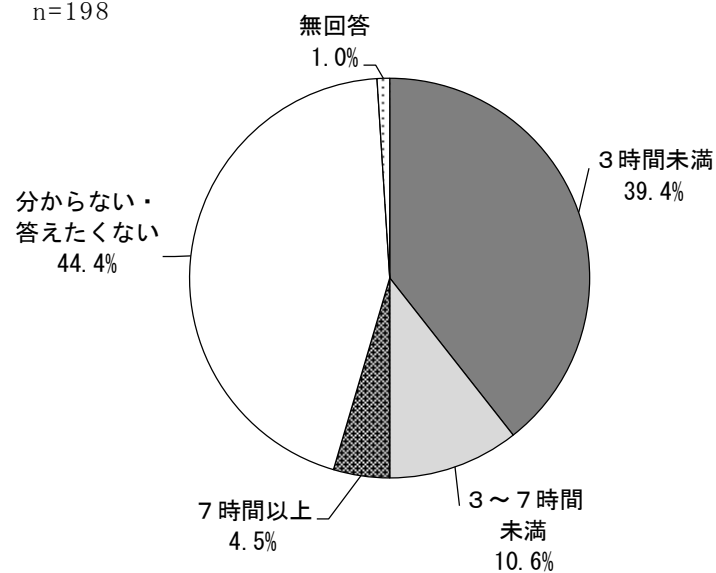
### 小学生調査

n=128



### 中学生調査

n=198



## ⑨お世話をすることで困ること

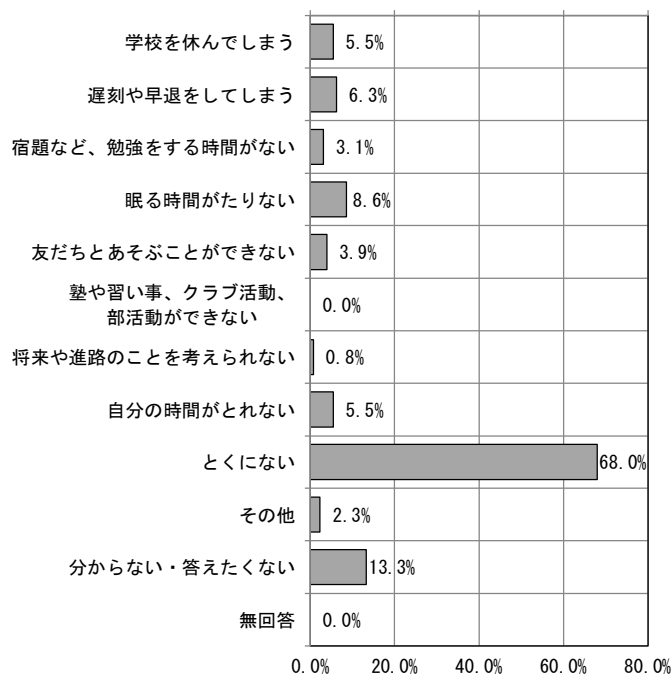
問 20.お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「眠る時間がたりない」が 8.6%と最も多く、次いで「遅刻や早退をしてしまう」が 6.3%、「学校を休んでしまう」が 5.5%となっている。「とくにない」は 68.0%となっている。

中学生調査では、「自分の時間がとれない」が 15.7%と最も多く、次いで「宿題など、勉強をする時間がない」が 9.6%、「友だちとあそぶことができない」が 8.6%となっている。「特にない」は 61.1%となっている。

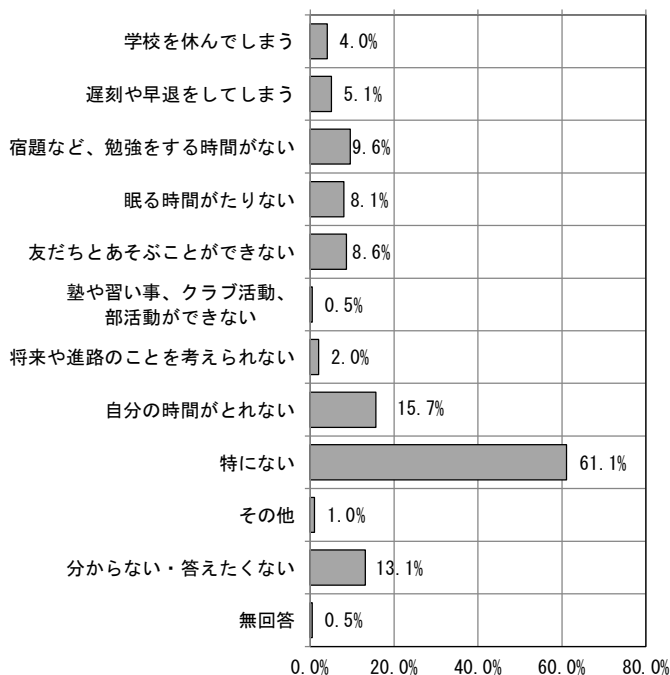
### 小学生調査

n=128



### 中学生調査

n=198





## ⑩お世話をすることに大変さを感じているか

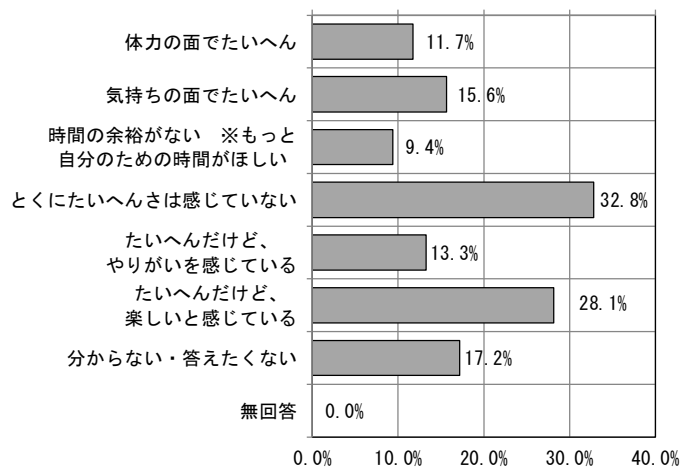
問 21.お世話をすることに大変さを感じていますか。あてはまるもの全てにチェックしてください。

小学生調査では、「とくにたいへんさは感じていない」が 32.8%と最も多く、次いで「たいへんだけれど、楽しいと感じている」が 28.1%、「気持ちの面でたいへん」が 15.6%、「たいへんだけれど、やりがいを感じている」が 13.3%となっている。

中学生調査では、「特に大変さは感じていない」が 34.3%と最も多く、次いで「気持ちの面で大変」「大変だけれど、楽しいと感じている」がそれぞれ 18.2%、「大変だけれど、やりがいを感じている」が 17.7%となっている。

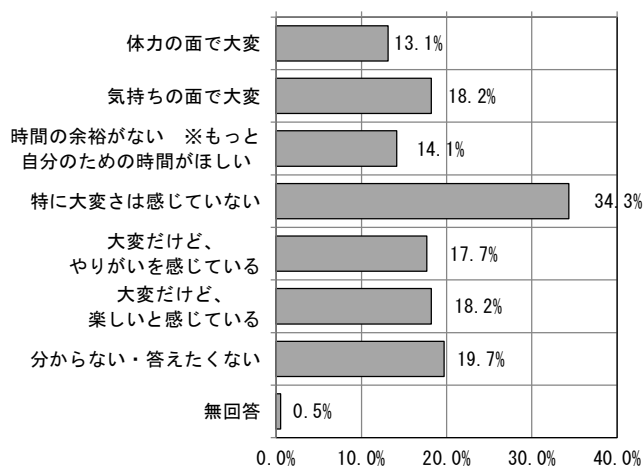
### 小学生調査

n=128



### 中学生調査

n=198



### ⑪お世話の悩みを相談したことがあるか

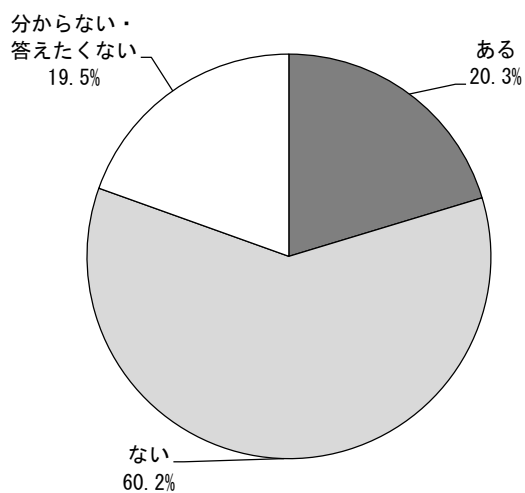
問 22.あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩(なや)みをだれかに相談したことはありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「ある」が20.3%、「ない」が60.2%となっている。

中学生調査では、「ある」が17.2%、「ない」が68.7%となっている。

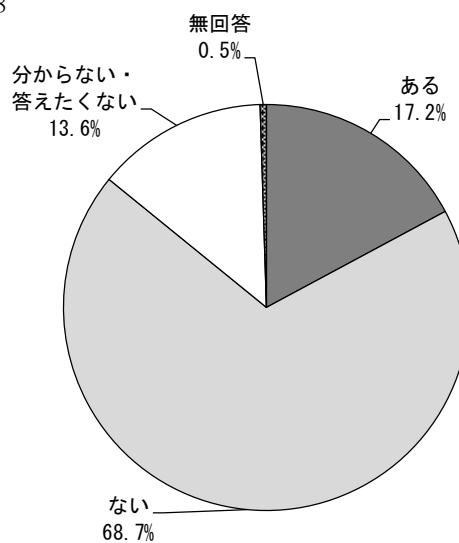
#### 小学生調査

n=128



#### 中学生調査

n=198



## ⑫相談した相手

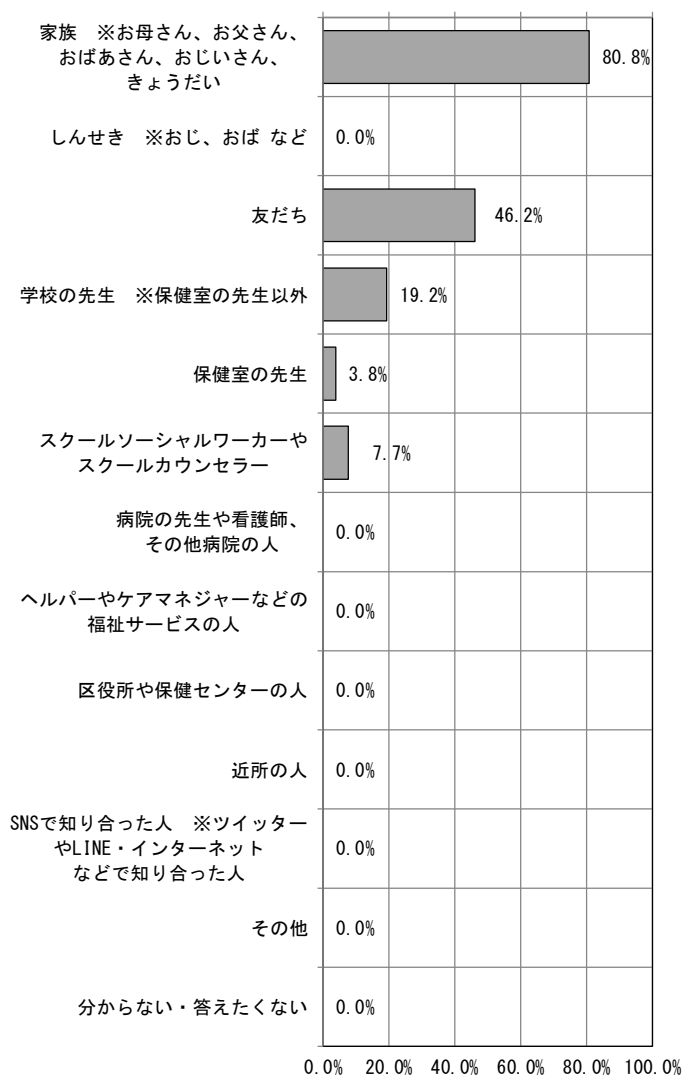
問 23.問 22 で「ある」と答えた人にお聞きします。それはだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「家族」が80.8%と最も多く、次いで「友だち」が46.2%、「学校の先生」が19.2%、「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」が7.7%となっている。

中学生調査では、「家族」が61.8%と最も多く、次いで「友だち」が50.0%、「学校の先生」が23.5%、「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」が14.7%となっている。

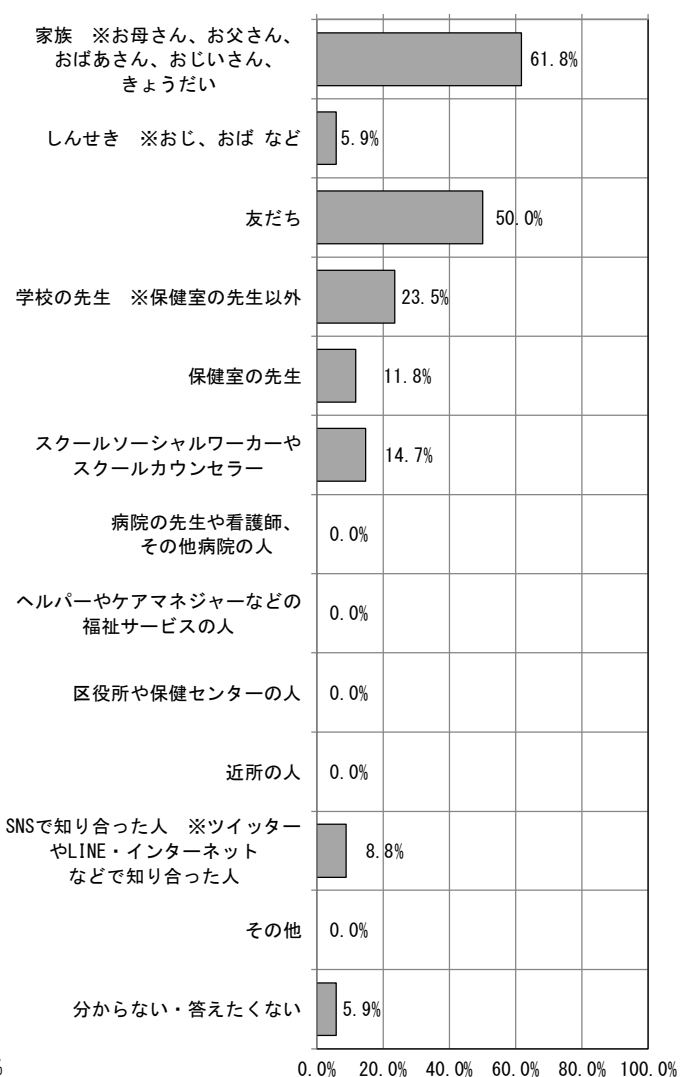
### 小学生調査

n=26



### 中学生調査

n=34



### ⑬相談していない理由

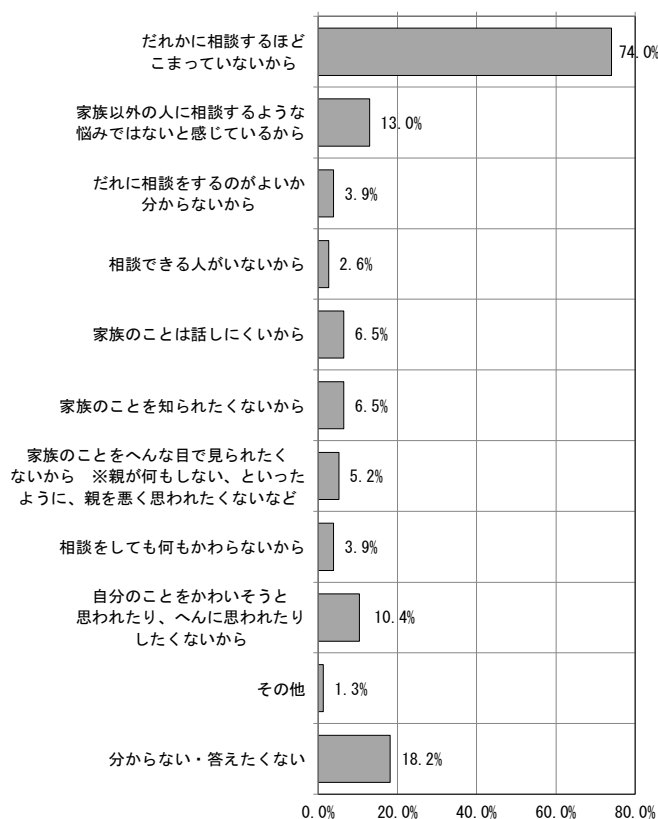
問 24.問 22 で「ない」と答えた人にお聞きます。相談していない理由を教えてください。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「だれかに相談するほどこまっていないから」が 74.0%と最も多く、次いで「家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから」が 13.0%、「自分のことをかわいそうと思われたり、へんに思われたりしたくないから」が 10.4%、「家族のことは話しにくいから」「家族のことを知られたくないから」がそれぞれ 6.5%となっている。

中学生調査では、「だれかに相談するほど困っていないから」が 69.1%と最も多く、次いで「家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから」が 13.2%、「相談をしても何も変わらないから」が 12.5%、「家族のことを変な目で見られたくないから」が 4.4%となっている。

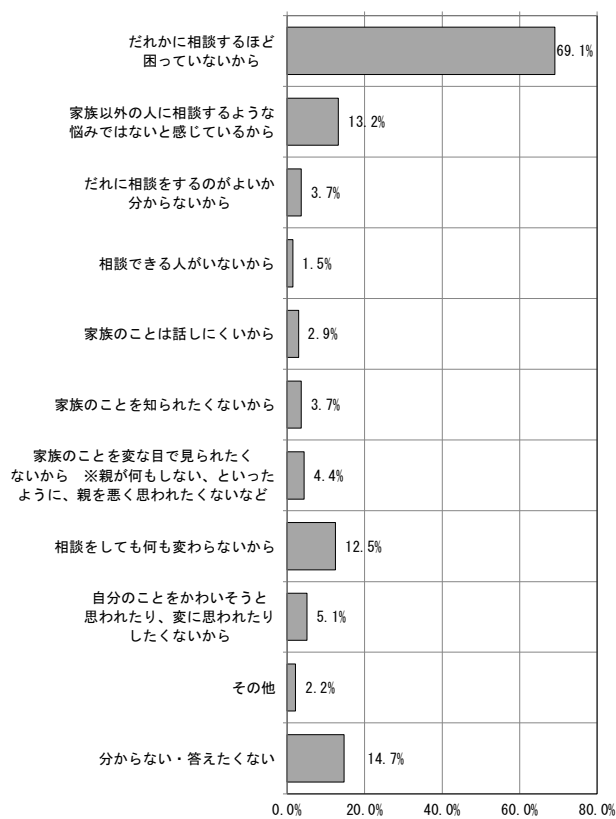
#### 小学生調査

n=77



#### 中学生調査

n=136



#### ⑭お世話について聞いてくれる人がいるか

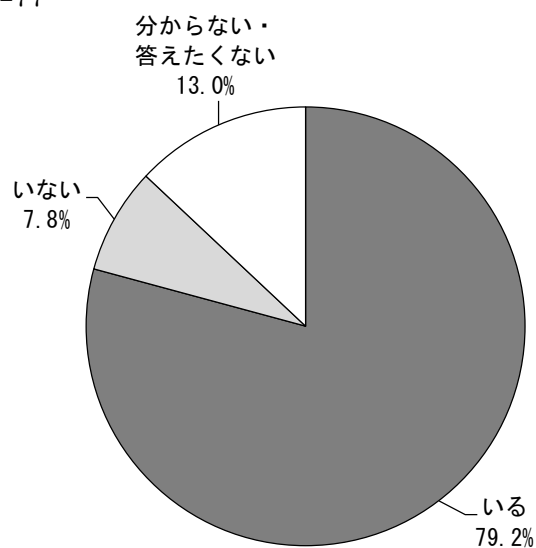
問 25.問 22 で「ない」と答えた人にお聞きします。お世話をしている家族のことや、お世話の悩(なや)みを聞いてくれる人は近くにいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「いる」が79.2%、「いない」が7.8%となっている。

中学生調査では、「いる」が71.3%、「いない」が14.7%となっている。

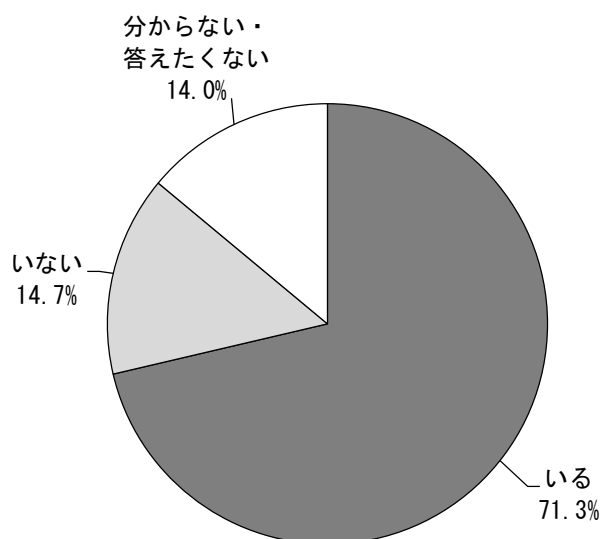
#### 小学生調査

n=77



#### 中学生調査

n=136



## ⑮学校や周りの大人にしてもらいたいこと

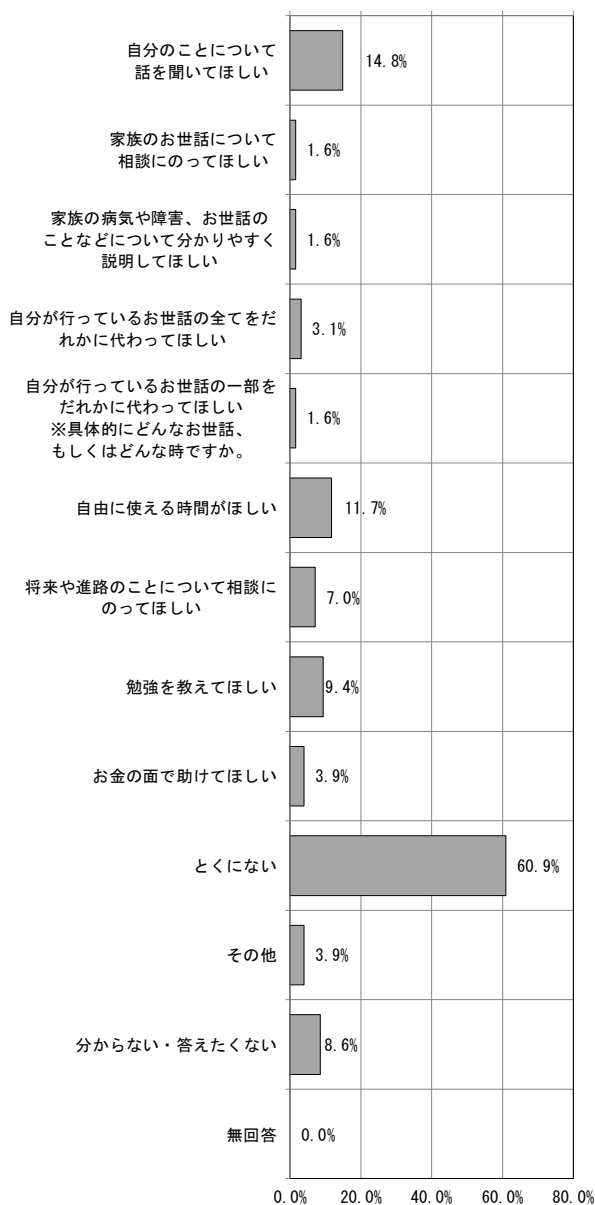
問 26.学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「自分のことについて話を聞いてほしい」が 14.8%と最も多く、次いで「自由に使える時間がほしい」が 11.7%、「勉強を教えてほしい」が 9.4%となっている。「とくにない」は 60.9%となっている。

中学生調査では、「勉強を教えてほしい」が 22.7%と最も多く、「自由に使える時間がほしい」が 14.6%、「自分のことについて話を聞いてほしい」が 14.1%となっている。「特にない」は 52.0%となっている。

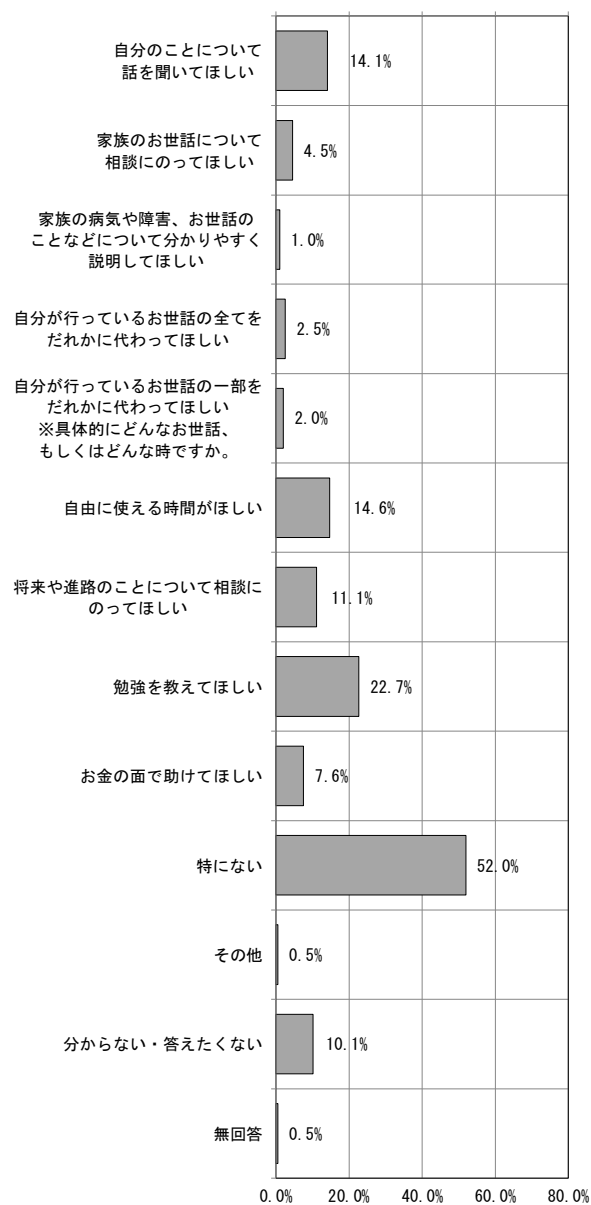
### 小学生調査

n=128



### 中学生調査

n=198



## ⑩ 希望する相談方法

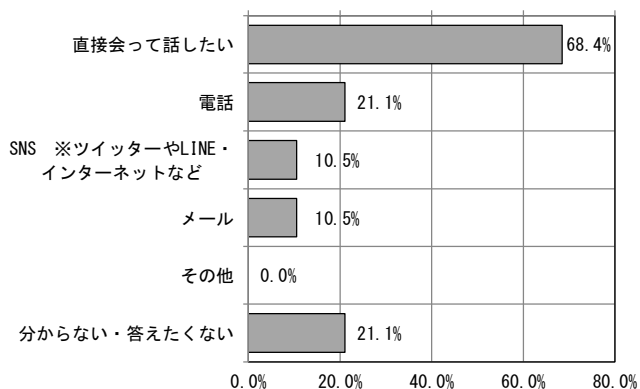
問 27.問 26 で「自分のことについて話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた人にお聞きします。どのようなやり方で話や相談をしたいですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「直接会って話したい」が 68.4%と最も多く、次いで「電話」が 21.1%、「SNS」「メール」がそれぞれ 10.5%となっている。

中学生調査では、「直接会って話したい」が 50.0%と最も多く、次いで「SNS」が 33.3%「電話」「メール」がそれぞれ 13.3%となっている。

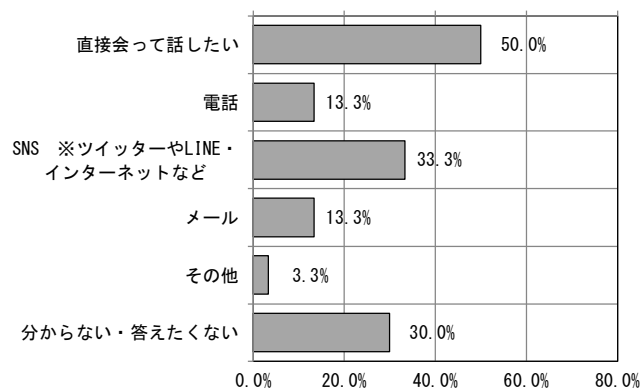
### 小学生調査

n=19



### 中学生調査

n=30



## 4 ヤングケアラーについて

### ①「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか

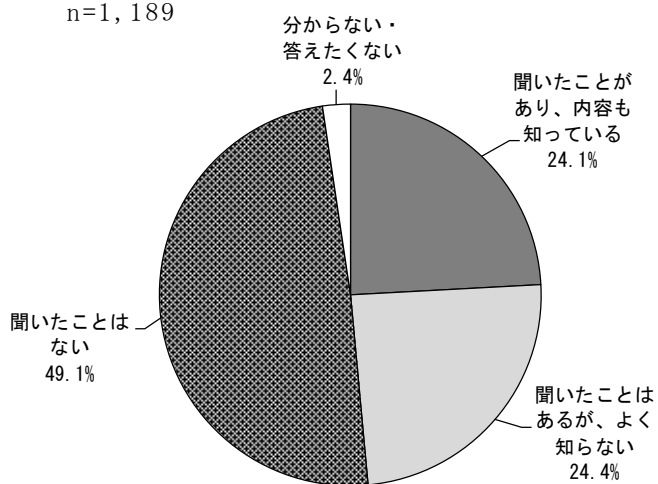
問 28.「ヤングケアラー」という言葉を、これまでに聞いたことがありましたか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「聞いたことはない」が 49.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が 24.4%、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 24.1%となっている。

中学生調査では、「聞いたことはない」が 55.2%と最も多く、次いで「聞いたことがあり、内容も知っている」が 23.1%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 19.3%となっている。

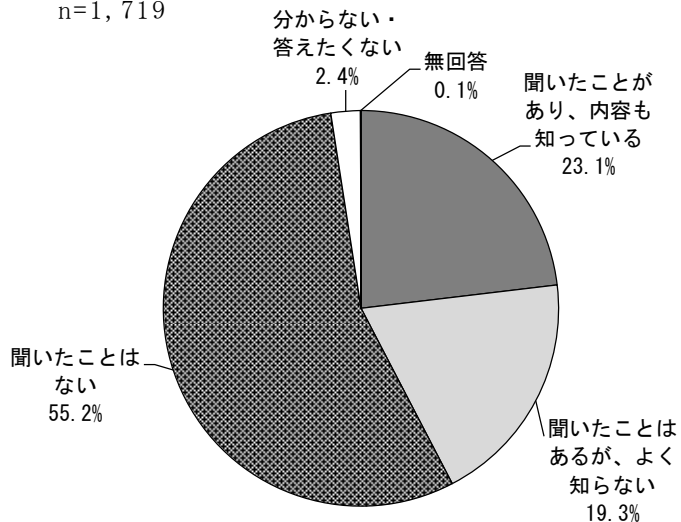
#### 小学生調査

n=1,189



#### 中学生調査

n=1,719





## ②「ヤングケアラー」という言葉を知った方法

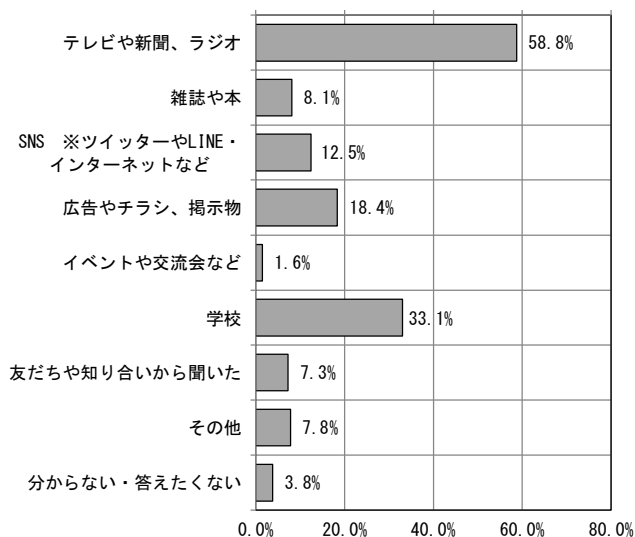
問 29.問 28 で「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた人にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

小学生調査では、「テレビや新聞、ラジオ」が 58.8%と最も多く、次いで「学校」が 33.1%、「広告やチラシ、掲示物」が 18.4%、「SNS」が 12.5%となっている。

中学生調査では、「テレビや新聞、ラジオ」が 62.8%と最も多く、次いで「SNS」「学校」がそれぞれ 25.4%、「雑誌や本」が 10.9%となっている。

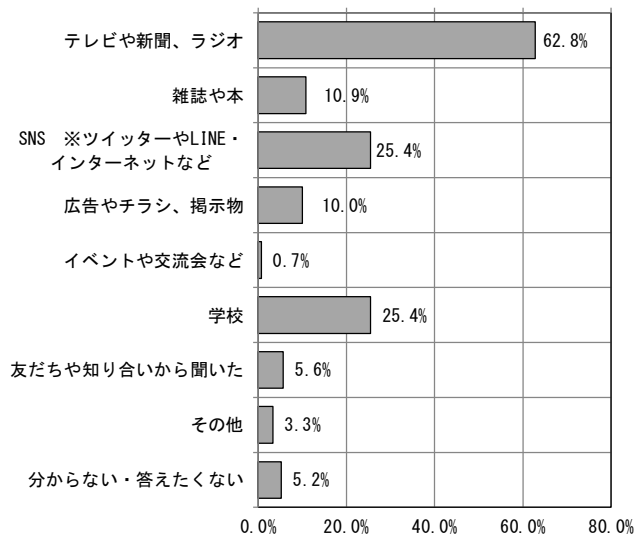
### 小学生調査

n=577



### 中学生調査

n=728



### ③自分が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか

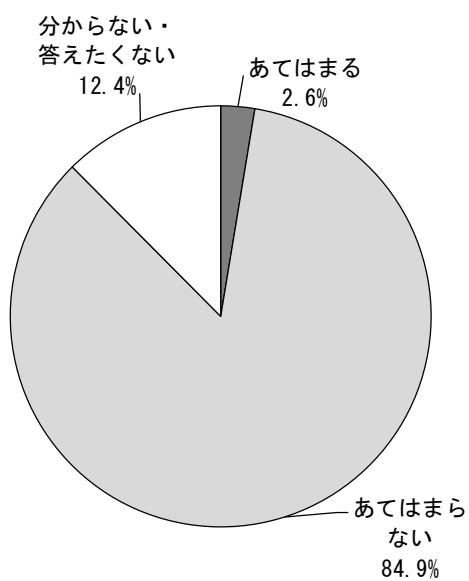
問 30.あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

小学生調査では、「あてはまる」が 2.6%、「あてはまらない」が 84.9%となっている。

中学生調査では、「あてはまる」が 2.5%、「あてはまらない」が 84.4%となっている。

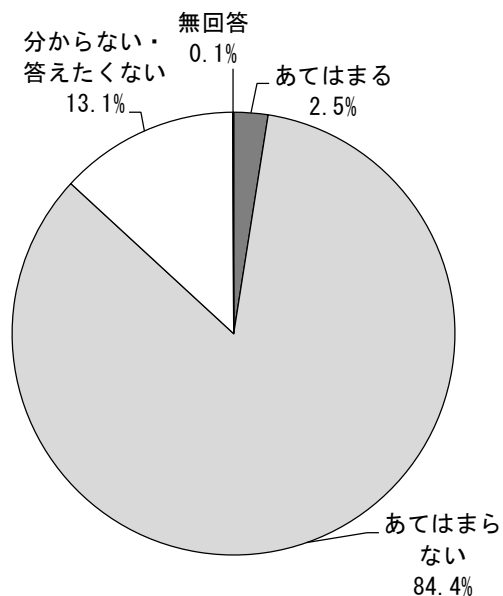
#### 小学生調査

n=1,189



#### 中学生調査

n=1,719



## 5 自由意見

問 31.自由に入力してください。

家族のお世話をしている子どもやヤングケアラーのために、必要だと思うこと、学校や周りの人にしてもらいたいこと、このアンケートへの感想、悩(なや)みや区役所にやってほしいことなど、何でも入力してください。

自由意見には小学生から 495 件、中学生から 616 件の回答があった。「きょうだいの世話は楽しいが、大変なこともある」「ヤングケアラーの代わりに、専門職の人やボランティアが世話をするようにしてほしい」「ヤングケアラーは想像しているより大変だと思うので、心のケアをしてほしい」「学校などで授業中寝てしまったりした時に、叱るのではなく事情を聞いて優しく接してほしい」などの意見があった。

### 自由意見(小学生・主な回答)

①ヤングケアラーのために私がしてほしいことは、その子供を助ける人を用意してほしいです。なぜなら、子供にも友達を作ったり話したり勉強したり大人に甘えるなどの権利を持っています。私は、友達もたくさんいるし休み時間はいつも友達といます。また、親や大人に甘えています。そのようにしたくてもできないという子供を減らしたいからです。また、相談もしてほしいです。私のクラスにももしそういう子がいたら私ではなくてもいいからぜひ 1 人で抱え込まないで相談しやすい人に相談してほしいです。

②困っている人を見つけて、家政婦などを雇ってあげたり、お金を寄付して生活を送って楽にしたりしてあげる。このアンケートをしてみて自分はヤングケアラーではないけどヤングケアラーの人はたくさんいることがわかり、自分は幸せな生活をしているということを知ることができた。子供がクラブ活動や塾に行くことができるように、区役所の職員を送り今まで世話を姉弟や子供のために兄弟や親などの介護が必要な人のために働く(お金無しで)。相談できる窓口を作る。食事を届ける。

③あんまり無理せずしっかり休むなど、体調を崩さないように子供も代わりにする人を募集したり、支援活動のようなものをつくる。

④お世話されている人を専門の人に世話をもらい、ヤングケアラーが自由になれる場を設けてほしい。

⑤こどもがお世話をしていると、学校に行けなかったり自分のしたいことができなかつたりするから地域の人も協力してお世話をした方がいいと思う。このアンケートで少しでも気が楽になった人がいるといいなと思う。悩んでいる時や困っているときは近くに相談できる人がいるから、相談したい。近くにいる人に言いづらかったら、電話で相談したい。

<p>⑥その内容で困っているのなら、近くの自分や仲間達に教えて欲しいし、友達に相談しづら いなら、先生やスクールカウンセラーに相談して欲しい。とにかく一人で抱え込まないことが一 番だと思う</p>
<p>⑦ヤングケアラーで、困っている人のために「ヤングケアラーのための募金」をしたらいいと思 います。学校の募金の半分をヤングケアラーの募金に使えば、買う物で困ったりすることが減 ると思います。他にも募金のためにコンビニなどの募金をすればいいと思います。もう1つは、 その募金のお金でお水・服・食糧などを寄付するのが良いと思います。この意見が参考にな ってヤングケアラーの人が減るのを願っています。</p>
<p>⑧ヤングケアラーで困っている人のために、無料で養ってくれる施設や、身近に相談できる施 設を増やしていくべきだと思います。また、学校側でも全面的にサポートしていき、教育費など を国が多く負担するべきだと思います。さらに、このアンケートをとおして普段言えない悩みが ある人が相談できで、困っている人が少しでも減ることを願っています。また、区役所には、こ のアンケートのような、ヤングケアラーの実態調査や、相談できる場を設けることを定期的にや って行ってほしいと思いました。</p>
<p>⑨ヤングケアラーのためにお手伝いの人を家に呼んで家事などをやってもらう事がいいと思 います。難しいことかもしれないけど、本来大人がやることを子どもがやるというのはその子のやり たいことが出来なくなってしまうかもしれないからたよれる大人の人にたのんだほうがいいと思 いました。</p>
<p>⑩ヤングケアラーの人達のために、子供たちがほとんどの世話するのではなく、ボランティアの 人達を集めてボランティアの人と子供で頑張れば辛い思いをするのが減ると思います。</p>
<p>⑪ヤングケアラーの存在を世間に知ってもらい、ヤングケアラーの人を周りの人が助ける状 況を作るべきなのかなと思いました。そのためにはヤングケアラーだと気づいてあげる必要がある と思うから地域の住民や近隣住民で関わり合う機会を作ればいいのかなと思いました。ヤング ケアラー本人にならないと気持ちはわからないけれど、少しでも負担を減らすことが出来れば いいなと思いました。</p>
<p>⑫家族のお世話をしている子どもは、自分のこともしないといけないし、家族のこともやらない といけないから、1人だととても辛いと思うからそれに気づいた人は見てみぬふりをせず、すぐ に声を掛けて悩みを聞いてあげたり、手伝いをしてあげたらいいと思いました。</p>
<p>⑬家族のために自分の時間を使ってまでするヤングケアラーの子はすごいなと思いました。区 役所の人にやって欲しいことはできたらで良いんですけど、ヤングケアラーの子たちに将来の ためにも自分の時間を作るために呼びかけや、ボランティア活動など様々なボランティア活動 を作ってヤングケアラーの子たちを少しでも早く休ませてあげたいので、ボランティア活動や呼 びかけをして欲しいです。もちろんヤングケアラーの子たちだけではなく、その他に困っている 子どもがいれば、その子たちのためのボランティア活動や、呼びかけもして欲しいと思っていま</p>

<p>す。私もできるだけ他人に任せるのではなく、自分にできることを、1つ1つしっかり進めてできるだけ皆さんのお役に立てるよう努力するので皆様と一緒にこのような活動が出来たらいいなと思っています。</p>
<p>⑭学校などで授業中寝てしまったりした時に怒ったり叱るのではなく事情を聞いて優しく接することが大事。家族問題のことがいじめになっているところを見たことがあるので周りの人が見て見ぬふりをするのではなくしっかり助ける。</p>
<p>⑮学校の友達はやングケアラーという存在を知らない人もいるかもしれないので、機会があれば学校でわからない人へ向けて説明会のようなことをやらせてもらってヤングケアラーの人がもしいて同じクラスになったとしても理解を得ていじめなどを受けないように、サポートできるようなことまではいいと思うけど、声かけができるようになったらいいかなと思います。</p>

自由意見(中学生・主な回答)
<p>①別にない。お世話とか好きでやってるし楽しい。でも時々大変だなあと思うことはある。お姉さんなんだからとかほんと頼りになるとか言われると期待に応えなきゃって思っがんばっちゃうから自分のペースで楽しくお世話したいなあとは思う。でも相手が大変な時や困ってる時には頼りにしてほしい。</p>
<p>②実際におばあちゃんが脳梗塞で、記憶がちよくちよく吹っ飛んだり、思考がおかしくなったりと、あって大変です。特に、記憶が吹っ飛んで、自分の発言を忘れてたりとする時が一番大変です。自分で言っていたのに、数分、悪いと数十秒で、「そんな事言ってない」と言うのです。昔からおばあちゃんが、育児、家事を全てやってくれていました。なのに、今では、全てはやらなくなりました。行動は、やったはずなのに、「私はやってない」と言うのです。少し困ります。</p>
<p>③ヤングケアラーに寄り添い、的確なサポートや、ケアが必要だと思う。ヤングケアラーたちは、その状況から逃げたくても逃げられない人もいると思うし、苦しい思いをしている人も少なからず居ると思う。私もヤングケアラーだった。自分がちゃんとしなくてはいけない、弱音を吐くことのできない状況は、一種の暴力を受けていると思う(ヤングケアラーの親が悪いとか、誰かが悪いというわけではなく、そのような状況にさせてしまった社会のせいであると思う)。</p>
<p>④私の友達にお母さんが病気になってしまい部活動をやめた子がいます。その子のお母さんはもう病気は治ったみたいですが、その頃の子はいつもと変わらない様子で生活していたので、普通に接していいのかわかりませんでした。</p>
<p>⑤必要だと思うこと。1つ目は無理をしないことです。なぜなら、無理をしすぎると自分の身体に影響を及ぼしたり、ストレスが溜まって何もできなくなったりするからです。2つ目は1人に任せずに周りの人も手伝うことです。なぜなら、ヤングケアラーの人は病気や体の不自由な人のお世話をしている人でその体の不自由な人のみと暮らしている訳ではないです。だから例えばお姉さんが病気で看病してもらっているんだとしたら、お姉さん以外の人(病気じゃない人:</p>

<p>お父さん・お母さんなど)と一緒に手助けしてあげることも大切だと思います。</p>
<p>⑥学校や周りの人にしてもらいたいこと。もし仮に自分の周りにヤングケアラーの方がいるんだとしたらその方の手助けをしてあげてほしいと思います。例えば学校の場合、生徒にヤングケアラーの子がいるとしたら悩んでるとしたら相談に乗ってあげるなど、家族の中にいるんだとしたら体が不自由だったり、病気以外の方がヤングケアラーの方の手助けをしてあげてほしいとおもいます。</p>
<p>⑦第一にその方々の心のケアが大切だと思った。私はヤングケアラーの方々は私達が想像しているよりも辛いのではないかと思う。実際になっていないから分からないが、きっと相談をすることで少しは楽になってくれるんじゃないかと思った。</p>
<p>⑧このヤングケアラーについて思ったことは、子どもの親が家事ができないようでその子供が家事をせざるを得ない人が世の中にいます。この事態について、学業にも影響があります。他にもいろいろありますが、とにかく支援をしてほしいです。</p>
<p>⑨とりあえず話だけでも聞いてあげた方がいいと思う。自分が気づかないうちに抱え込んでいる人や、それが普通だと思って生活している人もいると思うから。また、聞いてみて本人に何をしたいか聞いてみたり、一緒に考えたりすることが重要だと思った。</p>
<p>⑩なるべく当人たちの望みを叶えてほしい。ヤングケアラーだと特別扱いされたくない人も便宜を図ってほしい人も、他の人に話を聞いてほしい人も介入しないでほしい人も、家族とかを世話したくない人も世話したい人も、当たり前で日常になって何も感じない人もすごく辛い人も、誰かに助けてほしい人も今のままでいい人も、色々いると思う。自分はヤングケアラーではないからそういう人達の気持ちをわかることはできないから、何も言えないけど、どんな人も生きたいように生きられるといいなと思う。</p>
<p>⑪ヤングケアラーというのをこのアンケートで初めて知りました。家族が障害を持っていたり、介護などが必要だったりするのは、誰かが悪いわけではないけど、そのせいで学校などに行けないのは良くないと思います。子供がお世話をするんじゃなくて、そういうお仕事の人に介護などを頼むのが大切だと思いました。また、子供は学校に行ったりしないといけなくて、家族の誰かがお世話が必要な人なら、他の元気な親戚にお世話を頼むのが大切だと思いました。</p>
<p>⑫ヤングケアラーの子達は自分で自覚していない場合が多いため気づきにくいのだと、聞いたことがある。身近に居る人がいち早く気づいてあげることで、自分の人生を誰かのためではなく、自分のために生きられるようになってほしい。</p>
<p>⑬ヤングケアラーの方は、1人で抱え込まないようにする事が大切だと思うので相談できる環境が大切だと思います。けれど、学校の先生や相談所に行き話をするのは勇気のいる事でありなかなか出来ない人が多いと思います。そのため周りの友達が話を聞き寄り添ってあげられるようにヤングケアラーの事について私達が深く理解して学ぶ必要があると思います。</p>

<p>⑭家族とはいえ、いつも付きっきりで人の世話をすることは根気がいるし、とても大変だと思います。また、辛かったり、何でもかんでも1人で溜め込んでしまうかもしれません。周りに知られたくないという気持ちもわかりますが、周りの人に話を聞いてもらったり、頼る事も大切です。とにかく、1人で辛い思いをしないでください。</p>
<p>⑮家族のことで一杯一杯で進路を諦めたり友達と関わりを深めることができなかつたりするのは私だったら流石に辛い。大切な家族だから責任を持ってというのはあるけれど一人一人に好きなことがあって何をするか選択する権利もあると思う。ヤングケアラーについてもっと知りたい。また、来年から新しい出会いもあるため周りの子のことも気にかけて思う。</p>
<p>⑯子供なのにこういう責任を負ってしまうのは間違っていると感じた。こういう責任から解放してあげるためにも、もっと身近に相談できる場所をつくるべきだと思う。そして、相談して終わりではなく、もっと援助をしてあげることが必要だと思う。もし身近にこのような友人がいるとしたら、私はきっと助けてあげようと思った。</p>
<p>⑰宿題をやってこない理由や遊んでくれない理由を聞かずに判断するのではなく、きちんと理由を聞いて理解することが必要。</p>
<p>⑱病気や障害のある家族と一緒に住んでいて、他に大人がいても医療費を工面するために働きにいかなければならない為、家族の世話をしなければならない子供は多いと思うから、区で資金援助やヘルパーさんを雇ってほしい。</p>

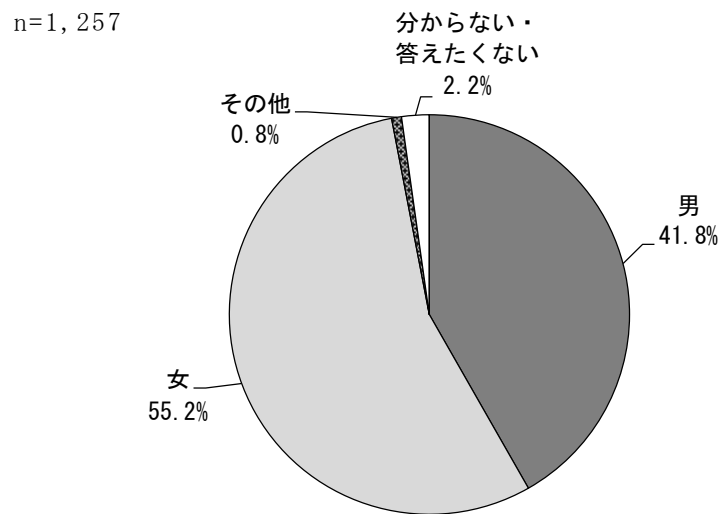
## Ⅱ.高校生世代調査

### 1 基本情報

#### ①性別

問 1.あなたの性別について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「女」が 55.2%、「男」が 41.8%となっている。

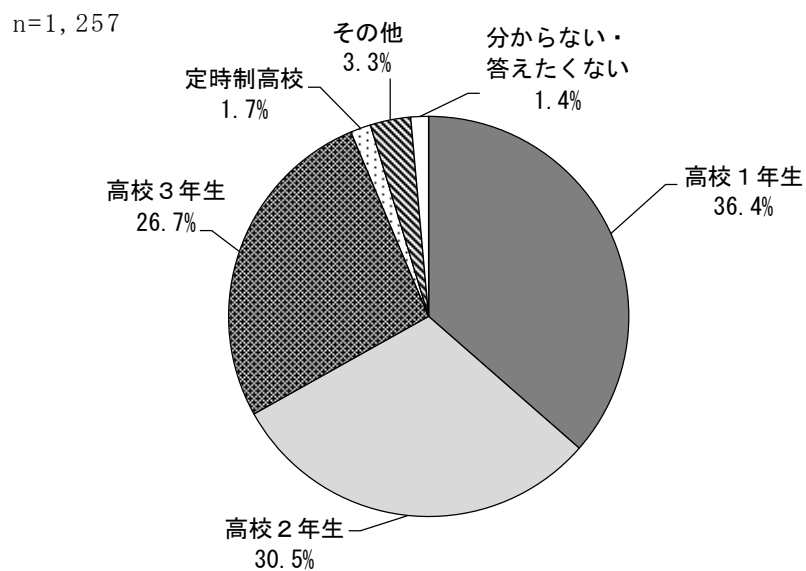




## ②学年

問 2.あなたの学年を教えてください。「その他」に該当する方は、令和4年 11 月 1日現在の年齢を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「高校1年生」が 36.4%、「高校2年生」が 30.5%、「高校3年生」が 26.7%、「その他」が 3.3%となっている。

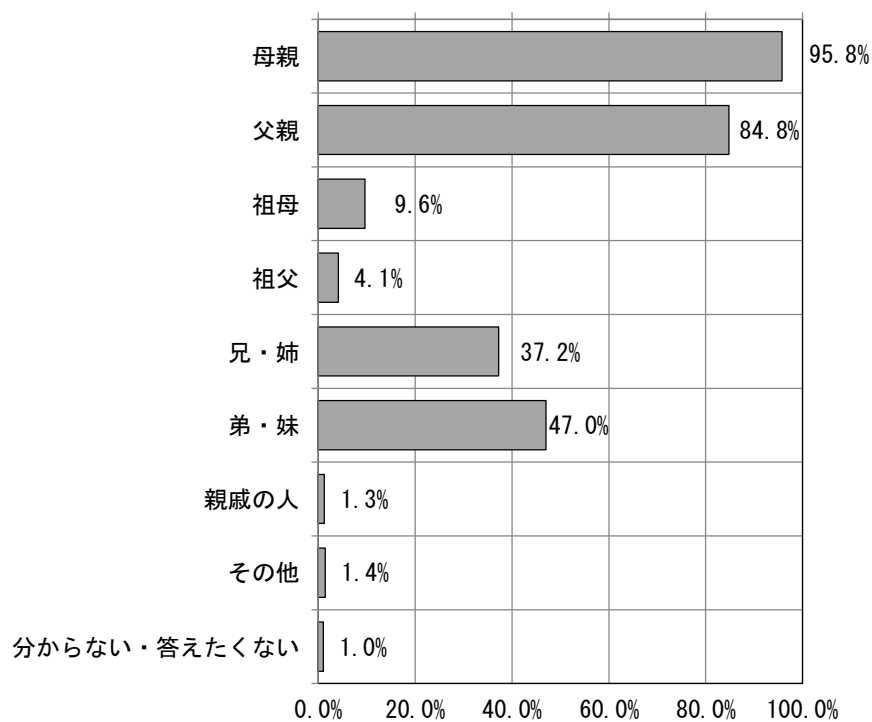


### ③家族構成

問 3.今、一緒に住んでいる家族について教えてください。あてはまるもの全てにチェックをしてください。「( )人」と書かれているものは、何人いるか入力してください。

「母親」が95.8%と最も多く、次いで「父親」が84.8%、「弟・妹」が47.0%、「兄・姉」が37.2%となっている。

n=1,257

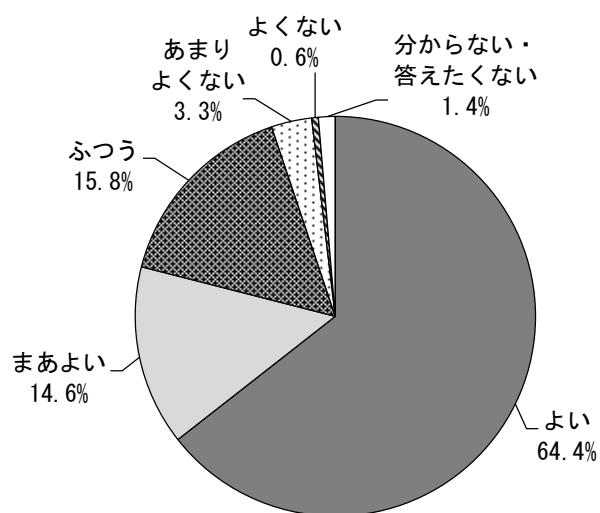


#### ④健康状態

問 4.あなたの健康状態について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「よい」が64.4%と最も多く、次いで「ふつう」が15.8%、「まあよい」が14.6%、「あまりよくない」が3.3%となっている。

n=1,257



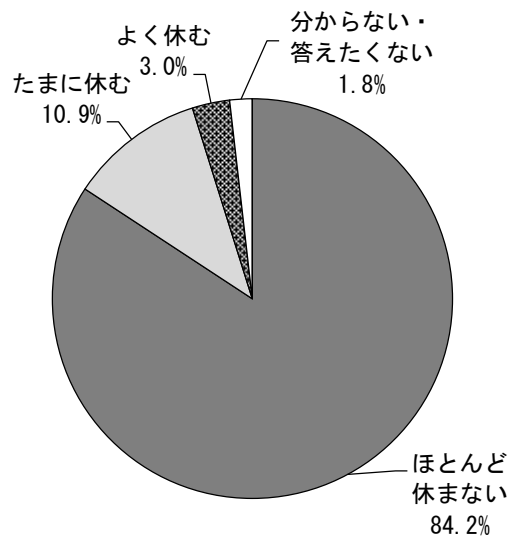
## 2 ふだんの生活について

### ①通学状況

問 5.学校への通学状況について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「ほとんど休まない」が84.2%と最も多く、次いで「たまに休む」が10.9%、「よく休む」が3.0%となっている。

n=1,257

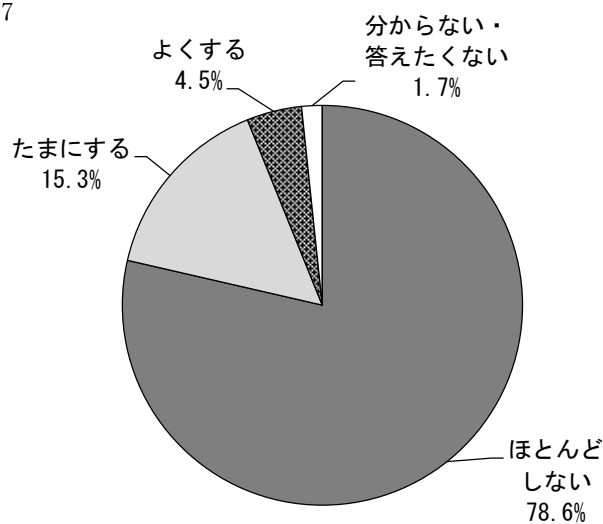


### ②遅刻や早退の有無

問 6.学校に遅刻をしたり、早退をすることがありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「ほとんどしない」が78.6%と最も多く、次いで「たまにする」が15.3%、「よくする」が4.5%となっている。

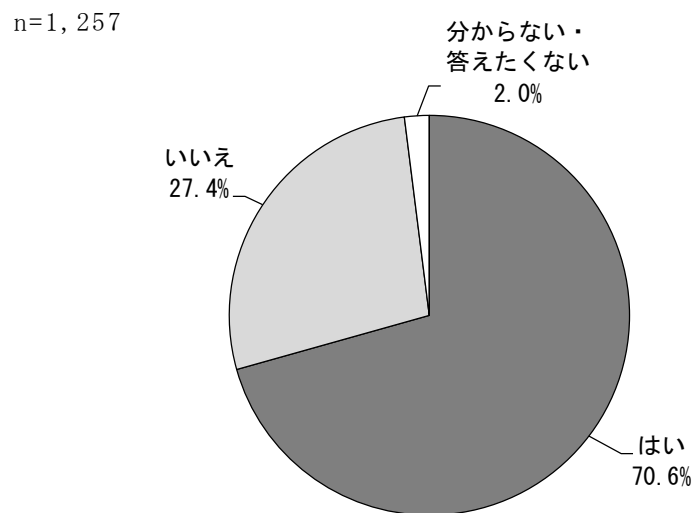
n=1,257



### ③部活動への参加状況

問 7.部活動(学校外での活動を含む)に参加していますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

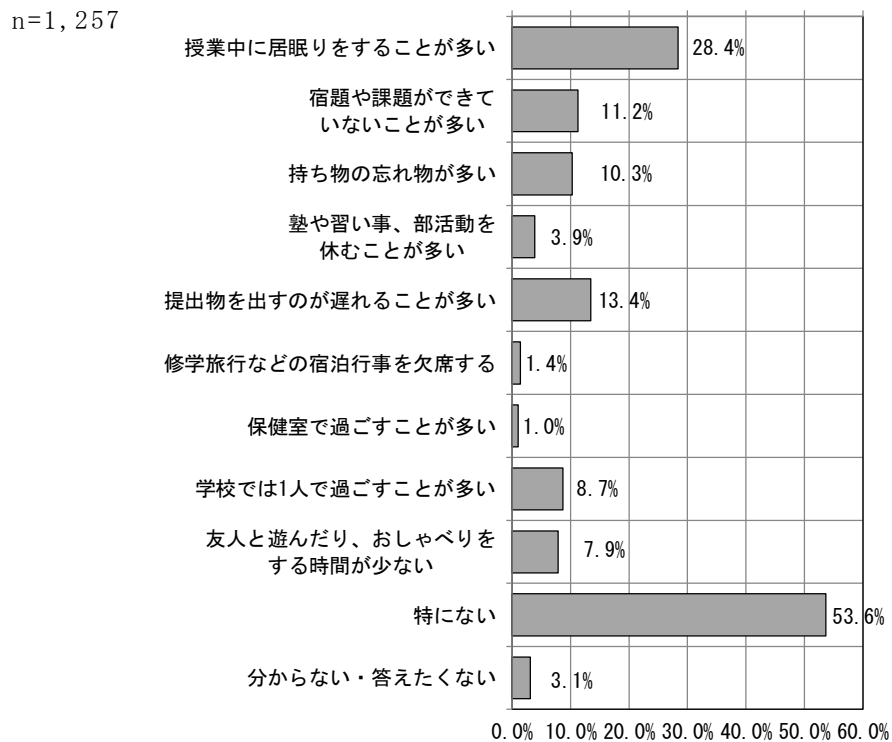
「はい」が 70.6%、「いいえ」が 27.4%となっている。



#### ④学校生活での課題

問 8. 普段の学校生活において、あてはまるものはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「授業中に居眠りをすることが多い」が 28.4%と最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が 13.4%、「宿題や課題ができていないことが多い」が 11.2%となっている。「特にない」は 53.6%となっている。

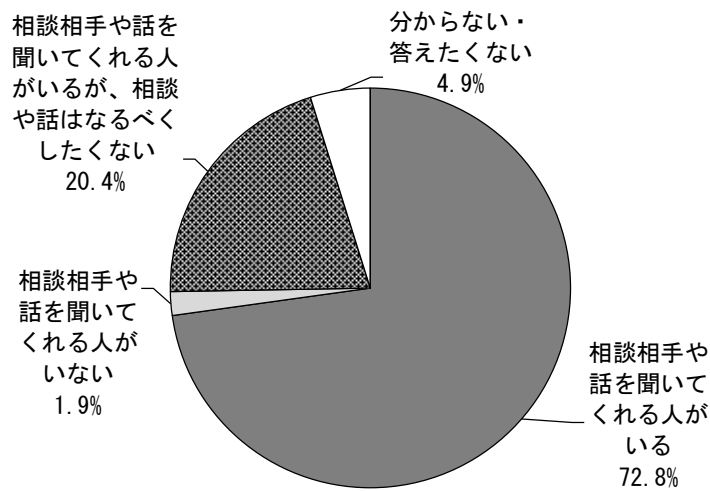


### ⑤相談相手の有無

問 9.「悩み」や「困っていること」があるとき、相談をしたり、話を聞いてくれる人が近くにいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が 72.8%と最も多く、次いで「相談相手や話を聞いてくれる人がいるが、相談や話はなるべくしたくない」が 20.4%、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が 1.9%となっている。

n=1,257

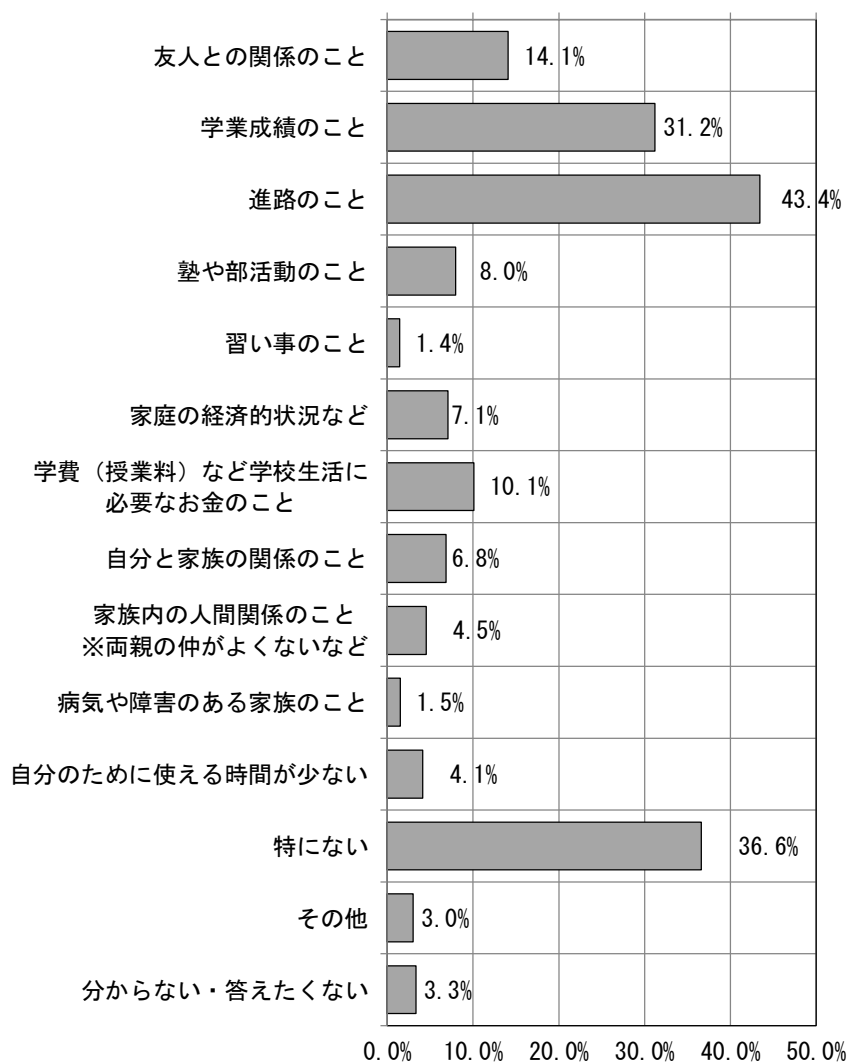


## ⑥悩みや困りごとの有無

問 10.今、悩んでいることや困っていることはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「進路のこと」が 43.4%と最も多く、次いで「学業成績のこと」が 31.2%、「友人との関係のこと」が 14.1%、「学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと」が 10.1%となっている。「特にない」は、36.6%となっている。

n=1,257



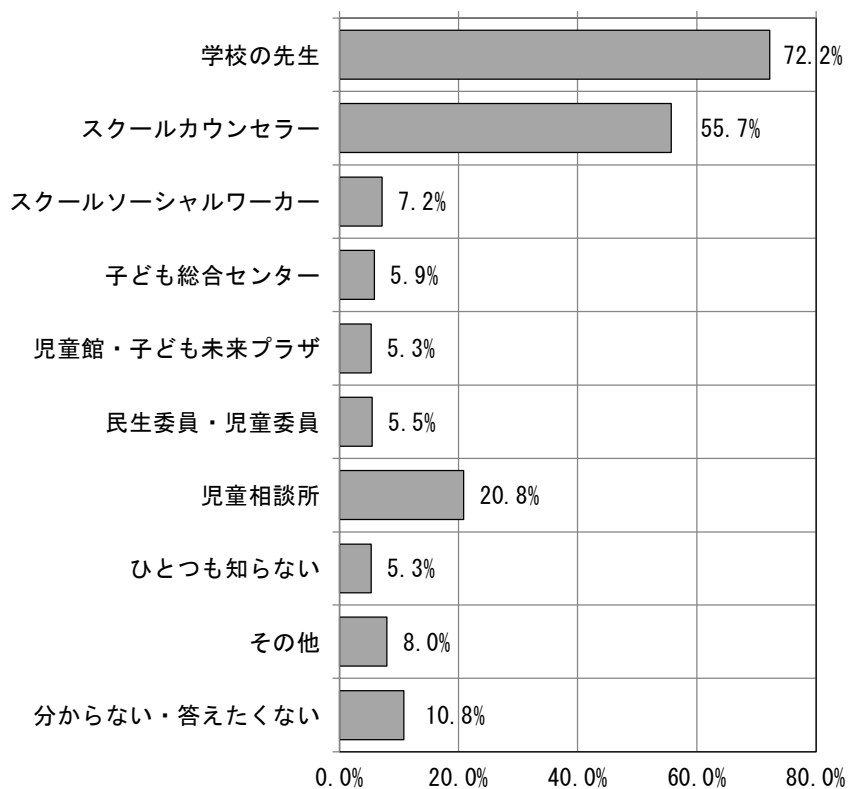


## ⑦相談先の認知状況

問 11.問 10 で答えた「悩み」や「困っていること」について、相談できる場所を知っていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「学校の先生」が 72.2%と最も多く、次いで「スクールカウンセラー」が 55.7%、「児童相談所」が 20.8%となっている。「ひとつも知らない」は 5.3%となっている。

n=1,257

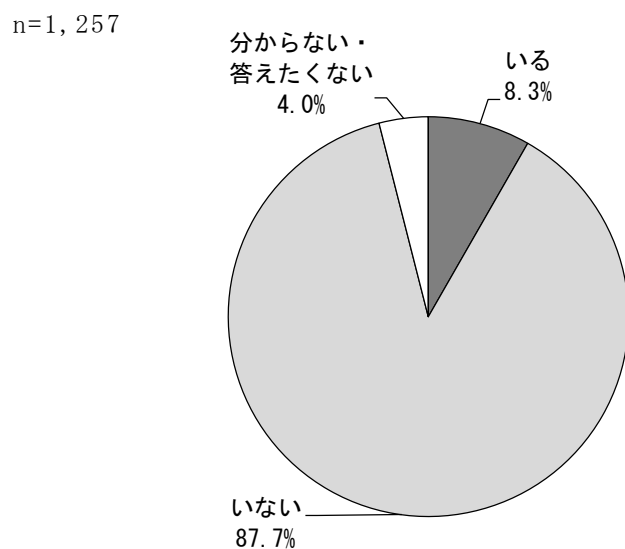


### 3 家族や家庭のことについて

#### ①家族のお世話をしているか

問 12.家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「いる」が 8.3%、「いない」が 87.7%となっている。

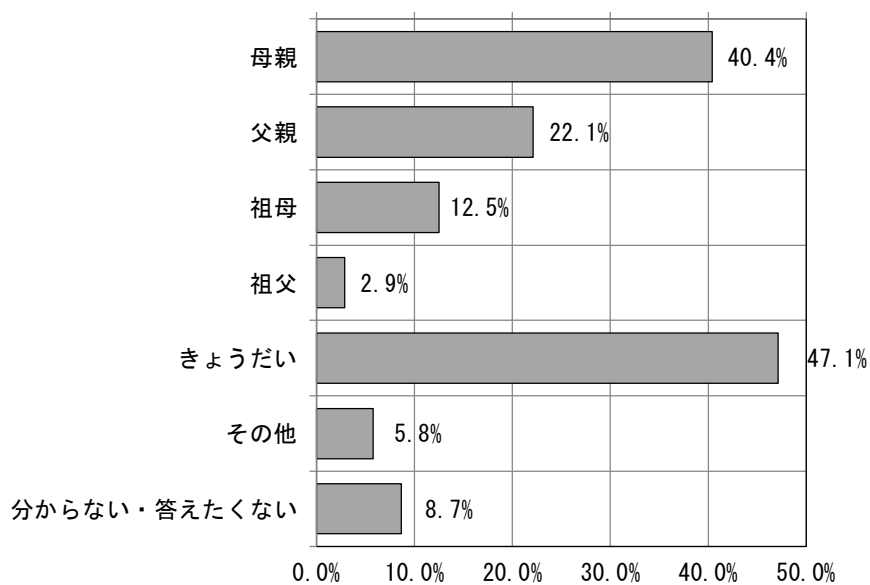


## ②お世話をしている相手

問 13.問 12 で「いる」と答えた人にお聞きします。あなたがお世話をしている人は誰ですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「きょうだい」が 47.1%と最も多く、次いで「母親」が 40.4%、「父親」が 22.1%、「祖母」が 12.5%となっている。

n=104

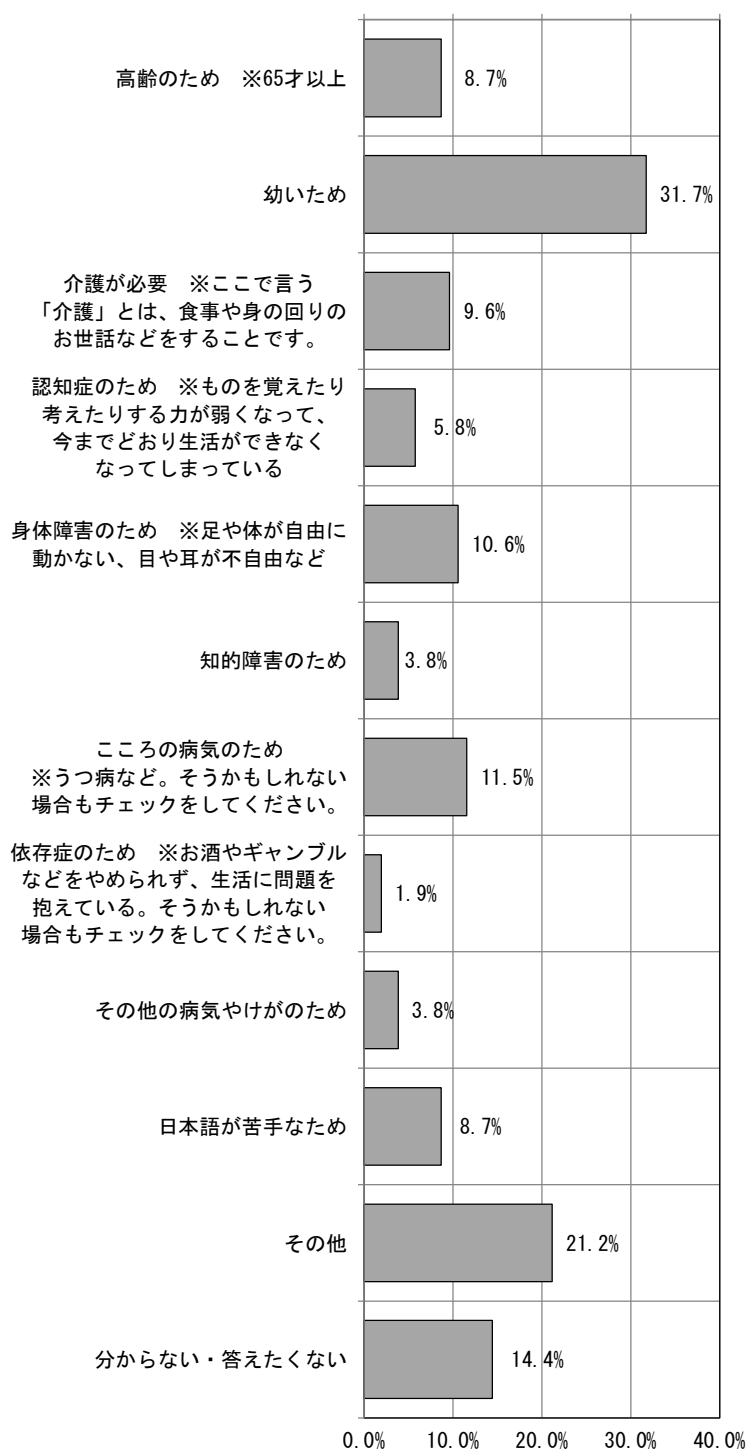


### ③お世話を必要としている理由

問 14.その人は、どのような理由でお世話を必要としていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「幼いため」が 31.7%と最も多く、次いで「こころの病気のため」が 11.5%、「身体障害のため」が 10.6%となっている。「その他」は 21.2%で、「親が仕事で忙しいため」などの回答があった。

n=104

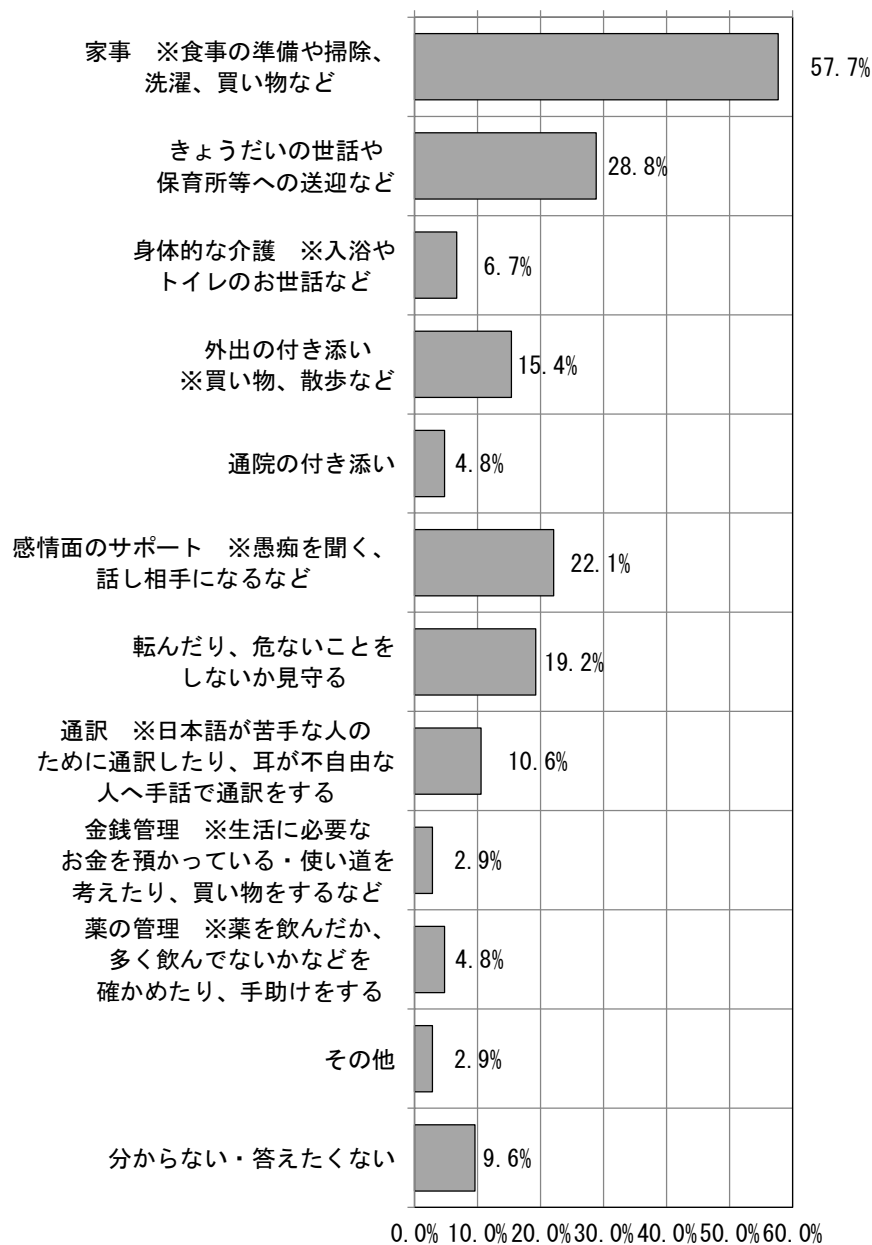


#### ④どのようなお世話をしているか

問 15.あなたはどのようなお世話をしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「家事」が 57.7%と最も多く、次いで「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 28.8%、「感情面のサポート」が 22.1%、「転んだり、危ないことをしないか見守る」が 19.2%となっている。

n=104

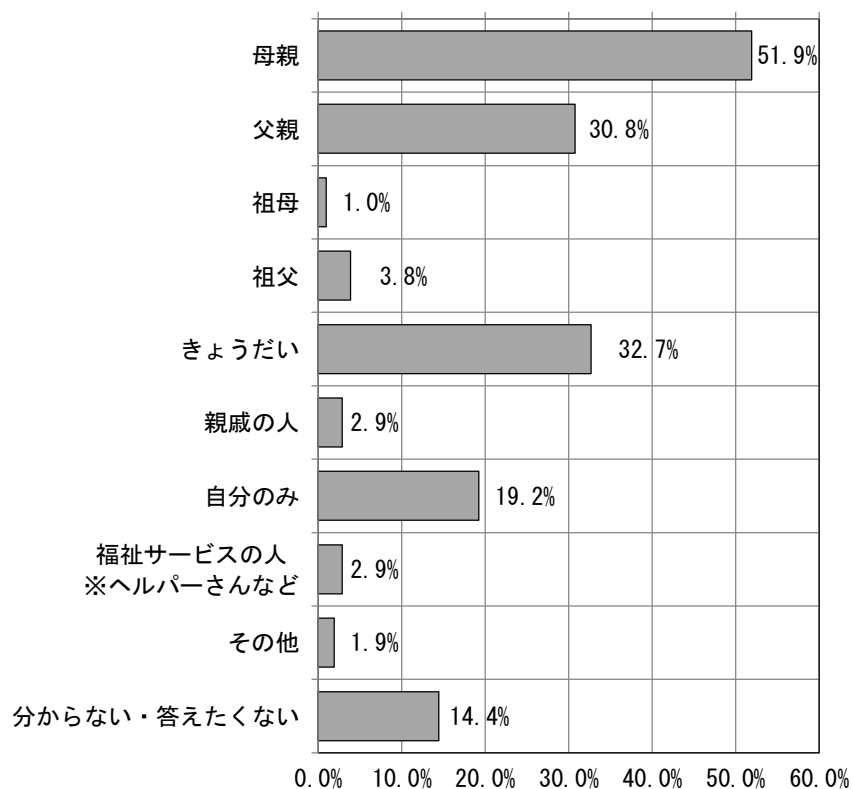


### ⑤一緒にお世話をしている人

問 16.あなたはお世話を誰と一緒にしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「母親」が 51.9%と最も多く、次いで「きょうだい」が 32.7%、「父親」が 30.8%、「自分のみ」が 19.2%となっている。

n=104



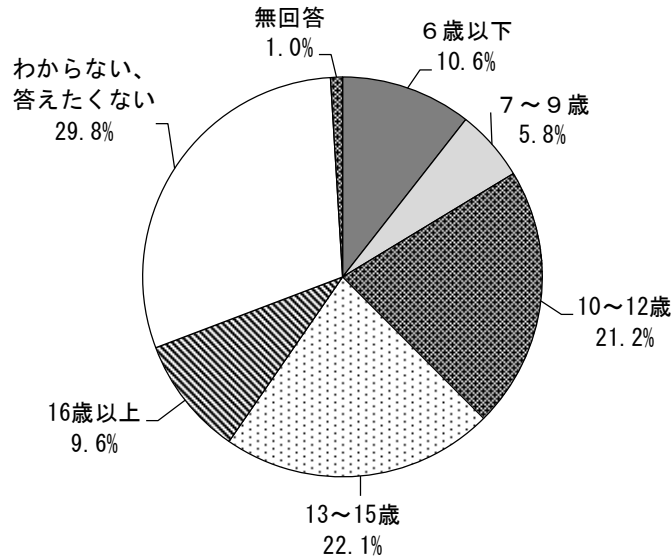
## ⑥お世話を始めた年齢

問 17.あなたはお世話を何才の時からしていますか。

※はっきりと分からない場合は、大体の年で教えてください。

「13～15歳」が22.1%と最も多く、次いで「10～12歳」が21.2%、「6歳以下」が10.6%、「16歳以上」が9.6%となっている。

n=104

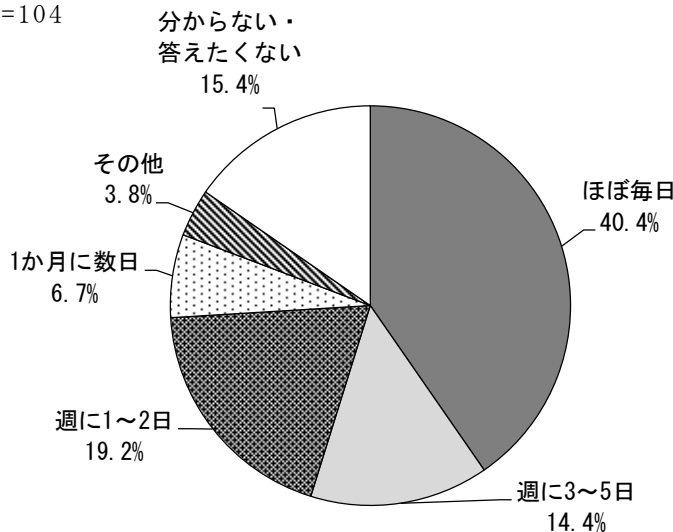


## ⑦お世話をする頻度

問 18.あなたはどれくらいお世話をしていますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「ほぼ毎日」が40.4%と最も多く、次いで「週に1～2日」が19.2%、「週に3～5日」が14.4%、「1か月に数日」が6.7%となっている。

n=104

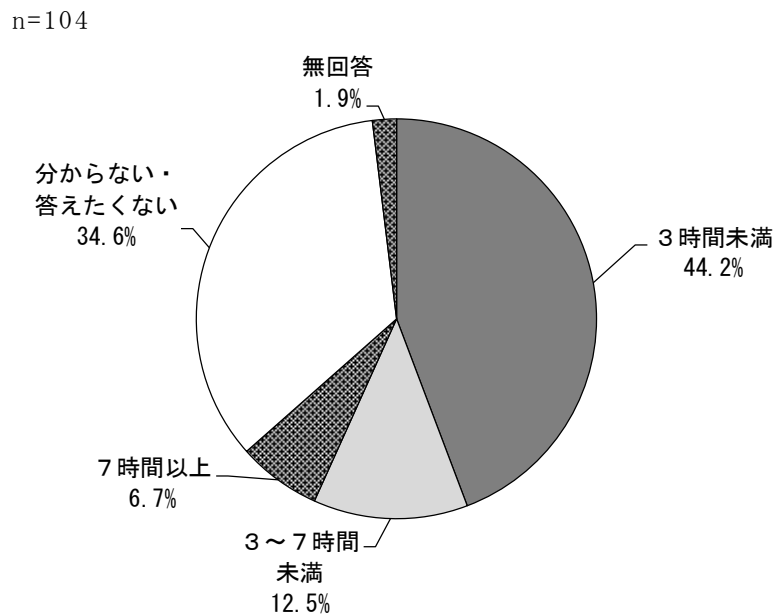


## ⑧お世話をする時間

問 19.あなたは1日のうち、何時間くらいお世話をしていますか。

※日によって違う場合は、この1か月でいちばん長かった日の時間を教えてください。

「3時間未満」が44.2%と最も多く、次いで「3～7時間未満」が12.5%、「7時間以上」が6.7%となっている。



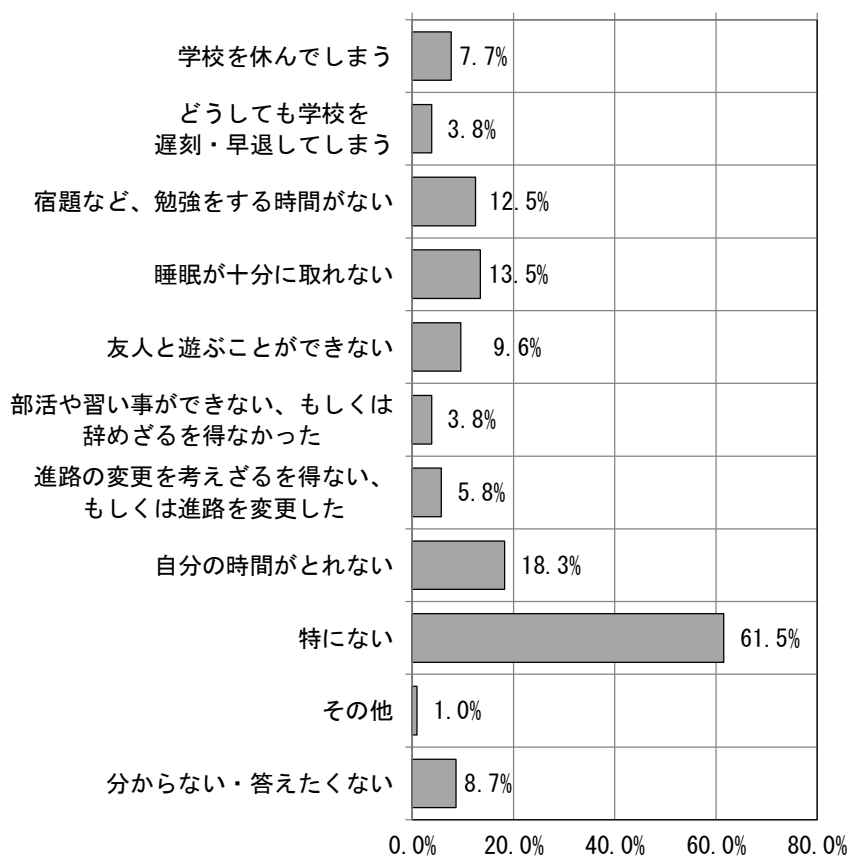


### ⑨お世話をすることで困ること

問 20.お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「自分の時間がとれない」が 18.3%と最も多く、次いで「睡眠が十分に取れない」が 13.5%、「宿題など、勉強をする時間がない」が 12.5%となっている。「特にない」は 61.5%となっている。

n=104

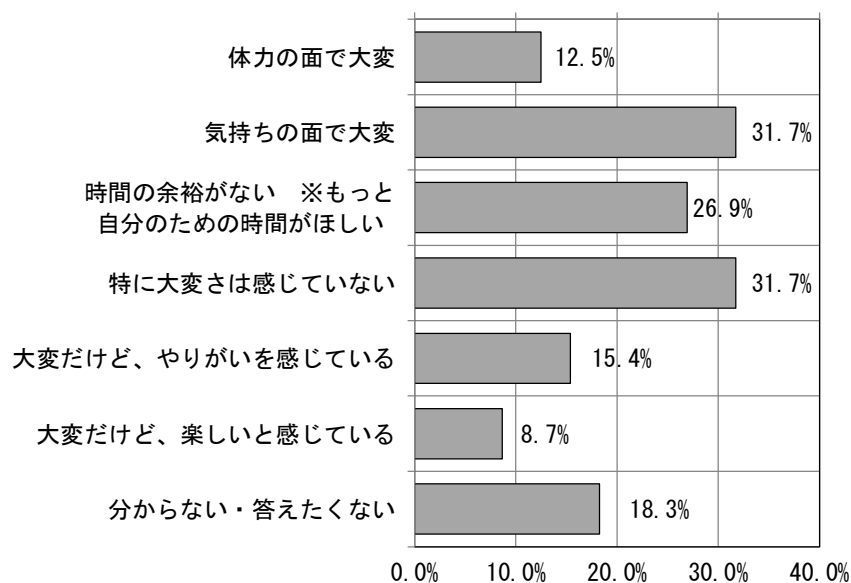


### ⑩お世話をすることに大変さを感じているか

問 21.お世話をすることに大変さを感じていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「気持ちの面で大変」「特に大変さは感じていない」がそれぞれ31.7%と最も多く、次いで「時間の余裕がない ※もっと自分のための時間がほしい」が26.9%、「大変だけど、やりがいを感じている」が15.4%となっている。

n=104

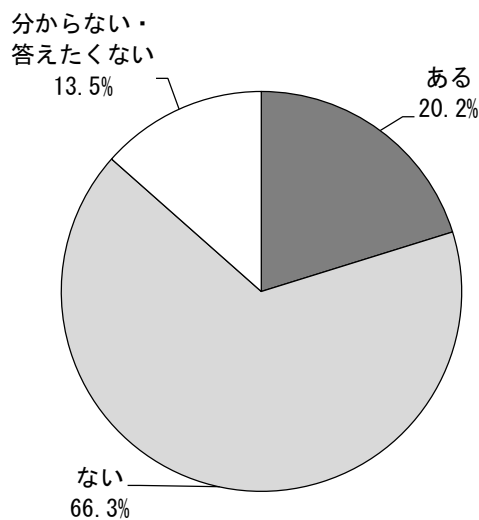


### ⑪お世話の悩みを相談したことがあるか

問 22.あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことはありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「ある」が20.2%、「ない」が66.3%となっている。

n=104

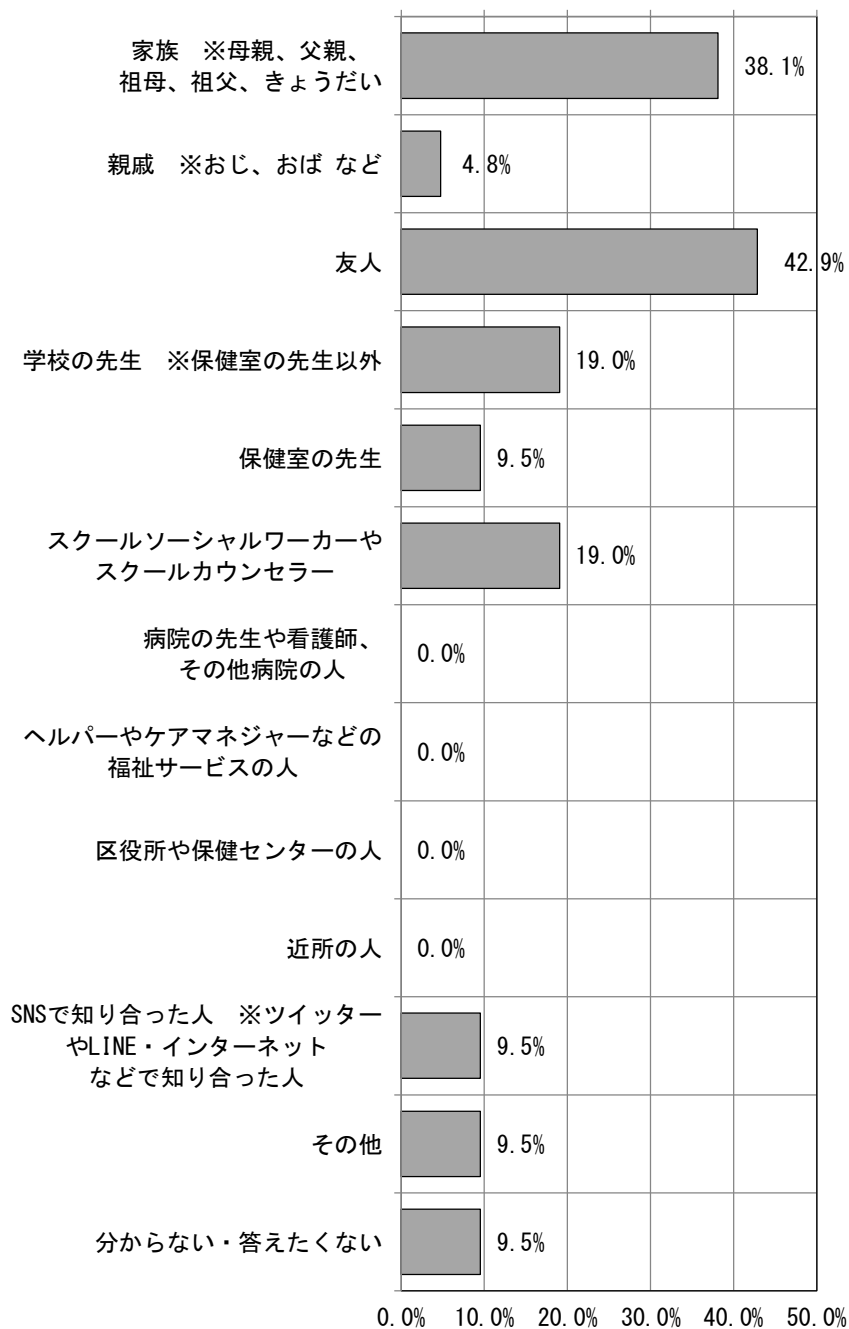


## ⑫相談した相手

問 23.問 22 で「ある」と答えた人にお聞きします。それはだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「友人」が 42.9%と最も多く、次いで「家族」が 38.1%、「学校の先生」「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」が、それぞれ 19.0%となっている。

n=21



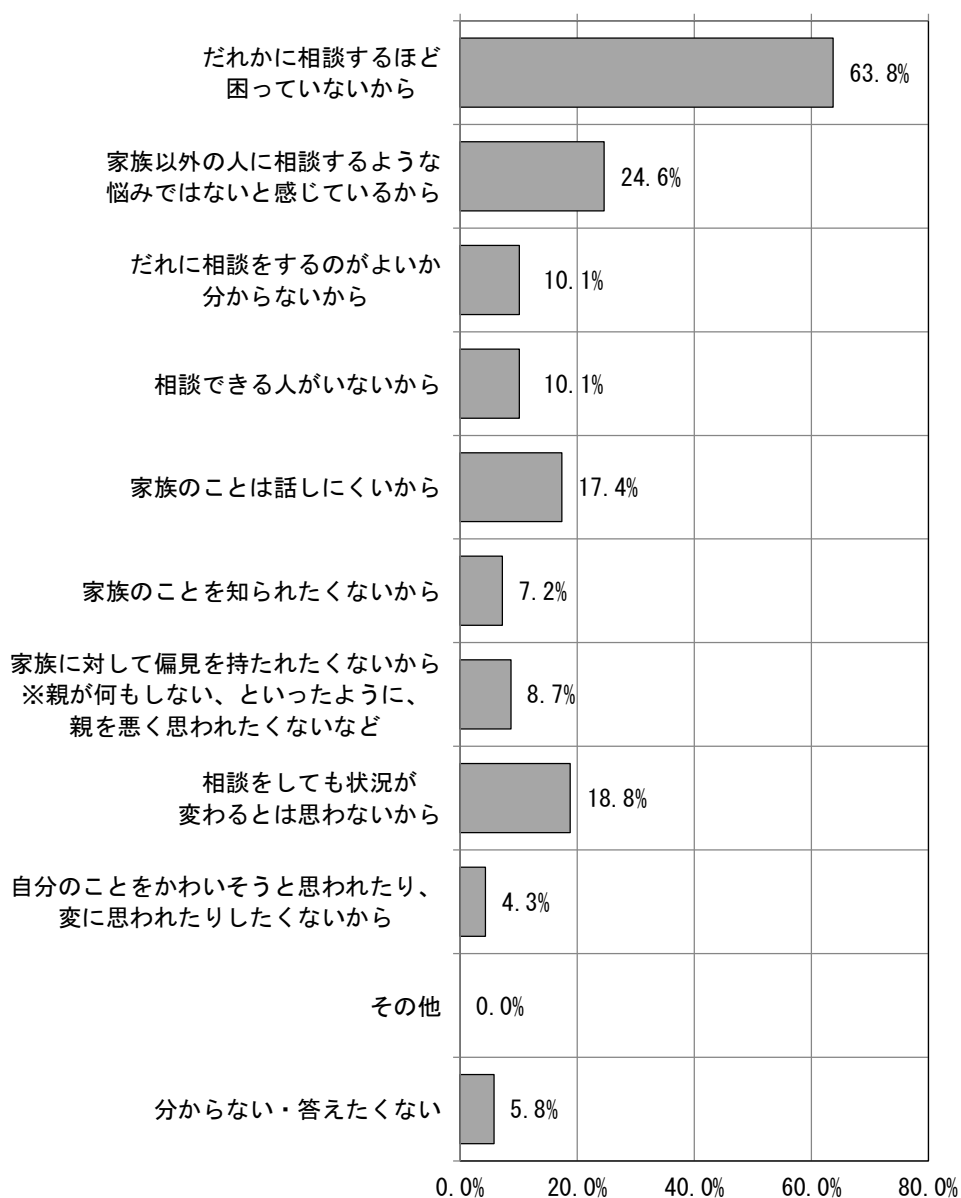
### ⑬相談していない理由

問 24.問 22 で「ない」と答えた人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。

あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「だれかに相談するほど困っていないから」が 63.8%と最も多く、次いで「家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから」が 24.6%、「相談をしても状況が変わると思わないから」が 18.8%、「家族のことは話しにくいから」が 17.4%となっている。

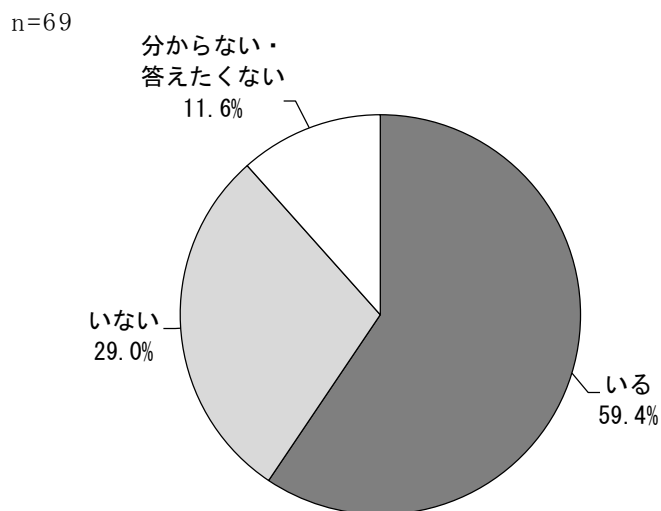
n=69



⑭お世話について聞いてくれる人がいるか

問 25.問 22 で「ない」と答えた人にお聞きします。お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人は近くにいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「いる」が 59.4%、「いない」が 29.0%となっている。

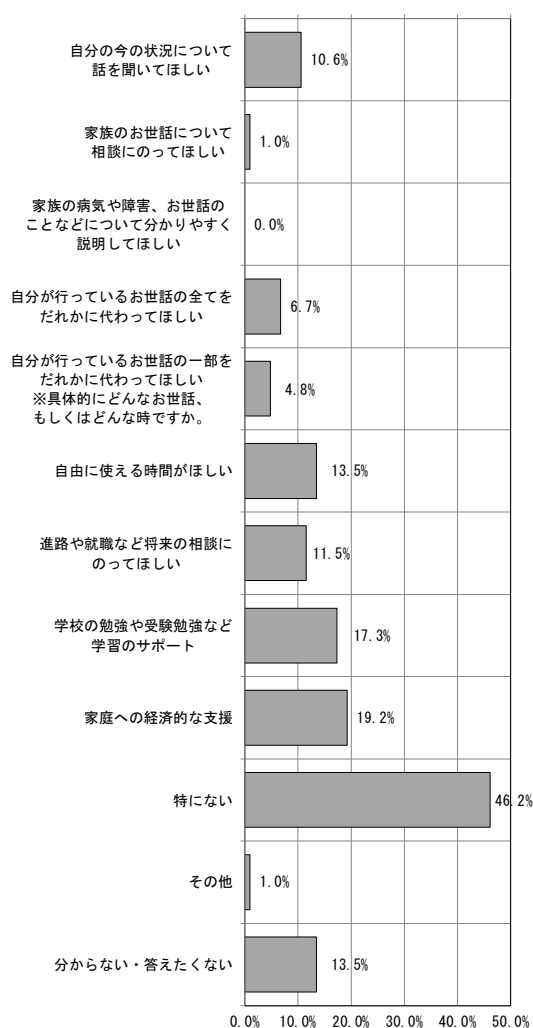


## ⑮ 学校や周りの大人にしてもらいたいこと

問 26. 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「家庭への経済的な支援」が 19.2%と最も多く、次いで「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が 17.3%、「自由に使える時間がほしい」が 13.5%となっている。「特にない」は 46.2%となっている。

n=104



## ⑯ 希望する相談方法

問 27. 問 26 で「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた人にお聞きします。どのような方法で話や相談をしたいですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

回答者は 11 人で「直接会って話したい」「SNS」がそれぞれ 3 件となっている。

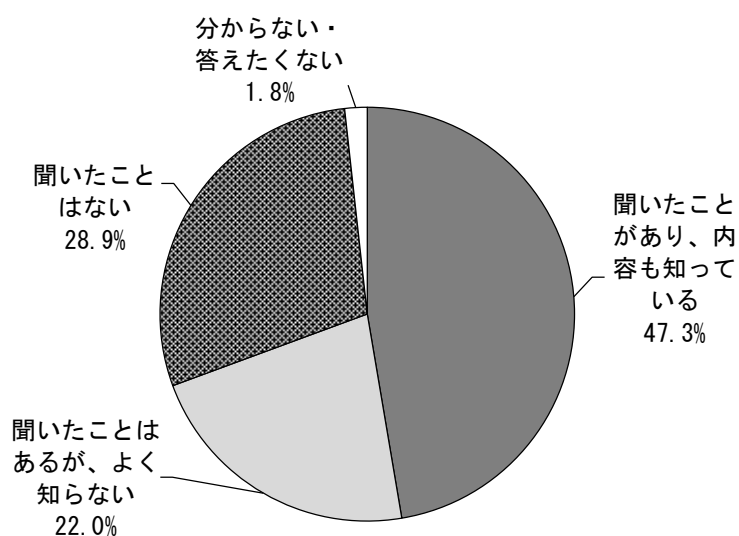
## 4 ヤングケアラーについて

### ①「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか

問 28.「ヤングケアラー」という言葉を、これまでに聞いたことがありましたか。あてはまるものの1つにチェックをしてください。

「聞いたことがあります、内容も知っている」が 47.3%と最も多く、次いで「聞いたことはない」が 28.9%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 22.0%となっている。

n=1,257

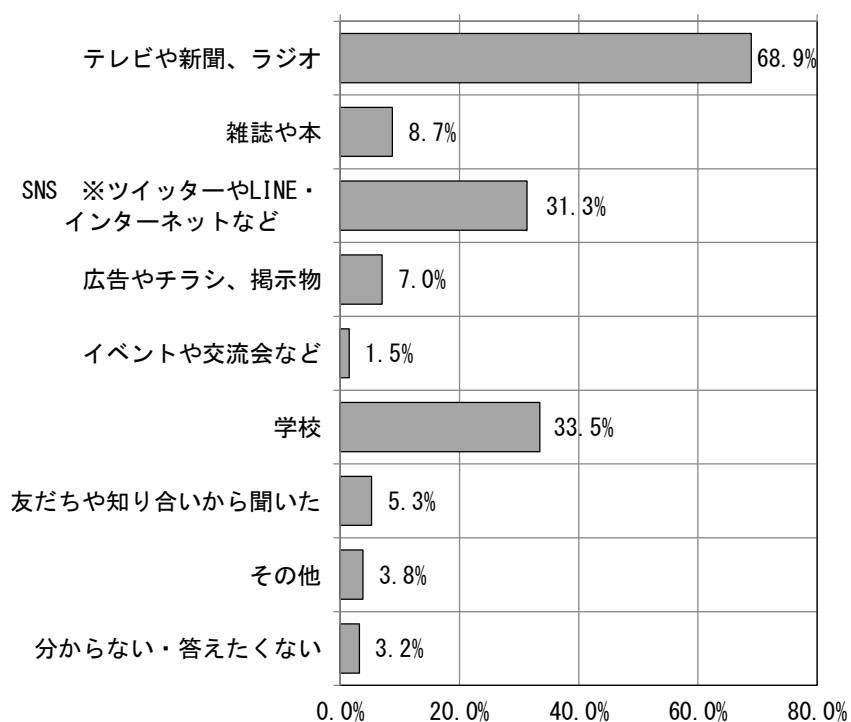


## ②「ヤングケアラー」という言葉を知った方法

問 29.問 28 で「聞いたことがあります、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた人にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

「テレビや新聞、ラジオ」が 68.9%と最も多く、次いで「学校」が 33.5%、「SNS」が 31.3%、「雑誌や本」が 8.7%となっている。

n=872



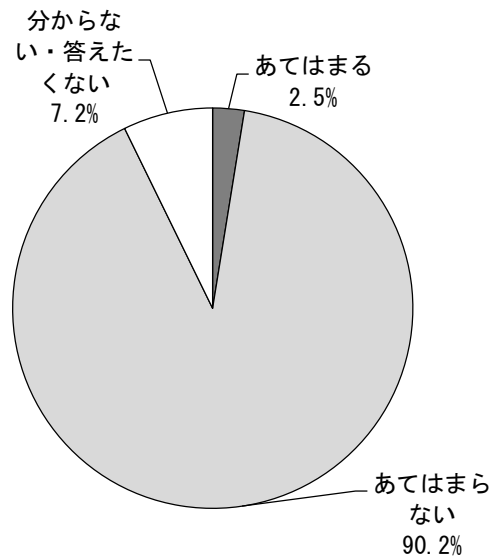


③自分が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか

問 30.あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

「あてはまる」が 2.5%、「あてはまらない」が 90.2%となっている。

n=1,257



## 5 自由意見

問 31.自由に入力してください。

家族のお世話をしている子どもやヤングケアラーのために、必要だと思うこと、学校や周りの人にしてもらいたいこと、このアンケートへの感想、悩みや区役所への要望など、何でも入力してください。

自由意見には 334 件の回答があった。「きょうだいの世話をしているが、大変だと思ったことはあまりない」「精神疾患の家族がいるが、小さい頃からそうなので仕方ないと思っていた」「身の回りにヤングケアラーの子がいるが、どう対応してあげるのが最善なのかわからない」「ヤングケアラーだけでなく、その家族全体を支援する必要がある」「ヤングケアラーに限らず、生活に困っている人への支援をもう少しわかりやすくしてほしい」などの意見があった。

自由意見(主な回答)
①私のきょうだいは体が不自由で親が帰ってくるまでの間私が世話をしています。小さい頃から世話をしていますが大変だと思ったことはあまりありません。本人もずっと一緒にいると察して私に協力してくれるからかもしれません。私が学校から帰ってくるまでの間はヘルパーさんが代わりに見守ってくれています。このようにヤングケアラーの人の中でなかなか家に帰れず世話をするのが難しい人のためにヘルパーさんに助けを求めることが必要だと私は思います。このアンケートでヤングケアラーとは何か知り、自分もヤングケアラーとして他のヤングケアラーの人たちにどのようなことを伝えられるか考えることができ良い経験になりました。
②自分には身体障害者のきょうだいがいて、車椅子で生活していて、自立や歩行が不可能なため、物をとってあげたり、お茶を飲ませてあげたりすることはあるが、移乗などの身体介護は父と母がやっていて、そこまで大変では無い。母は精神疾患のある親の世話を子どもの時からやっていて、ヤングケアラーだったことでいまだにいろんなことを人に頼るのが苦手だったり、ひとりでなんでもやろうとする事が多い。ヤングケアラーだった事が今も生活に影響している気がする。昔ヤングケアラーだった人のケアも今からでもやった方がいいし、今のヤングケアラーの人に、いろんな大人に頼れる事をもっと知らせたほうがいい。そして頼られた大人は家庭内のことだから難しいとか逃げずに、必ず対応するのが大事だと思う。
③自分がそれに当てはまるか分からない。人それぞれ、その家庭によって違うから。うちは精神疾患なので、身体的な介護の人とは違う気がする。精神疾患の人の家族は身体的障害の人より介護の認識が薄いと思う。小さい頃からそうなので、仕方ないと思っていた。
④実際に中学の同級生にヤングケアラーにあたいする男の子がいます。その子は高校に行

かず工場系のバイトをしているそうです。本人が高校に行きたくないならいいと思うが、行きたい子もいると思います。簡単な話ではありませんが、そのような子のための学校を設けて欲しいです。普通高校でもそのような状況の子のためになる制度を作って欲しいと、このアンケートを通して思いました。このアンケートを答えるか答えないかは自由だと書いてあったので、最初は答えないつもりでした。でも上記のような誰でも思いつくような簡単な意見ではありますが、自分と同じ年代の子の力に少しでもなれたらと思い、答えることにしました。このアンケートを通してヤングケアラーに対する考え方が変わり、意見を持つことができました。アンケート調査を実施して頂きありがとうございました。

⑤私の身の回りの子の中には、多くのヤングケアラーの子がいます。でもいつも話を聞くばかりで何もしてあげることが出来ません。それは、ヤングケアラーの子にどう対応してあげるのが最善なのかそれが分からないからです。なので、全国の人たち(中高生へ)にヤングケアラーの子が何に困っていて、何をしたいのかなどのプリントを道德の授業で配布などして、もっと実態を若い世代の人に知ってもらわなければならないと思います。

⑥世話ではないが、家庭の事情で家事をしたりアルバイトをしている人が私の周りでも数人おり、「ヤングケアラーとは少し違うけどでも少し大変だ」と時々苦笑いしているため、そのような人のサポートもしてほしいです。私の学校ではヤングケアラーについて詳しく教えてもらったことがなかったため、学校でもヤングケアラーについて教えてほしいです。

⑦友人でもスクールカウンセラーでも区役所の相談に乗ってくれる人でも、やはり家庭の事は話しづらいです。家庭の状況を1から説明することが難しいですし、相談したからといって何か家庭の状況が良くなるのかな？と考えます。少しでも生活の負担が少なくなるようなアドバイスが必要だと思います。

⑧どこに相談したらいいか分からなかったり、そもそも自分がその対象なのか分からなかったり、相談して支援をしてもらえるときに家族との関係が悪くなるかもしれない、という当事者の不安感が課題だと思います。そのためにも自治体の安全な情報源からの積極的な発信が相談数の増加そして多くのヤングケアラーの支援につながると思います。

⑨お金をあまりかけずに、ヤングケアラーの代わりの仕事をするボランティアなどができるといいと思います。ヤングケアラーの方がちゃんと相談しやすい環境を作ることも大事だと思います。

⑩そのような状況下に置かれた子たちは、困ったら周りの人々に助けを求めるときであり、また、助けを求めて欲しいです。しかし、私たちが助けてあげるからと強要してはいけないと思います。その子自身が私たちにどうして欲しいのかをしっかりと聞いた上で助けることが大切だと思います。

⑪もし自分がその立場になっていたら、家族以外に頼れる大人の人が常にいてほしいと思います。SNSが普及してる今、自分で調べることはいくらでもできるし、情報を得ることはできます。しかし助けを求めてもそれに答えてくれなければ意味がないと思っています。子供の助け

<p>の声に答えてくれる大人がいるのであればその事実をもっと発信するべきなのではないかと思 います。</p>
<p>⑫もし友達にヤングケアラーの子がいたとき、なにか力になりたい気持ちはあるけれど、気にか けすぎると本人が申し訳ない気持ちになってしまうかもしれないのでどのように接することが一 番良いのかと思うことがあります。</p>
<p>⑬ヤングケアラーだけでなく、その家族自体を支援する必要があると思います。また、ヤングケ アラーにボランティアとして支援している方々に対しても、国から支援を行うべきだと思います。 ヤングケアラーに限らず、家族を介護する、もしくは誰かを介護する職業の方達自身の精神 的、肉体的ケアと、介護が必要となったとき、誰もが平等に介護施設などを利用できるような 社会福祉と人材育成が、少子高齢化が進む日本にとって、求められていることではないのか と感じました。現在、自分自身がヤングケアラーだという自覚がない子供達に、気づかせ、支 援を訴えやすい教育環境も必要だと思います。</p>
<p>⑭ヤングケアラーだけに関わらず、生活している中で困っていることがある人に対しての支援 を、もう少し分かりやすく子供が知ることができるようにして欲しいと思います。せっかく充実し た支援などがあっても、分かりにくかったり、知らなかったら意味がないので。このようなアンケ ートは、普段周りに相談しづらい、相談する勇気がないと感じている子供達にとって助けを求 めるきっかけになっていいなと思いました。</p>
<p>⑮ヤングケアラーの子供が自分はヤングケアラーであると自覚をし、さらに相談できるような環 境が必要だと思います。私の周りにはヤングケアラーで自分に負担がかかっているような子は いませんが、ニュースなどを見ると悩んでも頼れる大人がいなかったり周りから軽視されてます ます辛い思いをしているような子がいるようです。そのような子供にしっかりサポートができるよ うな学校と地域行政との連携や、専門の施設などが必要だと思いました。</p>
<p>⑯ヤングケアラーの子供を区や学校が把握できるように、区役所、学校などの活動がもっと必 要だと感じる。ヤングケアラーをしている子供達は、家族を世話する事が当たり前だと思っ ていたり、義務だと思い避けられない事のように感じていると思うから、ヤングケアラーの子供から 自発的に動く事は無いに等しいと思われる。その為、現状、区や学校がヤングケアラーの子 を把握するのは困難になっていると思われる。今後、学校でのアンケートの実施、区役所から の呼びかけを増やしていくべきだと、僕は思う。</p>
<p>⑰ヤングケアラーの人は家事や世話をすることが当たり前になっていて自分がヤングケアラー であることを自覚していないという人も多いと聞いたので、それは家族だからといってあなたが 必ずやらなくてもいいんだよ、もっと自分の時間を持っていいんだよ、と伝えかわりにやってく れる、頼れる人が身近にいる必要があると思う。ヤングケアラーの人たちが自分自身で代行サ ービスを頼むことは経済的にも難しい可能性があるから、行政だけでなく、NPOやボランティ アなど無償で利用できる機関はあってもいいと思う。</p>

⑱学校を休みがちな子を、もっと地域で見つけてあげて欲しい。先生任せにしないで、担当外から見ないのではなくて、役所、地区センター、保健所等、休んでいる子供の顔を見に行つて欲しい。凄く大変で人員不足で時間がかかると諦めないで、1件3分でも良いので顔を見てあげて欲しい。学校で、お風呂に入つてなさそうな子、小、中では給食を凄い勢いで食べてる子は、ネグレクトの疑いもあると思うので、先生と連携を取つて欲しい。

⑲学校側(学級担任など)が児童・生徒の家庭の状況をよく理解する必要があると思います。もし、ヤングケアラーに該当する児童・生徒がいたら、可能な限り詳しく家庭の状況を聞き、その子を注意深く見守る。また、区や都が運営するヤングケアラーとその家庭が援助を受けられる仕組みを学校側が紹介するのはどうでしょうか。

⑳経済的支援が必要だと思います。そして学生が得られる経済的支援といえば奨学金だと思います。最近、元々お金を持っている家庭の人が、親からの様々な支援、協力のもと実績(成績など)を上げて奨学金をもらっているというような状況に疑問を抱いています。ヤングケアラーのような人たちにこそ奨学金が与えられるべきだと思います。また日本では貸与型、給付型の2つの奨学金がありますが、私は給付型のみをすべきだと考えています。

㉑子供が相談しやすいような場を設けたり、介護や手助けが必要な人への支援する政策や環境をさらに整える必要があると思う。ヤングケアラーについての問題の重要性を今一度考えさせられるいい機会になったし、葛飾区がヤングケアラーに対して対策を考えていることを知ることができ、一葛飾区民としてとても嬉しく思う。



## 第 3 章

# 関 係 機 関 調 査





# I.区立小中学校調査

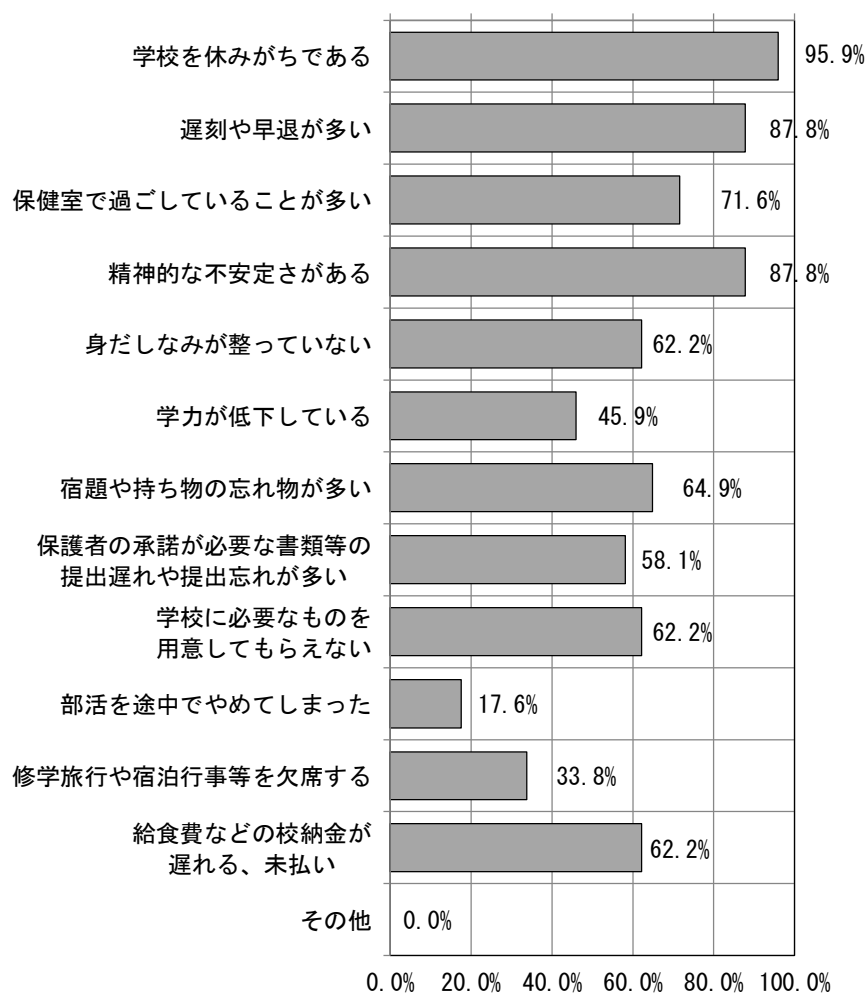
## 1 支援が必要と思われる子どもへの対応

### ①校内で共有しているケースの有無

問 3.下記の子どもについて、校内で共有しているケースはありますか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「学校を休みがちである」が 95.9%と最も多く、次いで「遅刻や早退が多い」「精神的な不安定さがある」がそれぞれ 87.8%、「保健室で過ごしていることが多い」が 71.6%となっている。

n=74

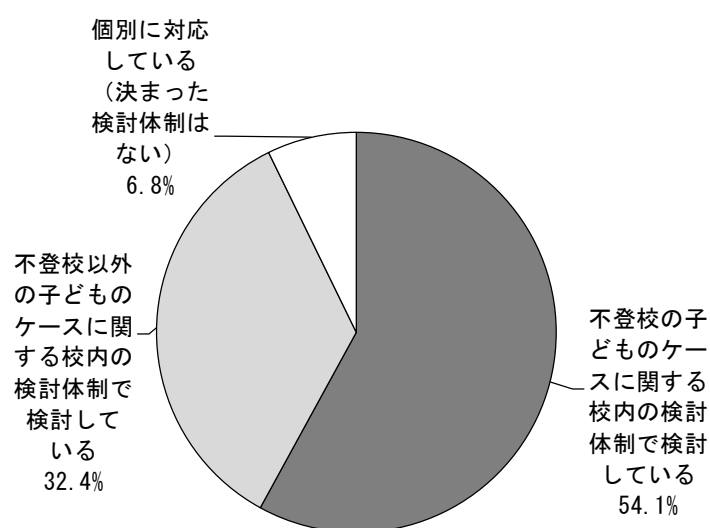


## ②情報共有・対応検討の体制

問 4.問 3 の「校内で共有しているケース」について、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が 54.1%と最も多く、次いで「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が 32.4%、「個別に対応している(決まった検討体制はない)」が 6.8%となっている。

n=74

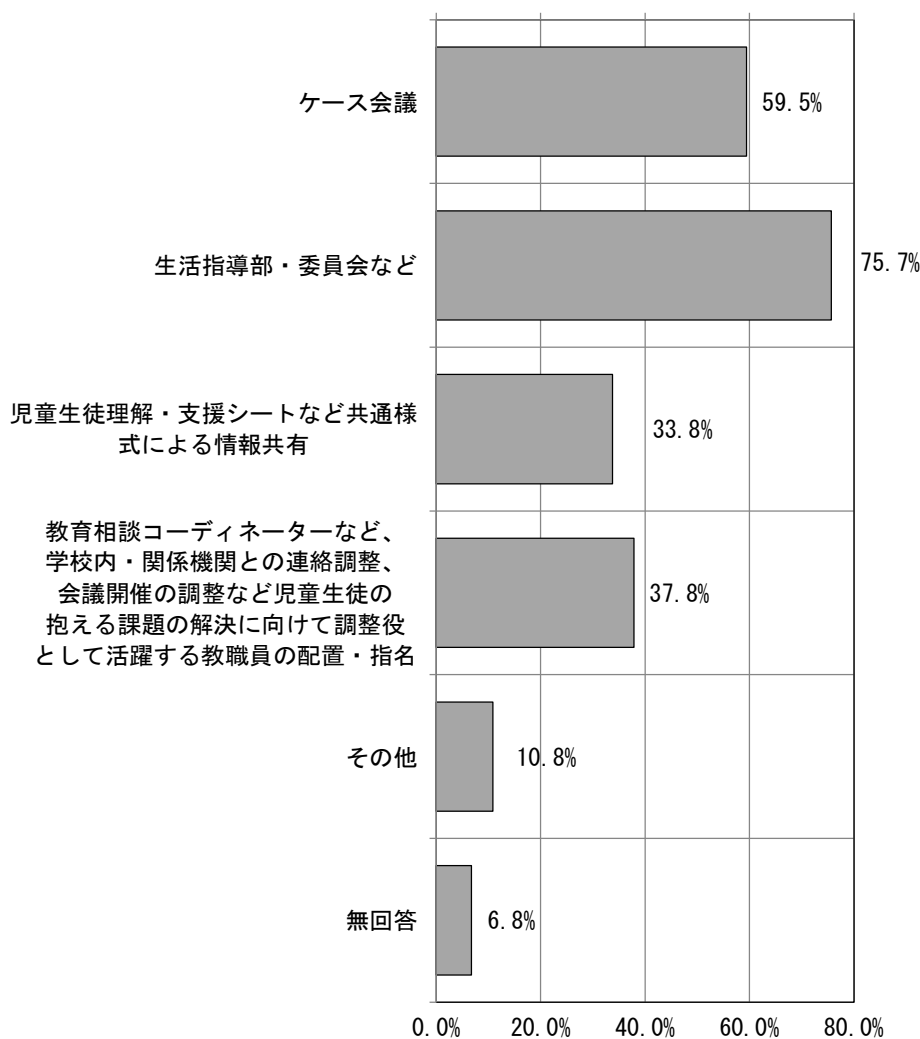


### ③具体的な体制

問 5.問 4 で、「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方に伺います。校内では、どのような体制で情報共有・検討を行っていますか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「生活指導部・委員会など」が 75.7%と最も多く、次いで「ケース会議」が 59.5%、「教育相談コーディネーターなど、学校内・関係機関との連絡調整、会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活躍する教職員の配置・指名」が 37.8%、「児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有」が 33.8%となっている。

n=74



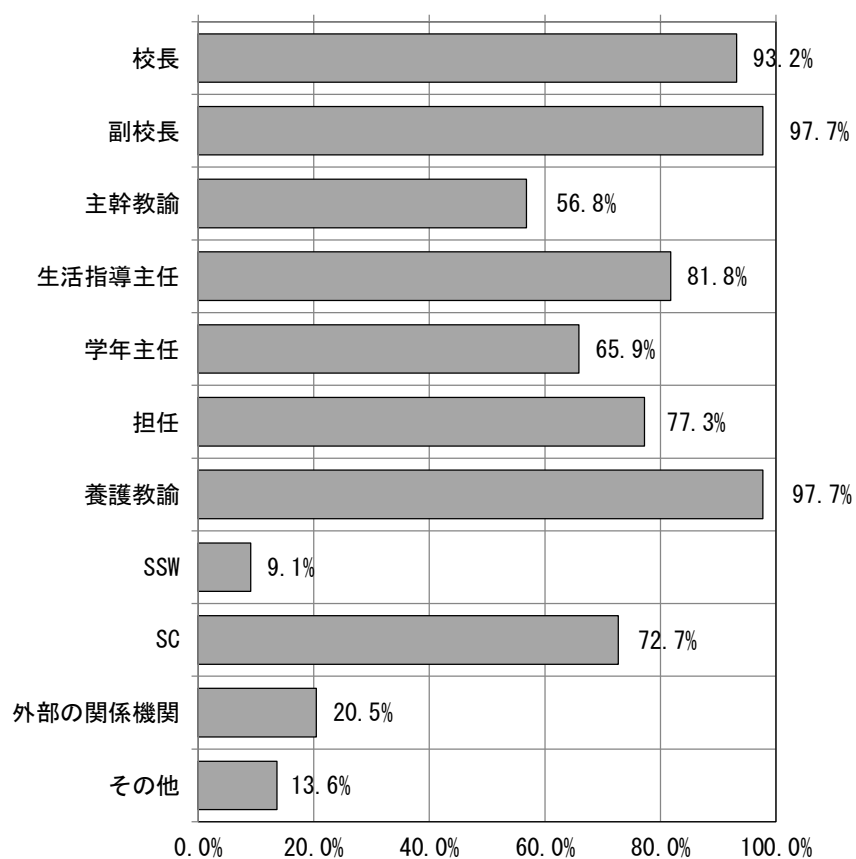
#### ④参加者・会議の頻度

問 6.問 5 で「ケース会議」、「生活指導部・委員会など」、「その他」で情報共有・検討を行っているとお答えの方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

##### i)-a ケース会議の参加者

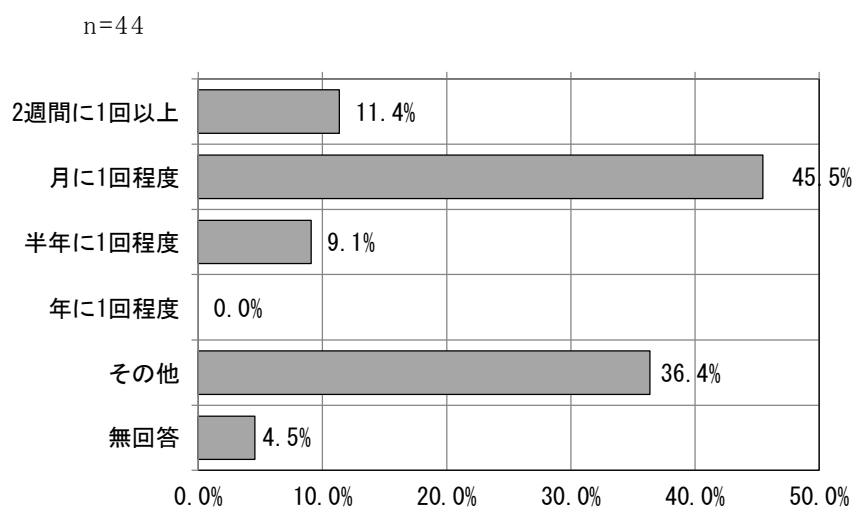
「副校長」「養護教諭」がそれぞれ 97.7%と最も多く、次いで「校長」が 93.2%、「生活指導主任」が 81.8%となっている。

n=44



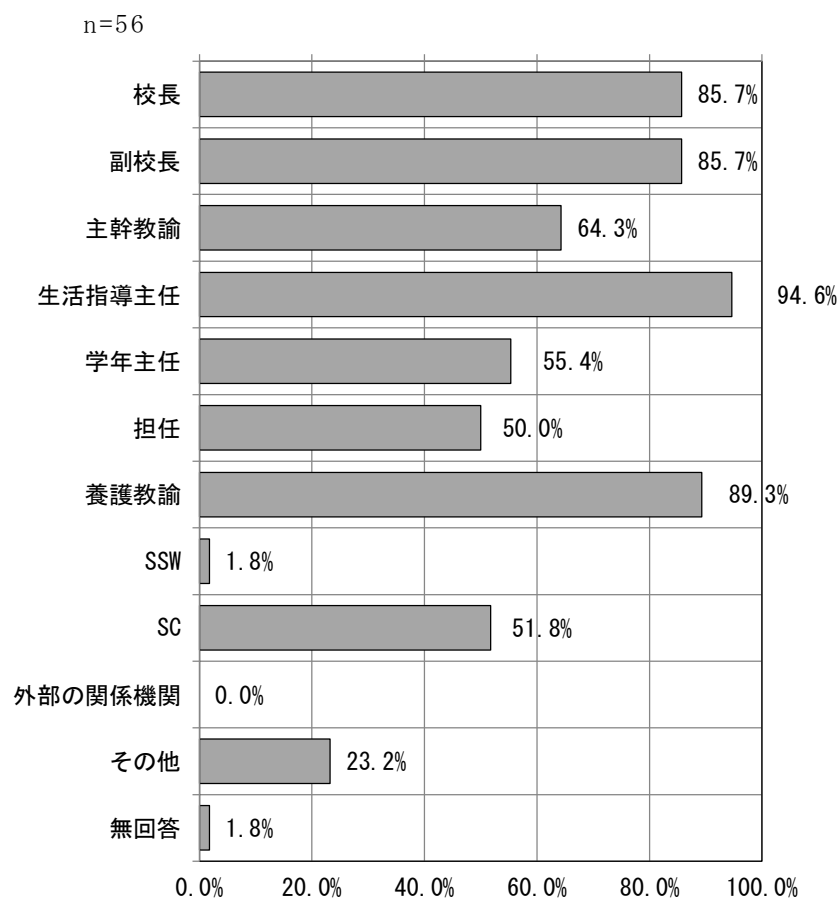
i)-b ケース会議の頻度

「月に1回程度」が 45.5%と最も多く、次いで「2週間に1回以上」が 11.4%、「半年に1回程度」が 9.1%となっている。「その他」は 36.4%で、「必要に応じて」という回答が多くなっている。



ii)-a 生活指導部・委員会の参加者

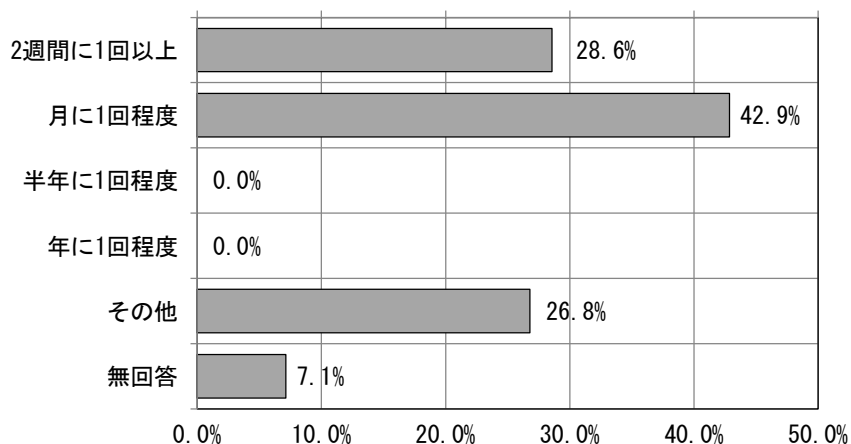
「生活指導主任」が 94.6%と最も多く、次いで「養護教諭」が 89.3%、「校長」「副校長」がそれぞれ 85.7%となっている。



ii)-b 生活指導部・委員会の会議の頻度

「月に1回程度」が42.9%と最も多く、次いで「2週間に1回以上」が28.6%となっている。「その他」は26.8%で、「週に1回」という回答が多くなっている。

n=56



iii)-a その他の会議の参加者

回答があったのは8校で、「副校長」が8件と最も多く、次いで「生活指導主任」「担任」「養護教諭」がそれぞれ7件となっている。

iii)-b その他の会議の頻度

回答があったのは8校で、「半年に1回程度」が2件、「2週間に1回以上」「月に1回程度」がそれぞれ1件となっている。「その他」は5件で、「必要に応じて」「週に1回」などの回答があった。

## ⑤具体的な対応状況

問 7.問 4 で「個別に対応している」と回答した方にお伺いします。問 3 の「校内で共有しているケース」について、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えてください。（自由記述）

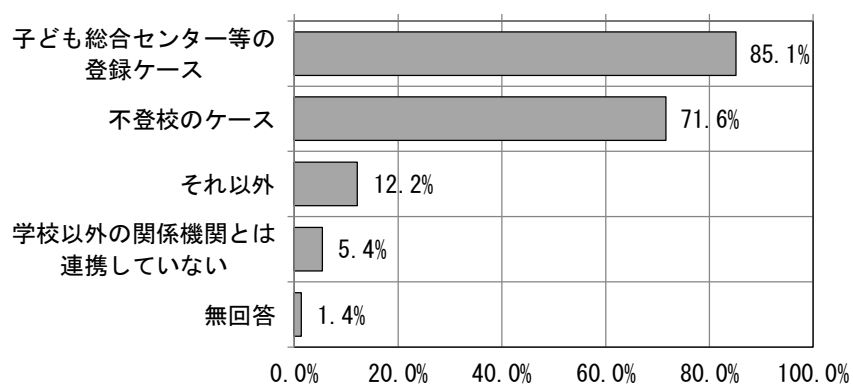
具体的な対応状況	
①管理職、生活指導主任、学年主任、養護教諭で校内委員会を行う。毎週生活指導夕会で全教職員で情報共有をする。	小学校
②週 1 回、全教職員参加の生活夕会で、共有。また、ケースにより、必要がある都度、主任と管理職、該当学級担任などによる対策会議を行っている。	小学校
③関わる教職員：管理職、主幹教諭、教諭、養護教諭、特別支援教室専門員、特別支援巡回指導教員、スクールカウンセラー。週 2 回木、金の夕会にて情報共有。月一回の校内委員会にて共有。	小学校
④臨時対策委員会（管理職・生活指導主任・各学年主任・養護）月 1 回	小学校
⑤その都度管理職、担任、学年主任で共有。	小学校

## ⑥学校以外の関係機関との連携体制

問 8. 問 3 の「校内で共有しているケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関をすべてチェックしてください。

「あり」という回答は、「子ども総合センター等の登録ケース」で 85.1%と最も多く、次いで「不登校のケース」で 71.6%、「それ以外」で 12.2%となっている。

n=74

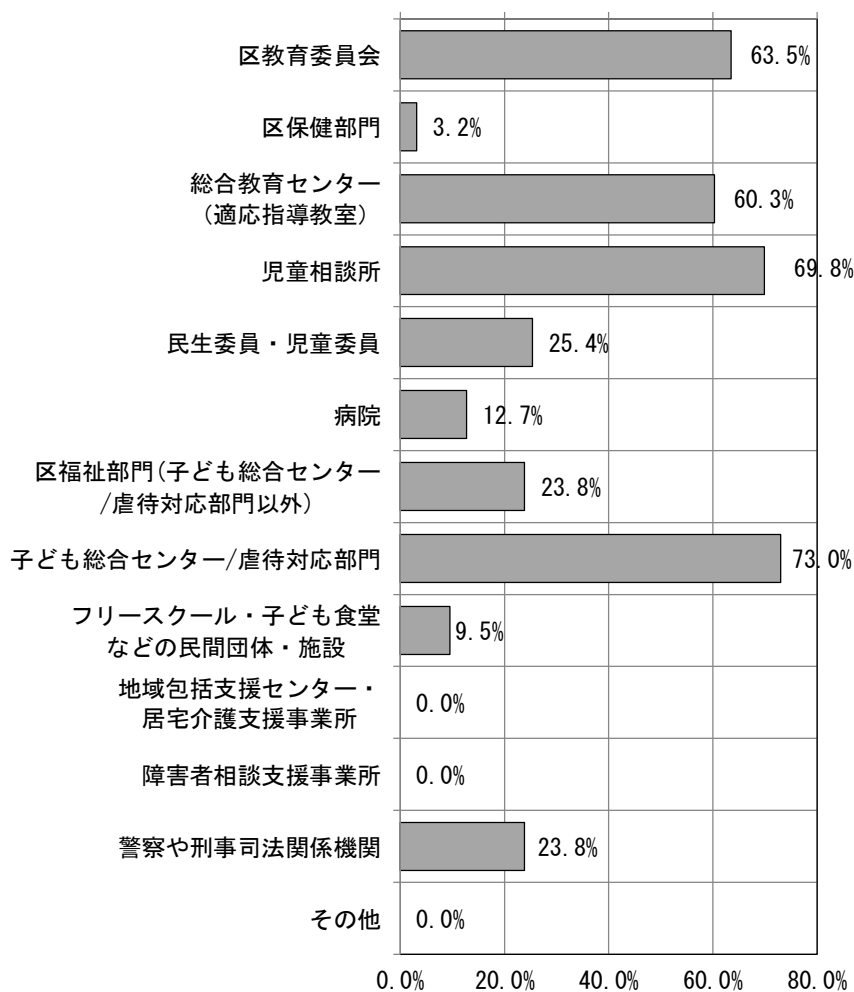




i) 子ども総合センター等の登録ケースの連携関係機関

「子ども総合センター/虐待対応部門」が73.0%と最も多く、次いで「児童相談所」が69.8%、「区教育委員会」が63.5%、「総合教育センター(適応指導教室)」が60.3%となっている。

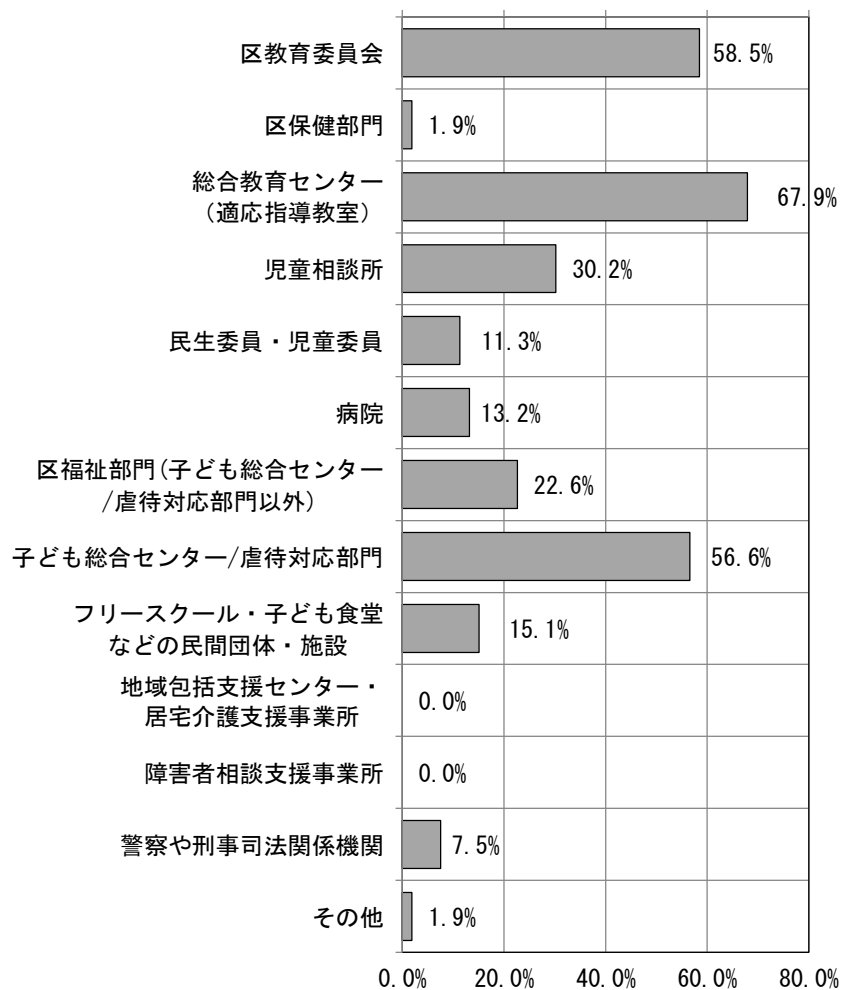
n=63



ii) 不登校のケースの連携関係機関

「総合教育センター(適応指導教室)」が 67.9%と最も多く、次いで「区教育委員会」が 58.5%、「子ども総合センター/虐待対応部門」が 56.6%、「児童相談所」が 30.2%となっている。

n=53



iii) それ以外の連携関係機関

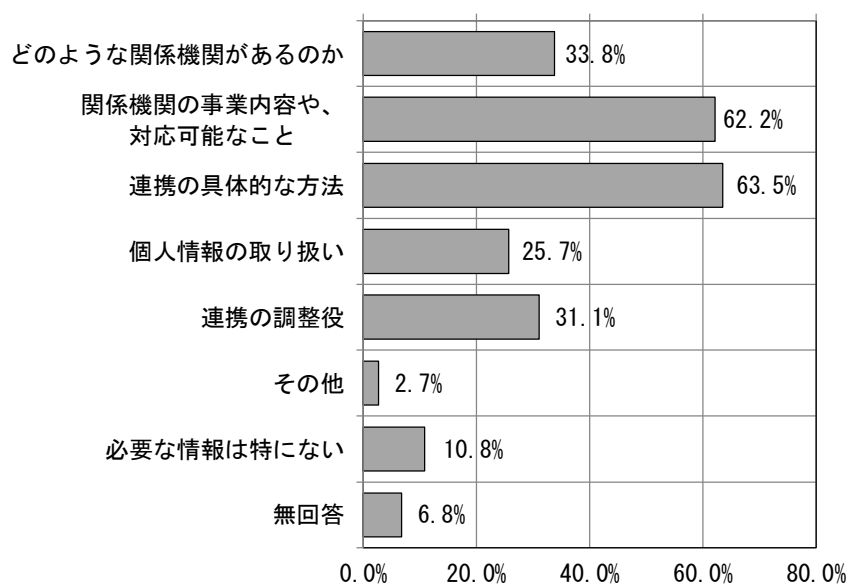
回答があったのは9校で、「児童相談所」「子ども総合センター/虐待対応部門」がそれぞれ8件と最も多く、次いで「区教育委員会」「警察や刑事司法関係機関」がそれぞれ7件となっている。

## ⑦関係機関と連携する場合に必要な情報

問 9.関係機関と連携する場合に、特に必要な情報はありますか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「連携の具体的な方法」が 63.5%と最も多く、次いで「関係機関の事業内容や、対応可能なこと」が 62.2%、「どのような関係機関があるのか」が 33.8%、「連携の調整役」が 31.1%となっている。

n=74



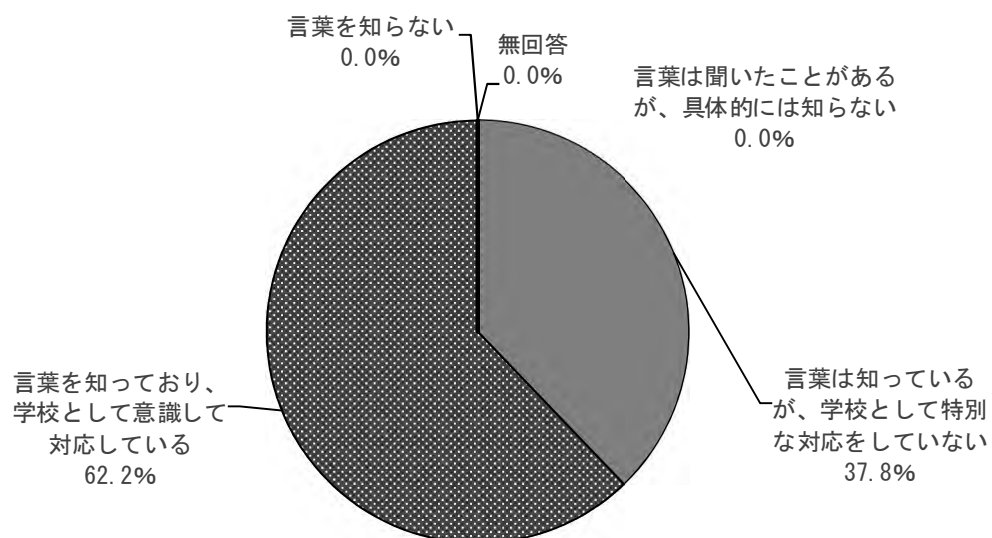
## 2 ヤングケアラーについて

### ①「ヤングケアラー」という概念の認識

問 10. 貴校では、「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が 62.2%と最も多く、次いで「言葉は知っているが、学校として特別な対応をしていない」が 37.8%となっている。

n=74

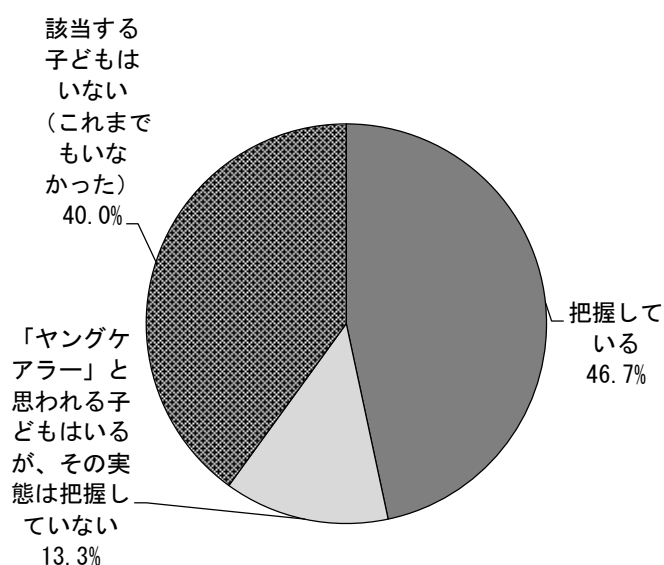


## ②「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握状況

問 11.問 10 で「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と答えた方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「把握している」が 46.7%と最も多く、次いで「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」が 40.0%、「『ヤングケアラー』と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が 13.3%となっている。

n=45

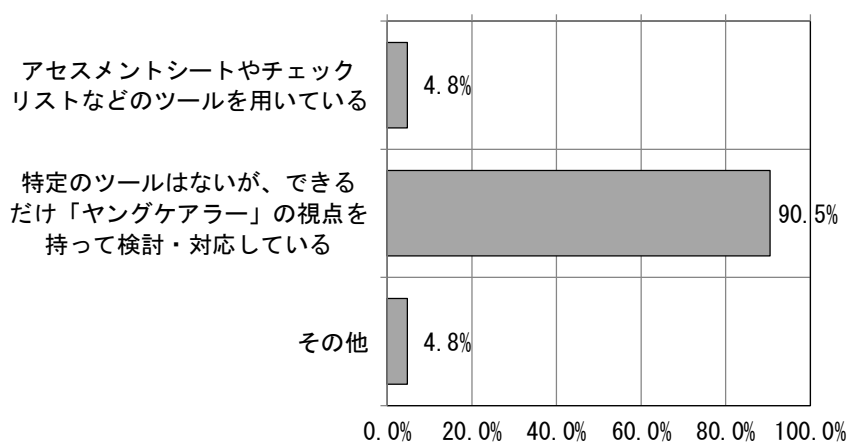


### ③実態把握の方法

問 12.問 11 で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を「把握している」と答えた方にお伺いします。どのように把握をしていますか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している」が90.5%、「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」「その他」がそれぞれ4.8%となっている。

n=21



#### ④ヤングケアラーと思われる子どもの有無

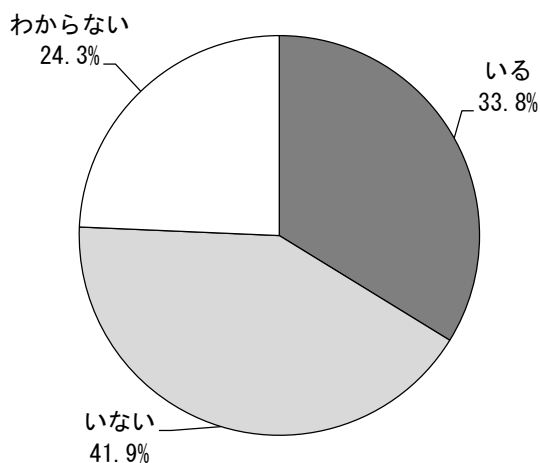
問 13.ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、今回の調査では「本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。」と捉えます。「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、以下の設問にお答えください。

現在、貴校にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「いる」が 33.8%、「いない」が 41.9%、「わからない」が 24.3%となっている。

n=74

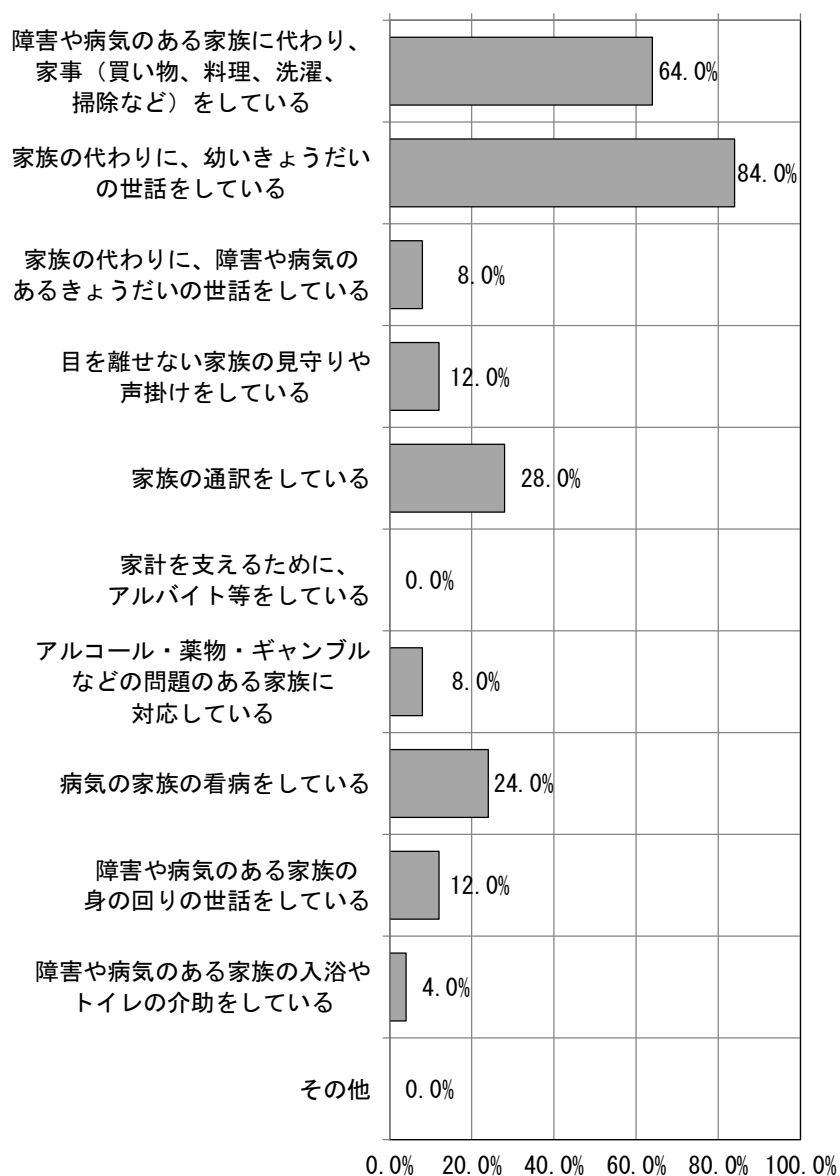


## ⑤ヤングケアラーと思われる子どもの状況

問 14.問 13 で、ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる子どもの状況にあてはまるもの全てにチェックをしてください。（「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、お答えください。）

「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が 84.0%と最も多く、次いで「障害や病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている」が 64.0%、「家族の通訳をしている」が 28.0%、「病気の家族の看病をしている」が 24.0%となっている。

n=25





## ⑥外部の支援につないだケースの有無

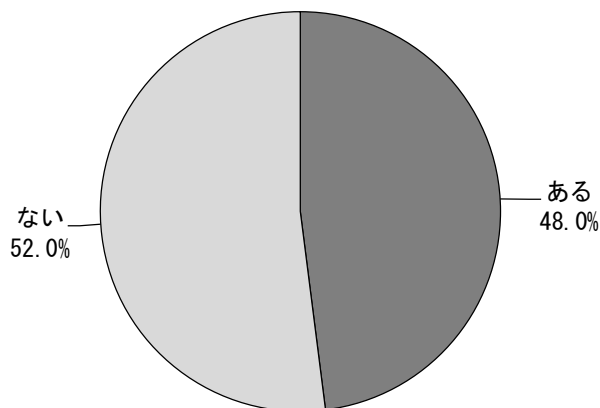
### i) 子ども総合センターに通告したケースの有無

問 15a.引き続き、問 13 でヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。

具体的に学校以外の外部の支援(教育委員会、役所、子ども総合センターなど)につないだケースのうち、「子ども総合センターに通告したケース」はありますか。(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「ある」が 48.0%、「ない」が 52.0%となっている。

n=25



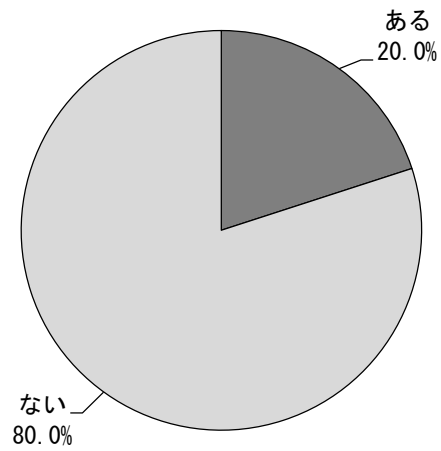
ii) 子ども総合センター以外の外部の支援につないだケースの有無

問 15b.引き続き、問 13 でヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。

具体的に「子ども総合センターに通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」はありますか。(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「ある」が 20.0%、「ない」が 80.0%となっている。

n=25



## ⑦子ども総合センターに通告したケースについて

問 16.問 15 で「子ども総合センターへ通告したケースがある」、と回答した方へお伺いします。  
該当する直近のケースについて、事例として1件お教えてください。

12校から回答があった。

### i) 性別

「女性」が9件、「男性」が3件となっている。

### ii) 学年

「中学2年生」が5件、「小学4年生」「小学6年生」「中学1年生」がそれぞれ2件となっている。

### iii) 学校生活の状況

「学校を休みがちである」が7件、次いで「遅刻や早退が多い」「精神的な不安定さがある」「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」がそれぞれ6件となっている。

### iv) 家族構成

「母親」がいる家庭は12件、「きょうだい」は10件、「父親」「その他」はそれぞれ3件となっている。

### v) ケアの状況を把握しているか

「はい」が8件、「いいえ」が3件となっている。

### vi) ケアを必要としている人

回答があったのは8校で、「きょうだい」が7件、「母親」が4件となっている。

### vii) ケアを必要としている人の状況

回答があったのは8校で、「若い」が7件、精神疾患(疑い含む)が3件、「精神疾患や依存症以外の病気」が1件となっている。

### viii) ケアの内容

回答があったのは8校で、「きょうだいの世話や保育所への送迎など」が6件、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が4件、「見守り」が2件、「通院の付き添い」「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」がそれぞれ1件となっている。

## ix) ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ	
①母親シングルマザー。以前、虐待案件として、児童相談所対応案件。遅刻が多くなり、児童への聞き取りの中で、洗濯物を干してからじゃないと、登校できないと発言。この発言でヤングケアラーの傾向と学校は認識。	小学校
②当該児童本人が家庭での過ごし方について担任教員に話したことで気づいた。	小学校
③保健室で養護教諭と話している。	小学校
④担任の聞き取り、家庭訪問、SSWの訪問でわかった。	中学校
⑤小学校からの引継ぎ。	中学校
⑥本人からの申し出により、家庭状況の様子が明らかとなった。	中学校
⑦遅刻の多さから本人に聞き取りをしたところ、母がいないので保育園の送り迎え等があると答えた。保護者への聞き取りを行うと、祖母は母へ、母は本人に家事分担するように子供の送り迎えをさせていた。	中学校
⑧欠席が増えた。	中学校
⑨保護者から早退させて欲しいと電話があり、理由を確認すると、本人はそのことを否定。	中学校
⑩転入した際、前籍校からの情報。	中学校

## x) 子ども総合センターへの通告ルート

「学校から直接連絡」が9件、「その他」が2件となっている。

## x i) 学校で行った支援(子ども総合センターとの連携も含めて)

学校で行った支援	
①家庭的な状況が難しい状況にあることを情報共有し、宿題忘れや持ち物が整わないことを無理に責めないようにしている。「子ども食堂」や「ショートステイ」などを利用しているなどの情報を連携している。母親への伝達事項などを子ども総合センターを介して伝えるなど、今後も連携して適切な支援方法を探っている。	小学校
②学校で過ごしている様子について担任教員以外の教員からも情報を集め、当該児童の学校生活に支障が生じていないかを確認した。そして、学校生活の過ごし方について気にかかることを担任教員から適宜当該児童の保護者へ情報提供を行った。併せて当該児童に対してスクールカウンセラーによる実態観察と個別面談を行った。	小学校

③保護者と面談し、負担をへらすように話す。本人の負担(感)によって学校のことができなくなっていることをフォローし、全てできなくても担任が厳しく指導したりせめたりしないよう配慮した。	小学校
④SSWにつないで、区の福祉の支援につなげた。	中学校
⑤担任の家庭訪問。SC面談。	中学校
⑥子ども総合センターと連携し、本人への聞き取りや家庭訪問を実施した。	中学校
⑦保護者への連絡と同居祖母への連絡。子ども総合センターの担当者からは、本人へ「現在は家事分担のようになっているが、本来は保護者の行うべきことで、あなたが母になった際には子供にさせないことが正しい選択肢になる」ことを指導していただいた。	中学校
⑧本人と学校で面談後、子ども総合センターから家庭訪問してもらった。	中学校
⑨保護者と本人を電話で話をさせ、早退しないことを納得させる。子ども総合センターには、時系列で報告。	中学校
⑩家庭訪問、SSW、子ども総合センターと連携、制服、学用品の貸与。	中学校

x ii) 支援した結果、子どもへの変化

支援した結果、子どもへの変化	
①特別支援教室の入室により、学習への意欲の向上、周りの大人を信用してSOSを伝える、コミュニケーション能力の向上などの良い変化が見られた。	小学校
②当該児童は家での出来事等を気兼ねなく担任教員やスクールカウンセラーに話し、穏やかな様子で学校に通学することができている。	小学校
③遅刻、早退がへり、クラスの友達と楽しそうにすごす姿をみることがふえた。	小学校
④母親が生活保護になったことで、生活が安定すると思われる。兄は自覚して高校進学を目指しているが、弟は、引きこもりの状態である。	中学校
⑤家庭の状況は大きく変化したわけではないが、生徒本人が、「誰かに相談できること」により安心感を得ている。	中学校
⑥変化は見られなかったが、弟が小学校へ入学したら遅刻は激減した。	中学校
⑦欠席が減った。	中学校
⑧早退要望は少し減少。	中学校
⑨欠席や遅刻は多いが、登校することが少しずつ増えている。	中学校

## ⑧子ども総合センター以外の外部の支援につないだケースについて

問 17. 問 15 で「子ども総合センターに通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として1件お教えてください。

5校から回答があった。

### i) 性別

「女性」が4件、「男性」が1件となっている。

### ii) 学年

「小学4年生」が3件、「中学1年生」が2件となっている。

### iii) 学校生活の状況

「遅刻や早退が多い」が4件、「学校を休みがちである」「精神的な不安定さがある」「学力が低下している」「宿題や持ち物の忘れ物が多い」「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」がそれぞれ3件となっている。

### iv) 家族構成

「母親」「きょうだい」がいる家庭はそれぞれ4件、「祖母」は3件、「父親」「祖父」はそれぞれ2件となっている。

### v) ケアの状況を把握しているか

「はい」が4件、「いいえ」が1件となっている。

### vi) ケアを必要としている人

回答があったのは4校で、「きょうだい」が2件、「母親」「祖父」がそれぞれ1件となっている。

### vii) ケアを必要としている人の状況

回答があったのは4校で、「若い」が2件、「高齢(65歳以上)」「精神疾患(疑い含む)」がそれぞれ1件となっている。

viii) ケアの内容

回答があったのは4校で、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が3件、「きょうだいの世話や保育所への送迎など」が2件、「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」「見守り」がそれぞれ1件となっている。

ix) ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ	
①本来登校している時間に買い物をしていた。	小学校
②母親がシングルマザー。母親は出産を機に身動きがとれず、寝ていることが多い。本人にお金(お小遣い)をあげて家事を手伝ってもらっている。本人は、好きなものが買えるということで、好意的にお手伝いをしているようである。以上のことを、本校のスクールカウンセラーが本人から聞き取った。	小学校
③基本的な生活習慣が身につけていない。	小学校
④本人の申告。	中学校
⑤同居していない父からの情報提供があったり、本人から担任への申し出もあった。	中学校

x) つないだ機関

つないだ機関	
①母親の妊娠を機に、児童の遅刻や欠席が目立ったので、子ども総合センターに電話した。その中で、母親の出産にかかわる形で保健師さんが家庭への訪問をしていることから、保健師とつながって、児童の支援やサポート体制、学校への連絡などを伝えてもらった。	小学校
②SCにはつないでいるが、今後、SSWか子ども家庭支援センターにつなげる予定。	中学校
③子ども総合センター。	中学校

x i) 外部機関へのつなぎ方

「学校から直接連絡」が3件、「区教育委員会経由」が1件となっている。

x ii) 学校で行った支援(つなぎ先との連携も含めて)

学校で行った支援	
①担任以外に、養護教諭、SC、副校長が児童の相談窓口になれるようにした。遅刻や欠席が連続するときは、所在・生存確認のため養護教諭が自宅まで確認	小学校

しに行った。学習面については、巡回指導員による取り出し指導を行っている。	
②教育委員会(不登校対策班に)連絡している。	小学校
③担任、養護教諭、SC等の聞き取り。	中学校
④子供の虐待について子ども総合センターと連携しつつ、同居していない父が子どもの親権を持つことから同居を目指したことについては警察との連携を取った。	中学校

x iii) 支援した結果、子どもへの変化

支援した結果、子どもへの変化	
①沈みがちだった顔が笑顔になった。周りの大人の声掛けを肯定的に受け止めるようになった。遅刻はあるが、自分の力で学習の準備をしたり、登校できたり、生活スキルの部分で自立できていることが増えてきた。	小学校
②頻繁に保護者に連絡するようになっている。	小学校
③継続支援中。	中学校
④親権を持つ父親に引き取られ、他校へ転校し介護からは解放されたが、実の父の虐待が心配される。	中学校



## ⑨外部の支援先につながなかった理由

問 18.問 15 で「外部の支援にはつないでいない(学校で対応している)」と答えた方にお伺いします。外部の支援先につながなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください。(自由記述)

外部の支援先につながなかった理由	
①子ども総合センターへの通告はしていないが、以前から子ども総合センターと繋がっているため、常に出席状況や学校での様子、家庭での様子などを情報共有しています。	小学校
②現在、児童の様子から疑わしいと思うケースが1例あるが、本人への聞き取りでは、ヤングケアラーであることが確認できていない。スクールカウンセラーにも相談し、かかわりをもつよう依頼している。	小学校
③子ども総合センターから学校へ情報提供があり、連携して対応したから。	小学校
④学校生活に大きな支障がないため。	中学校
⑤生活の乱れはないものの、親の日本語が不十分なことから、日本語の通訳をしていることが虐待に当たらないか心配していたが、つなぐまでの必要はなかった。	中学校
⑥ケース会議で共有し、スクールカウンセラーが対応している。	中学校
⑦週1回行われている特別支援委員会で共有し、SCなどに相談をつなげる様になっている。	中学校
⑧本人が希望していない。	中学校

## ⑩ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

問 19.ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。(自由記述)

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること	
①学校生活アンケート、担任のチェック、本人からの訴えなどから把握できるように努めています。	小学校
②朝登校出来なかったときは、なるべく迎えに行く。	小学校
③保護者の感覚、必要性が個々に違うので、十分なコミュニケーションをとるようにしている。	小学校
④保護者を過度に刺激することなく、かつ毅然として対応すること。	小学校
⑤児童の話をよく聴き、児童に寄り添って、保護者とよく話し合って対応することを心掛けています。	小学校

⑥問題行動やネグレクト案件に対して、早期に管理職への報告体制を確立している。家庭的な要因が考えられる場合は、SCや養護教諭など、担任とは異なるチャンネルで安心感を与え、聞き取るようにしている。校長、副校長主導で外部機関との連携をすすめる(現在は、子ども総合センターとの連携が主)。ヤングケアラーのチェックリストなどを活用し、教職員が早期に気付けるようにする。	小学校
⑦学校職員全体で共有化している。	小学校
⑧対象児童が心理的に追い込まれないよう言葉掛けの内容に留意しつつ、当該児童が家庭での困り事などを気後れなく話せるようホスピタリティをもって話を聞き取るようにしている。	小学校
⑨ヤングケアラーと思われる児童(特に高学年女兒)と保護者は家庭の内情について本当のことを言わないことが多いので、話をうのみにしないこと。	小学校
⑩該当すると思われる家庭と学校全体で共有し、日々の児童の様子を細かく観察する。	小学校
⑪親への投げかけ	中学校
⑫校内での情報共有。	中学校
⑬生徒の気持ちの変化を見逃さず、関係性を築けている教職員が聞き取りをすすめる。	中学校
⑭週に2回、校内で特設委員会を開き、生活指導面と特別支援的な視点で生徒の実態把握と共通理解を図っている。	中学校
⑮負担が大きくないかを声掛けしている。	中学校
⑯情報収集、情報共有、関係諸機関との連携。	中学校
⑰生徒から実態をききやすい雰囲気づくり(前面に出さずに会話で把握する)。	中学校
⑱教員全体で現状の把握、対応について理解。	中学校
⑲情報の集約。	中学校

⑪ ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

問 20. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的に教えてください。(自由記述)

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること	
① 仮に該当していたとしても、本人が保護者のことを心配して、なかなか担任に言いにくいのではと思います。	小学校
② 家庭にどの程度踏み込めるのか。	小学校
③ 家事の手伝い、家族の一員として兄弟のお世話をすることとの境界線が難しい。ネグレクトとの違い。	小学校
④ 児童が保護者を付度するなどして、実態を正確に伝えようとしない傾向があること。	小学校
⑤ 児童から話をしてくれないと実態が見えづらいことが難しいと感じています。	小学校
⑥ 家庭への連絡(つながらないことが多い。関係性を崩したくないので、マイナス面を聞きにくい)。家庭での改善を求めることは難しい(学校だけでは、どうにもならない案件が多い)。母親や父親の精神的な波などに対応していくこと。登校支援(学校の人的資源では、日々の登校支援が難しい)。区として家庭と学校のお迎えサービス(送迎サービスなど)の拡充、申請の簡易化をお願いしたい。	小学校
⑦ 対応が改善に結びつかない。	小学校
⑧ 対象児童の保護者と当該児童の負担の軽減に向けてどのように話し合いを進めていくかが難しい(対象児童の保護者が家庭生活の維持に関して切迫した思いや支援を求める意向をもっているため)。	小学校
⑨ 支援を当の家族が必要としていない、家庭内のことを明らかにしたくない場合、進展しないことがある。	小学校
⑩ 家庭の中のことで、どこまで指導をすべきかを悩む時がある。	小学校
⑪ 親の理解。	中学校
⑫ 困り感がなく、本人が認めない、自覚がない。	中学校
⑬ 家庭との連絡が取りづらい。	中学校
⑭ 家庭の状況なので把握しづらい。支援先を見つけるのが難しい。	中学校
⑮ 家庭で起こっているために、どの程度まで入って良いのかが難しい。また、すべての時間において関わるのが難しいので、誰とどのように繋がるのが良いのかというところに難しさを感じている。	中学校
⑯ 家庭の内情を家族が話してくれるとは限らない。	中学校
⑰ 情報が、通告がないと発見しにくい面がある。	中学校

⑱家庭内のことを保護者・本人から聞き取りづらい	中学校
⑲保護者の警戒心。	中学校
⑳他の生徒に知られたくない場合の対応を慎重に。	中学校
㉑本人が不都合を感じていない(当然だと思っている)ため、SOSが出ない。	中学校

⑫ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について

問 21.問 3 で伺った項目について、ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目として活用する場合、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。  
(自由記述)

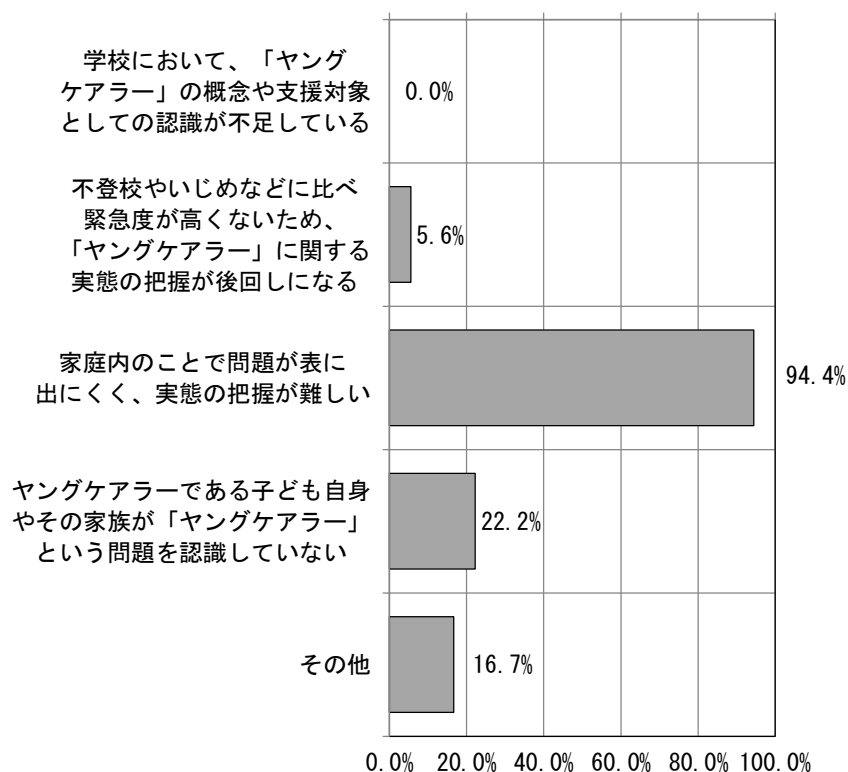
ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について	
①家庭のことを聞いても、反応がない。長期休業明けに感想を書けない(旅行など、お楽しみの活動を家庭でしていない)。	小学校
②身だしなみ、リストカットの表れ等。	中学校
③本人からの訴え。	中学校
④体にあざがある。	中学校
⑤家庭と連絡がとりづらい。	中学校
⑥保護者(家族)と連絡がとりづらい。	中学校

### ⑬ ヤングケアラーと思われる子どもの存在がわからない理由

問 22.問 13 で、ヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもがいるか「分からない」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が 94.4%と最も多く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が『ヤングケアラー』という問題を認識していない」が 22.2%、「その他」が 16.7%、「不登校やいじめなどに比べ緊急度が低いいため、『ヤングケアラー』に関する実態の把握が後回しになる」が 5.6%となっている。

n=18

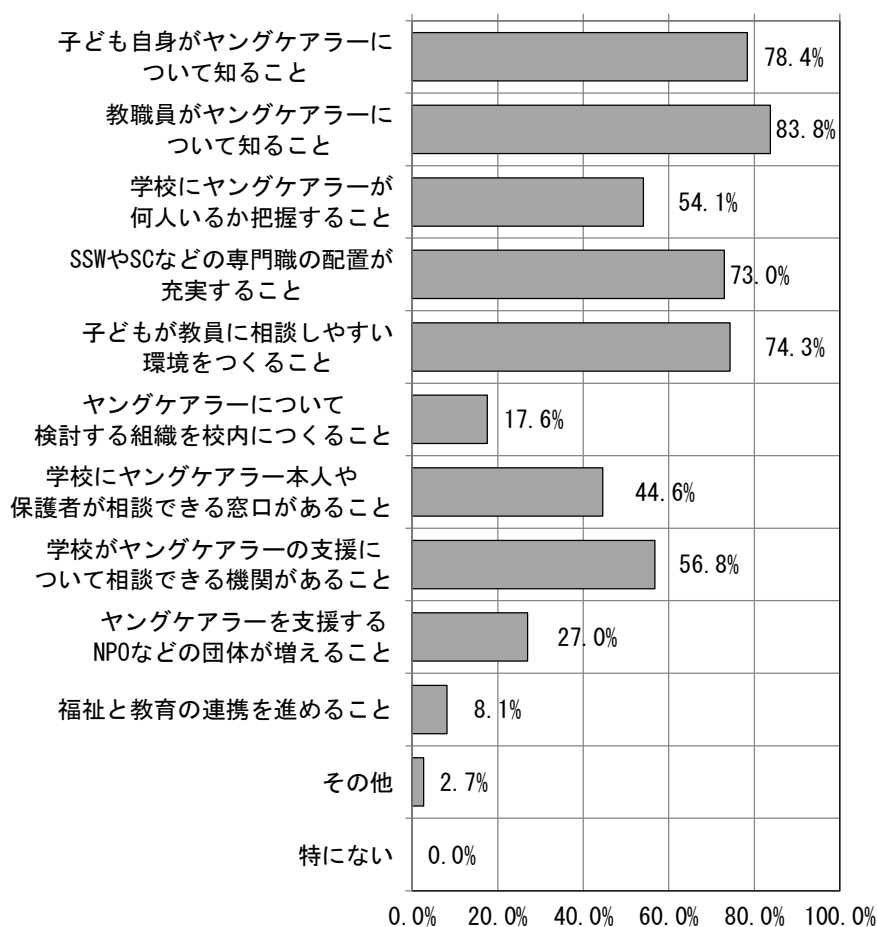


#### ⑭ ヤングケアラーを支援するために必要なこと

問 23. ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「教職員がヤングケアラーについて知ること」が83.8%と最も多く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が78.4%、「子どもが教員に相談しやすい環境をつくること」が74.3%、「SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること」が73.0%となっている。

n=74



### 3 自由意見

問 24. ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。(自由記述)

自由意見には 20 件の回答があった(小学校 16 件、中学校 4 件)。「家庭内の問題なので学校で把握するのは難しい」「ヤングケアラーの問題は重要だが、多忙な教員が対応するのは難しい」などの意見があった。

自由意見(小学校)
①SCとの面談、子ども総合センター等との情報共有など様々なアンテナを張っています。また、学校生活アンケートや欠席理由などにも気を付けています。発見した場合の具体的な支援や相談窓口がさらに増えると良いと思います。学校でも、引き続き本件については、取り組んでいきたいと思っています。
②学校内での把握は、非常に難しいと感じているが、もしかすると苦しんでいる児童がいるかと思うと心苦しい。アンケートなどで、共通理解できることがあれば実施していきたいと思うが、教員もこのような事態があることを認識しなければならないと思っている。
③ヤングケアラーについて、学校は窓口になることはできるが、その後アウトリーチしていかないと、教員に相談されてもなかなか解決には向かわないと思われる。学校としても、ヤングケアラーの存在は確認し、可能な配慮は行っていくべきであるが、教員や担任にそのケアをさせるのは難しい。校務としては行えないと考える。
④ヤングケアラーの問題を解決しなければならないことは重々承知している。しかし、いじめ対応と不登校対応を精一杯取り組んでおり、授業の準備に支障が出ている業務過多の状況である。
⑤家庭での問題は、表面化しにくく実態把握が難しい面があります。ヤングケアラーに限らず、周囲の大人が早期に個々の児童の抱える家庭での問題に気づき、関係機関と連携して解決に向けて対応していくことが大切だと思います。
⑥家庭内のことなのと勤務時間外のことも多く、教員が関われないことが多い。SSWやSCの活用や配置の工夫が必要ではないか。
⑦学校だけで支援はできない。学校は最初にヤングケアラーの状況に気付く場所ではある。様な家庭の要因によるもので、福祉的なサポートが必要である。連携してわかることは、子ども総合センターも児童相談所の職員の皆さんも懸命に対応をいただいている。しかし、人手が足りない現状がある。先生以外に日常的に児童と母親に関われるSSWの拡充が急務であると考えます。一校に一人配置のSSWや、例えば、地区センター内にSSWを数名常勤させ、その地区の学校で抱える事案をすぐに相談する体制が取れるとよい。民生児童委員にも、日常

<p>的に家庭サポート、児童支援、学校との連携など、このSSWに協力してほしい。</p> <p>ヤングケアラーの問題は不登校の問題を包含する問題である。学校には、新たに心理カウンセラーや福祉的な資格を持っている不登校対策の担当職員を配置し、不登校対策の中で、ヤングケアラーの問題が見られたときに、その職員を中心に外部との連携をすすめていく。このようにある程度お金をかけていかないと解決できないと考える。</p>
<p>⑧区内での研修を充実してほしい。</p>
<p>⑨現状として、ヤングケアラーの疑いがある児童は在籍していないと思われるが、子どもがいつそういった環境に陥るかは予想できない。日頃から注意して子どもを見守りつつ、ヤングケアラーの疑いが見られたときには、迅速に対応できるように日頃から注意していきたい。</p>
<p>⑩子供自身が、家族の世話をすることは当然だと思っている。地域社会の中で、弱者を見守る目ができ、連携できるとよい。</p>
<p>⑪子どもの貧困とともに社会的に広く啓発されること。</p>
<p>⑫潜在的なヤングケアラーがいないか組織的に把握をしたいと考える。</p>
<p>⑬福祉の視点から、行政やNPO法人等による家庭支援の充実が大切であると考える。</p>
<p>⑭子ども自身がヤングケアラーという言葉とその内容を知ることが大切だと感じる。決して“お手伝い、ではないということも。子どもが子どもらしく生きていくことのできる明るい社会を目指していきたいと学校も考えている。</p>
<p>⑮どの機関にも働きかける範囲が限られているが、学校組織として対応すべきところは行い柔軟に共有していきたい。</p>
<p>⑯「ヤングケアラー」という言葉を単独で使わず必ず家事や家族の世話を背負わされている子供と併記する。このことによって意味を誰もが理解し、その視点で見ていくことが大切だと思います。</p>

自由意見(中学校)
<p>①ヤングケアラーの生徒が多く、把握が大変。子ども自身はその状態が普通だと思っているので、支援につなげにくい。</p>
<p>②学校にヤングケアラーに関する発見など、初動以外の役割を期待する場合は、人員の配置などが不可欠である。</p>
<p>③ヤングケアラーの生徒を発見した場合、相談できる機関がはっきりしていると助かります。</p>
<p>④区教委や子総と連携して対応しているが、医療的ケアを必要としていると思われる保護者が存在する。</p>



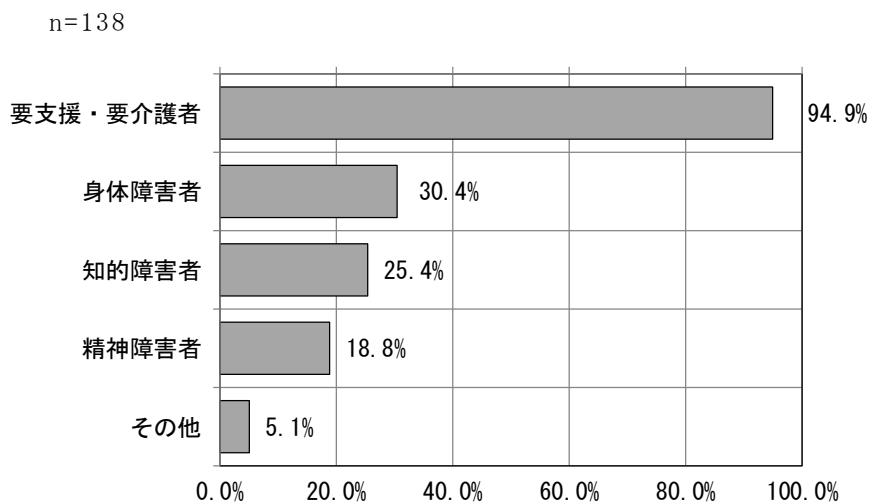
## Ⅱ.高齡及び障害に関わる事業所調査

### 1 基本情報

#### ①サービスの対象者

問 1.事業所で行っているサービスの対象者を教えてください。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「要支援・要介護者」が 94.9%と最も多く、次いで「身体障害者」が 30.4%、「知的障害者」が 25.4%、「精神障害者」が 18.8%となっている。



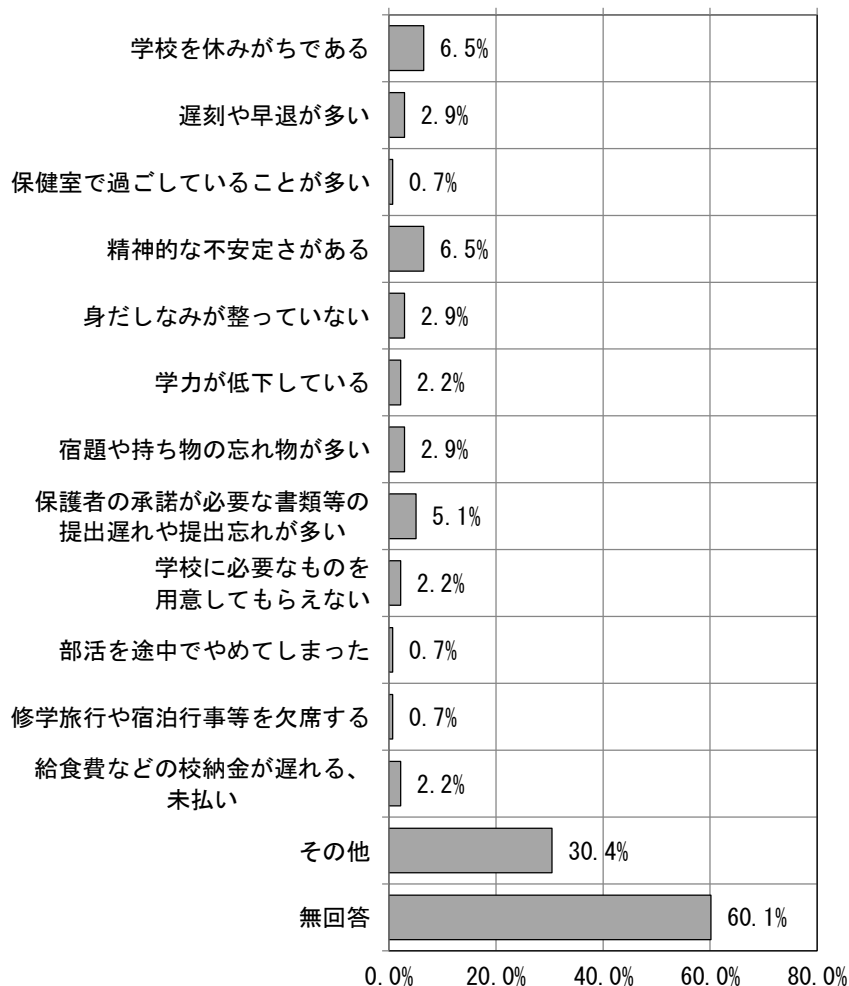
## 2 支援が必要と思われる子どもへの対応

### ①事業所内で共有しているケースの有無

問 2.下記の子どもについて、事業所内で共有しているケースはありますか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「学校を休みがちである」「精神的な不安定さがある」がそれぞれ 6.5%と最も多く、次いで「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」が 5.1%、「遅刻や早退が多い」「身だしなみが整っていない」「宿題や持ち物の忘れ物が多い」がそれぞれ 2.9%となっている。「その他」は 30.4%で、「該当者がいない」という回答が多くなっている。

n=138

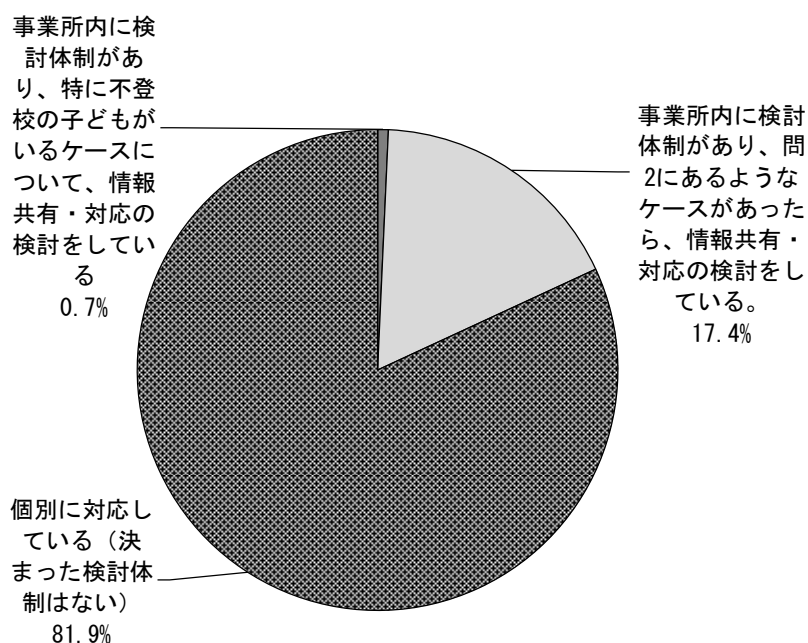


## ②情報共有・対応検討の体制

問3.問2の「事業所内で共有しているケース」について、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「個別に対応している(決まった検討体制はない)」が81.9%と最も多く、次いで「事業所内に検討体制があり、問2にあるようなケースがあったら、情報共有・対応の検討をしている」が17.4%、「事業所内に検討体制があり、特に不登校の子どもがいるケースについて、情報共有・対応の検討をしている」が0.7%となっている。

n=138

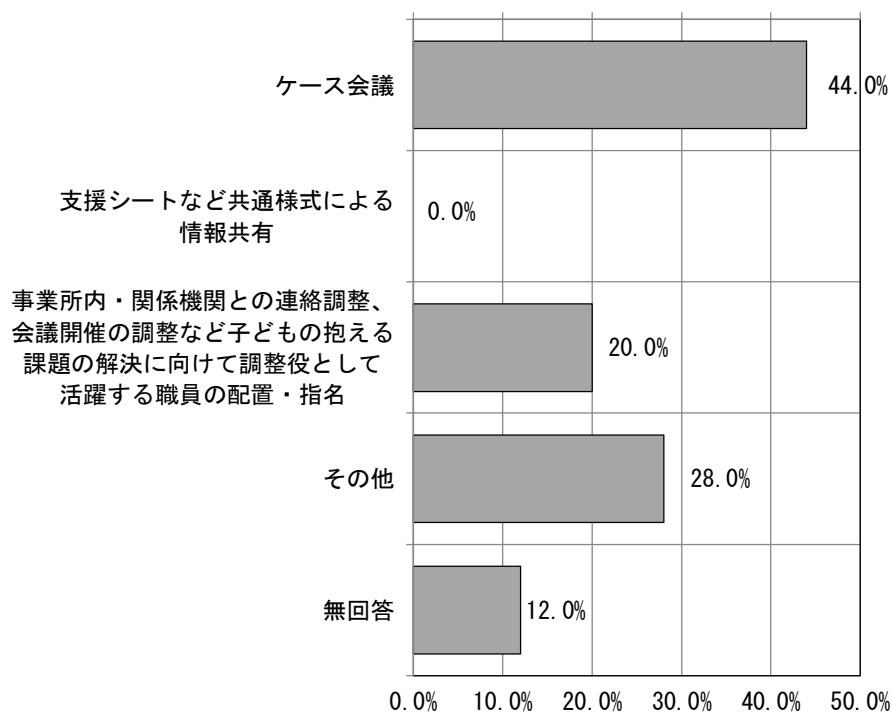


### ③具体的な体制

問 4.問 3 で、「事業所内に検討体制があり、特に不登校の子どもがいるケースについて、情報共有・対応の検討をしている」、「事業所内に検討体制があり、問 2 にあるようなケースがあったら、情報共有・対応の検討をしている。」と回答した方に伺います。事業所内では、どのような体制で情報共有・検討を行っていますか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「ケース会議」が 44.0%と最も多く、次いで「事業所内・関係機関との連絡調整、会議開催の調整など子どもの抱える課題の解決に向けて調整役として活躍する職員の配置・指名」が 20.0%となっている。「その他」は 28.0%で、「これまでこのようなケースはなかったが、今後あれば対応する」などの回答があった。

n=25



#### ④参加者・会議の頻度

問 5.問 4 で「ケース会議」、「その他」で情報共有・検討を行っているとお  
伺いします。どの職員が参加していますか。会議の頻度はどれくらいですか。(あて  
はまるもの全てにチェックをしてください)

##### i)-a ケース会議の参加者

回答者は11人で、「管理者」が8件と最も多く、次いで「介護支援専門員」が6件、「サ  
ービス提供責任者」「訪問介護従事者(訪問介護員、重度訪問介護従事者など)」がそ  
れぞれ5件となっている。

##### i)-b ケース会議の頻度

回答者は11人で、「月に1回程度」が4件と最も多く、次いで「半年に1回程度」が3件、  
「2週間に1回以上」が2件となっている。「その他」は3件で、「必要に応じて適宜」などの  
回答があった。

##### ii)-a その他の会議の参加者

回答者は7人で、「管理者」が6件、「サービス提供責任者」が4件、「訪問介護従事者  
(訪問介護員、重度訪問介護従事者など)」が3件、「介護支援専門員」が2件となっ  
ている。「その他」は2件で、「管理職」などの回答があった。

##### ii)-b その他の会議の頻度

回答者は7人で、「2週間に1回以上」「年に1回程度」がそれぞれ1件となっている。  
「その他」は5件で、「ケースがあれば検討する」などの回答があった。

## ⑤具体的な対応状況

問 6.問 3 で「個別に対応している」と回答した方にお伺いします。問 2 の「事業所内で共有しているケース」について、どのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えてください。(自由記述)

具体的な対応状況(主な回答)
①過去に在宅で緩和ケアを受けられていた男性に中学生のお子さんがいました。お母さんも先に亡くなられていて、私たちは訪問介護でお父さんの身の回りのお世話をさせて頂きました。その時は確かケアマネさんと訪問看護師さんと情報共有していました。お父さんが亡くなった時は、お子さんが心配で学校の先生に連絡をしました。毎日御飯も作りました。
②特に決まった対応はありません。以前の関わったケースでは難病の患者さんを日本語が不自由な奥様と一緒に大学生のお子さんが通訳から介護手技の取得や手続きを一手に担っていました。このケースでは保健師さんを中心に共有していました。
③ケアマネ同士で、事例問題をその都度話し合っています。
④これまでの利用者のケースでは、前記のようなヤングケアラーを見かけたり関わるケースがなかったのもまだ体制としては整えていないが、基本的には各関係機関で随時情報共有を行っている。何か問題が生じたときには、課題について検討するための会議や個別電話相談、チャットを適宜用いて情報共有を行っている。頻度としては、一日に数回～1週間に数回までケースによって異なる。
⑤ヤングケアラーと思われる子供が見られたときにどのように対応したら良いか不安を感じている。
⑥そのような状況がある場合は、管理者・サービス提供責任者・その支援に入る訪問介護員など、また、その子供にかかわる、学校や区役所などと共有する予定。
⑦該当するケースがある場合には、週 1 回の会議時の報告や、所内のカンファレンス等を通して、事業所内で情報共有したり、改善策などを検討する。必要に応じて、地域包括にも相談する。
⑧主任介護支援専門員の研修を受講しヤングケアラーの問題について学びました。今後、地域含め事業所内での対応について検討していきたいと考えています。
⑨訪問時には、利用者だけでなく、家族の言動などにも可能な限り目を配り、異変や違和感があった場合には、管理者や責任者に速やかに報告するよう従業員に周知しています。
⑩週 1 回の会議で話し合いを行い、学校に行く時間等に本人が居た場合、早急に話し合いを家族と持っている。また、本人の状況を訪問しているスタッフに連絡し共有して対応する

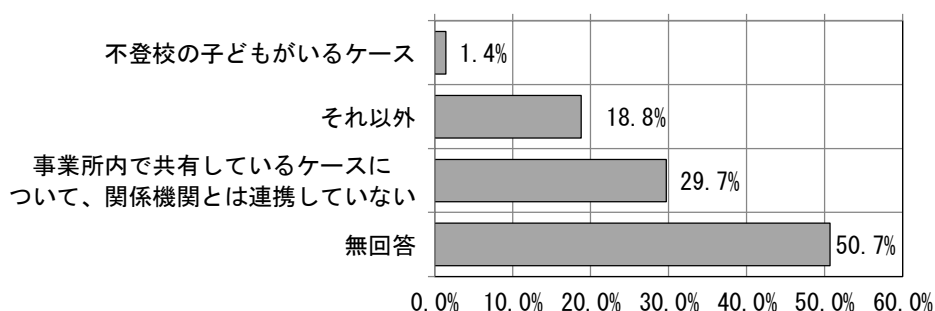
事例もある。
⑪担当ヘルパーとグループラインを使い週1回程度情報共有している。また、ヘルパーがヤングケアラーに声かけし現況の情報収集を行い、小学校、児童相談所と情報共有していた。
⑫日々の申し送りにて、担当している職員から、ケースの報告があり、その場で意見交換している。記録ソフトを活用し、日々の記録を入力している。
⑬普段から併設の訪問看護ステーションの看護師と相談しあえる関係を構築している。
⑭対象のような子供に接する機会がなく、対策は検討していないが、ヤングケアラーの家庭の相談があり、訪問介護を必要としているのであれば対応したいと思っている。

## ⑥関係機関との連携体制

問 7a. 問 2 の「事業所内で共有しているケース」について、関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。

「事業所内で共有しているケースについて、関係機関とは連携していない」が 29.7%と最も多く、次いで「それ以外」が 18.8%、「不登校の子どもがいるケース」が 1.4%となっている。

n=138



## ⑦不登校の子どもがいるケースで連携している関係機関

問 7b. 連携体制がある場合は、連携する関係機関をすべてチェックしてください。

回答者は2人で、「区福祉部門(子ども総合センター/虐待対応部門以外)」「地域包括支援センター・居宅介護支援事業所」がそれぞれ2件、「児童相談所」「子ども総合センター/虐待対応部門」「障害者相談支援事業所」がそれぞれ1件となっています。

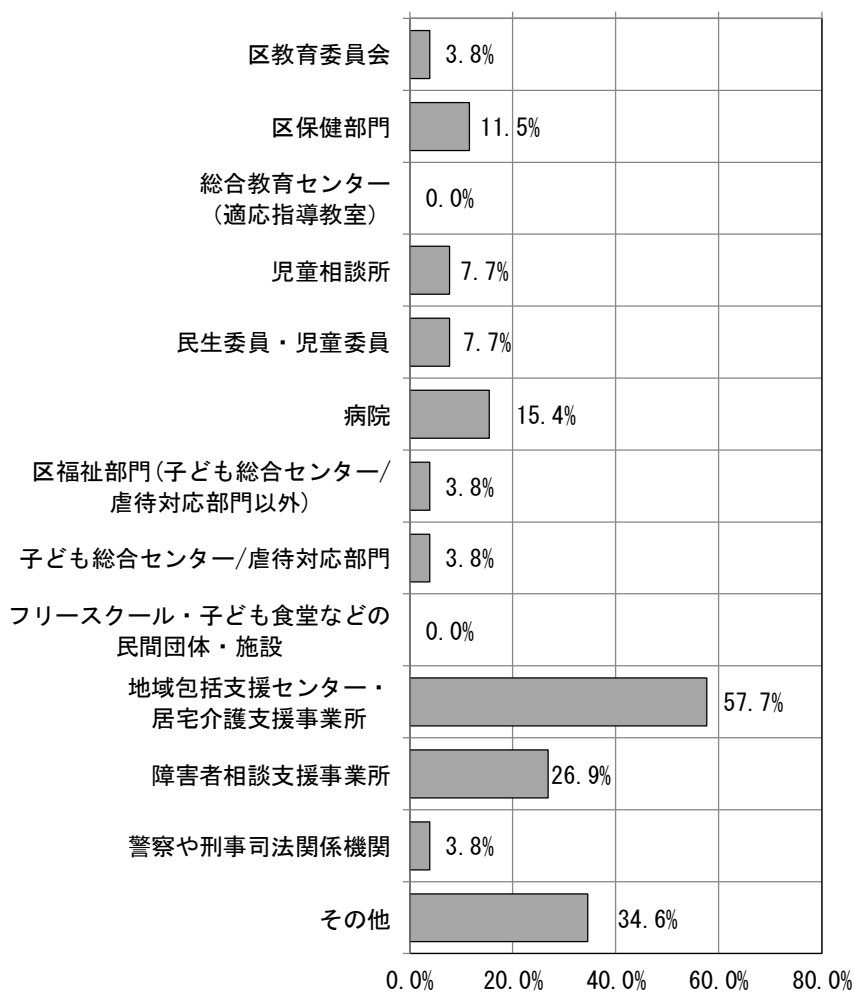


### ⑧不登校以外のケースで連携している関係機関

問 7c.連携体制がある場合は、連携する関係機関をすべてチェックしてください。

「地域包括支援センター・居宅介護支援事業所」が 57.7%と最も多く、次いで「障害者相談支援事業所」が 26.9%、「病院」が 15.4%となっている。「その他」は 34.6%で、「学童保育の職員」「訪問看護事業所」などの回答があった。

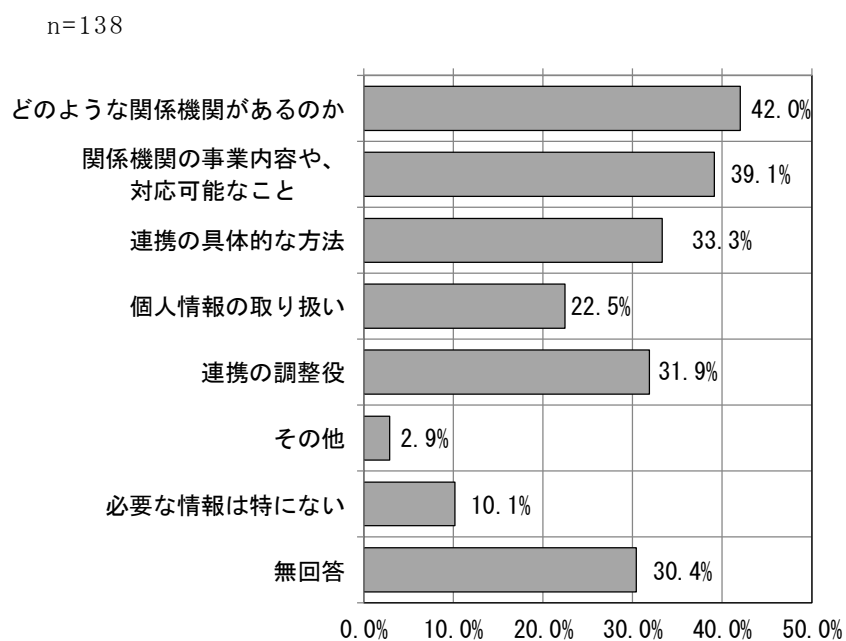
n=26



## ⑨ 関係機関と連携する場合に必要な情報

問 8. 関係機関と連携する場合に、特に必要な情報はありますか。(あてはまるもの全てにチェック)

「どのような関係機関があるのか」が 42.0%と最も多く、次いで「関係機関の事業内容や、対応可能なこと」が 39.1%、「連携の具体的な方法」が 33.3%、「連携の調整役」が 31.9%となっている。



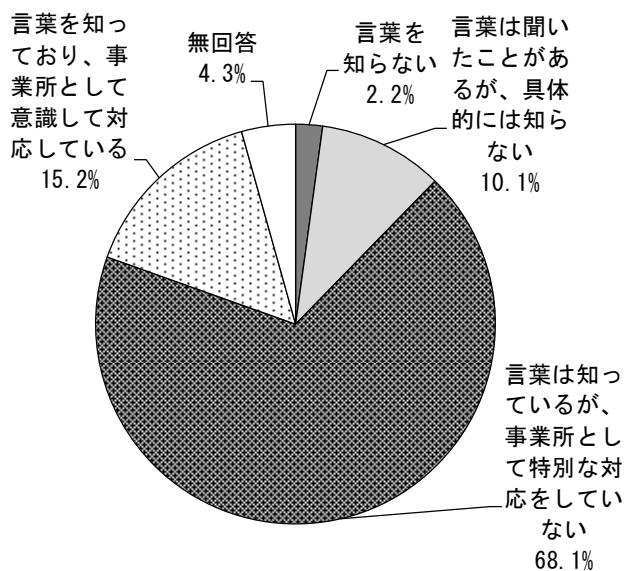
### 3 ヤングケアラーについて

#### ①「ヤングケアラー」という概念の認識

問9. 貴事業所の職員は、「ヤングケアラー」という概念を知っていますか。(職員の多くにあてはまると思われるもの1つにチェックをしてください)

「言葉は知っているが、事業所として特別な対応をしていない」が 68.1%と最も多く、次いで「言葉を知っており、事業所として意識して対応している」が 15.2%、「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」が 10.1%、「言葉を知らない」が 2.2%となっている。

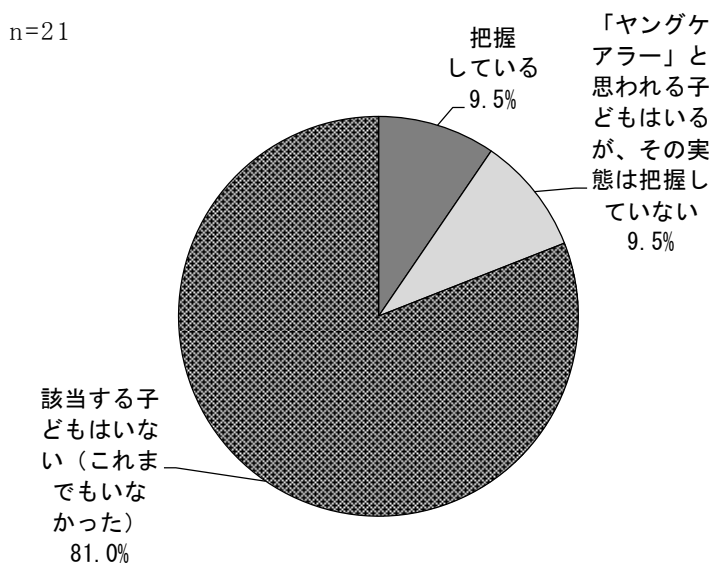
n=138



## ②「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握状況

問 10.問 9 で「言葉を知っており、事業所として意識して対応している」と答えた方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「把握している」「『ヤングケアラー』と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」がそれぞれ 9.5%、「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」が 81.0%となっている。



## ③「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握方法

問 11.問 10 で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を「把握している」と答えた方にお伺いします。どのように把握をしていますか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

回答者は2人で、「特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している」「その他」がそれぞれ1件となっている。「その他」の記載は「公的機関などのHPから情報収集」となっている。

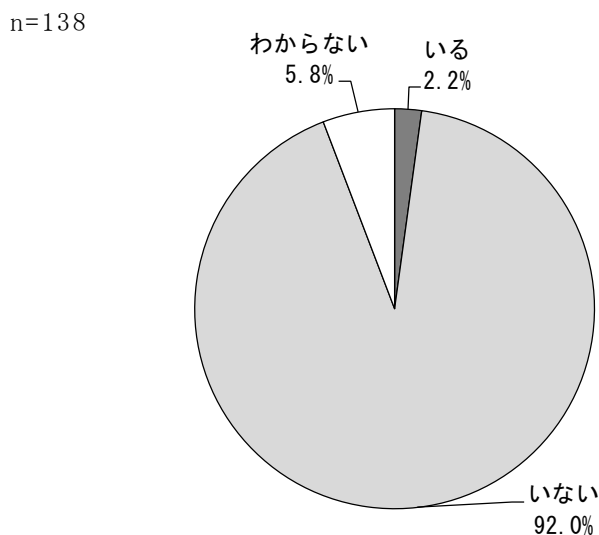
#### ④ヤングケアラーと思われる子どもの有無

問 12. 全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、今回の調査では「本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。」と捉えます。「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、以下の設問にお答えください。

現在、貴事業所にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。  
(あてはまるもの1つにチェックをしてください)

「いる」が 2.2%、「いない」が 92.0%となっている。



#### ⑤ヤングケアラーと思われる子どもの状況

問 13. 問 12 で、ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる子どもの状況にあてはまるもの全てにチェックをしてください。  
(「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、お答えください。)

回答者は3人で、「障害や病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている」「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」「障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている」「障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている」がそれぞれ2件、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」「家族の代わりに、障害や病気のあるきょうだいの世話をしている」「家族の通訳をしている」「家計を支えるために、アルバイト等をしている」「アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している」「病気の家族の看病をしている」がそれぞれ1件となっている。

## ⑥関係機関の支援につないだケースの有無

問 14.問 12 でヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。具体的に関係機関（教育委員会、役所など）の支援につないだケースや、子ども総合センターへ通告したケースはありますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

i) 子ども総合センターに通告したケースの有無

回答者は3人で、「ない」が3件となっている。

ii) 子ども総合センター以外の関係機関の支援につないだケースの有無

回答者は3人で、「ある」が1件、「ない」が2件となっている。

## ⑦子ども総合センターに通告したケースについて

問 15.問 14 で「子ども総合センターへ通告したケースがある」、と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として1件お教えてください。

該当者がなかった。

## ⑧関係機関の支援につないだケースについて

問 16.問 14 で「子ども総合センターに通告するほどではないが、関係機関の支援につないだケースがある」と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として1件お教えてください。

1名から回答があった。

i) 性別

「男性」が1件となっている。

ii) 学年

「その他」が1件で、記載は「大学生」となっている。

iii) 学校生活の状況

「その他」が1件で、記載は「コロナ禍でオンライン授業期間であった」となっている。

iv) 家族構成

「祖父」が1件となっている。

v) ケアの状況を把握しているか

「はい」が1件となっている。

vi) ケアを必要としている人

「祖父」が1件となっている。

vii) ケアを必要としている人の状況

「高齢(65歳以上)」「要介護(介護が必要な状態)」がそれぞれ1件となっている。

viii) ケアの内容

「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」「外出の付き添い(買い物、散歩など)」「通院の付き添い」がそれぞれ1件となっている。

ix) ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

「大学生本人からの相談があった」という回答があった。

x) つないだ機関

「介護保険課」「介護サービス事業所」という回答があった。

x i) 関係機関へのつなぎ方

「事業所から直接連絡」が1件となっている。

x ii) 事業所で行った支援(つなぎ先との連携も含めて)

「介護保険申請により、福祉用具レンタル・購入、デイサービス利用」という回答があった。

x iii) 支援した結果、子どもへの変化

「オンライン授業終了後、大学に通学できるようになった」という回答があった。

⑨関係機関の支援につながらなかった理由

問 17.問 14 で「関係機関にはつながらずに対応している」と答えた方にお伺いします。関係機関につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください(自由記述)

回答はなかった。

⑩ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

問 18.ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。(自由記述)

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

アセスメント力を高めている。ちょっとした会話からもキャッチできるように心がけている。

⑪ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

問 19.ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。(自由記述)

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

①要介護者の祖母の面倒をみているが孫と関わる機会がなく状況が把握できないこと。

②本人も他の家族も、発信することが少ない。

⑫ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について

問 20.問 2 で伺った項目について、ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目として活用する場合、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。(自由記述)

ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について

友達がなくなった。友達がいるのに遊ぶ約束をしない



### ⑬ ヤングケアラーと思われる子どもの存在がわからない理由

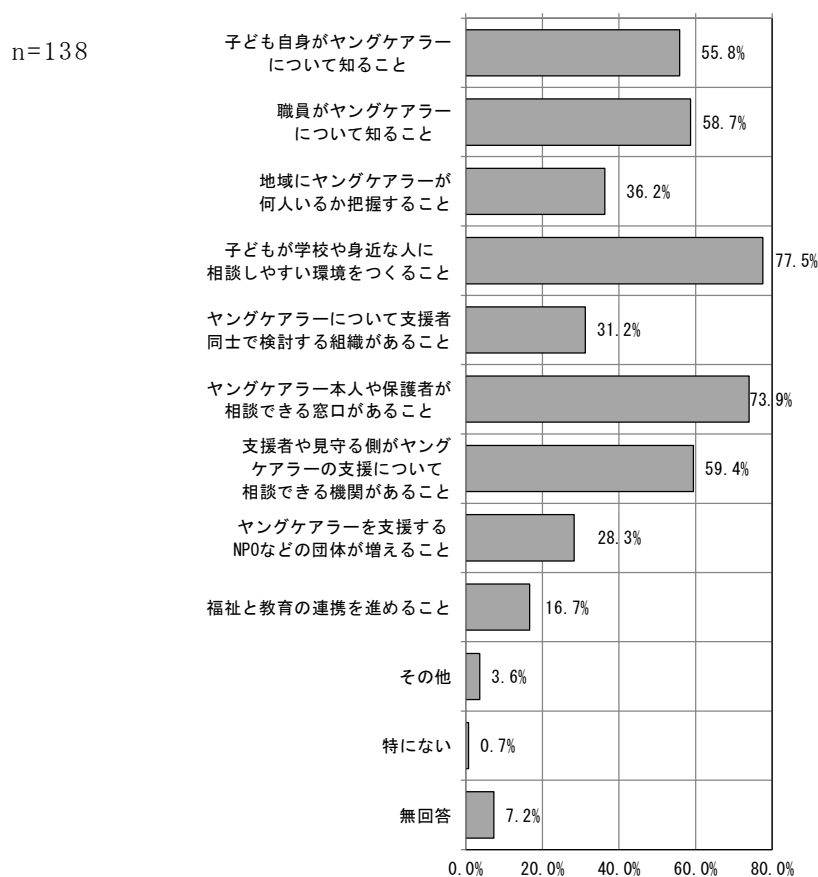
問 21.問 12 で、ヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもがいるか「分からない」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

回答者は8人で、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が6件と最も多く、次いで「本人への介護などと比べ緊急度が高くないため、『ヤングケアラー』に関する実態の把握が後回しになる」が3件、「事業所において、『ヤングケアラー』の概念や支援対象としての認識が不足している」「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が『ヤングケアラー』という問題を認識していない」がそれぞれ1件となっている。

#### ⑭ ヤングケアラーを支援するために必要なこと

問 22. ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまるもの全てにチェックをしてください)

「子どもが学校や身近な人に相談しやすい環境をつくること」が 77.5%と最も多く、次いで「ヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」が 73.9%、「支援者や見守る側がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」が 59.4%、「職員がヤングケアラーについて知ること」が 58.7%となっている。



## 4 自由意見

問 23.ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。(自由記述)

自由意見には38件の回答があった。「自分自身が以前にきょうだいの介護をしていた」「ヤングケアラーはどこに相談したら良いかわからないので、専門の相談窓口が必要ではないか」「介護保険制度などは利用に経済的負担がかかるので、公的支援が必要ではないか」などの意見があった。

自由意見(主な回答)
<p>①高齢者宅への訪問・来所相談を当センターでは行っています。面談の中で、ヤングケアラーがいる事をすぐに確認できれば良いのですが、なかなかアセスメントを行っていく中で判明する事、関わりをもってだいぶ経過してからわかる事があります。わかった段階で、介護保険や区の高齢者に対する施策が導入できるよう、またヤングケアラーが、自分の時間をきちんともてるような高齢者に対する支援を心がけています。</p> <p>しかし、介護サービス利用＝利用料金が発生します。利用料を節約するためにヤングケアラーが補っていることも考えられます。</p> <p>親の看病をしている事を打ち明けてもらった高校の先生が、生徒ともに来所したことがありました。介護サービスを利用することで、部活にも参加し高校も卒業できたケースがありました。自ら発信できない子どもに、大人がもっと気にかけてくれる世の中になるといいなと思いますし、このケースをきっかけに、関係機関と連携していく中で、気に掛けています。</p>
<p>②子供からのSOSを親身になって受け止めてあげられる機関が身近にあると良いと思います。</p>
<p>③ヤングケアラーについて、現状、把握しているケースはありません。地域包括支援センターでの相談業務では、介護が必要となる方の支援が中心となるため、ヤングケアラーが地域に潜在していると考えられるものの把握ができていない状況です。</p>
<p>④ヤングケアラーの存在は承知していますが、情報が入りにくく情報が得られても何処まで立ち入る事が出来るのか判断が難しいと思います。ヤングケアラーと推察される若年者を特定する事や支援の方法について、広く世間に浸透させていく必要があるように思います。</p>
<p>⑤ヤングケアラー本人や保護者が相談しやすい窓口があることが大切である。経済的・生活的支援を含めて行政が総括的に行って、具体的な支援を民間が補えるようにすることが望ましい。</p>
<p>⑥介護保険でのヤングケアラーについての適応についてのガイドラインは、葛飾区はあるのでしょうか。今後ケアラーのケースが出てきたときの流れなど、区役所で、連絡会などで周知して</p>

ほしい。
⑦ヤングケアラーという実態がある事やどの利用者にも起こりうる事だと認識しております。ただ、その背景には高齢者や障害者への公的支援制度(介護保険や障害者総合支援法)にも問題があると感じています。家族の負担を少しでも軽減し、高齢者や障害者が自立できる制度が構築される事が理想だと思います。
⑧現在どのような事例が発生しているとかなどの含めた研修を、是非、居宅介護支援事業所向けに開催してほしい。
⑨子供なので相談しづらかったり、どうすればいいかわからない状況が多いと思うので、子供を心配する気持ちを大人が持ち、相談しやすい体制を作っていけると良いと思います。福祉に携わる者だけでなく大人全員がヤングケアラーを知り、皆で助け合って行くという気持ちが持てるような社会になるよう、介護事業者としてできる事を行っていきたいと思います。
⑩一時的なお世話や介護は仕方ないのかもしれないが、それが万年化した時の本人の負担の大きさは計り知れないものと思います。誰かに「助けて」が言え、相談できる環境作りが必要だと思います。また、本人が「当たり前」と思っていることが「当たり前ではない」と教えてあげることも必要と考えます。
⑪訪問介護を必要としているヤングケアラーの家庭の相談があれば、事務所として積極的に対応していきたいと思っています。

### Ⅲ.区内民生委員・児童委員調査

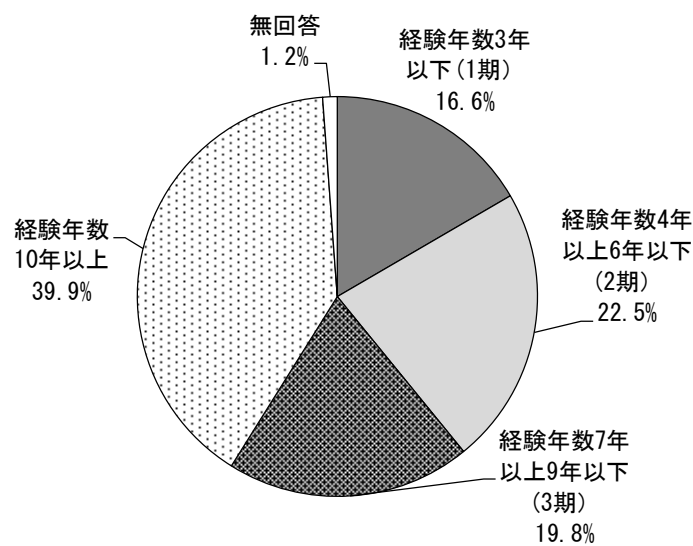
#### 1 基本情報

##### ①経験年数

問1. ご回答された方の民生委員・児童委員 累計経験年数を教えてください。(令和4年11月1日時点)(あてはまる番号1つに○をしてください)

「経験年数 10年以上」が 39.9%と最も多く、次いで「経験年数4年以上6年以下(2期)」が 22.5%、「経験年数7年以上9年以下(3期)」が 19.8%、「経験年数3年以下(1期)」が 16.6%となっている。

n=253



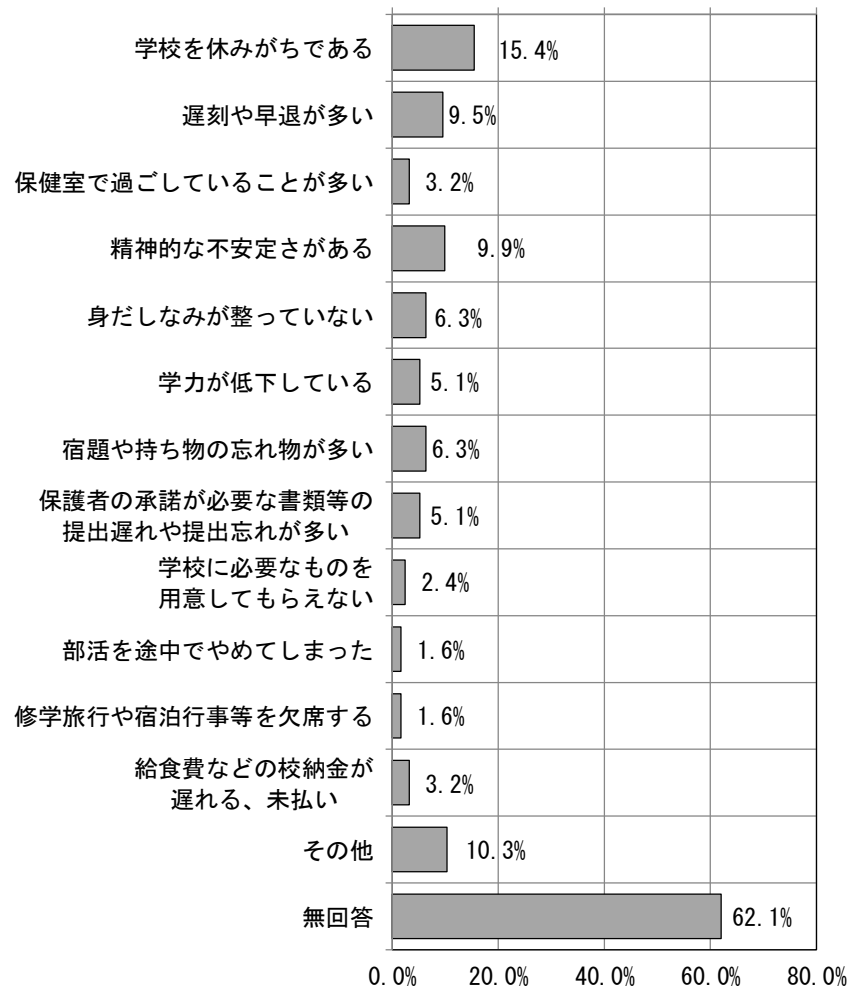
## 2 支援が必要と思われる子どもへの対応

### ①支援が必要と思われるケースの有無

問 2. 担当する地域の子どもの、下記の選択肢にあてはまるケースはありますか。(あてはまる番号全てに○をしてください)

「学校を休みがちである」が 15.4%と最も多く、次いで「精神的な不安定さがある」が 9.9%、「遅刻や早退が多い」が 9.5%、「身だしなみが整っていない」「宿題や持ち物の忘れ物が多い」がそれぞれ 6.3%となっている。

n=253



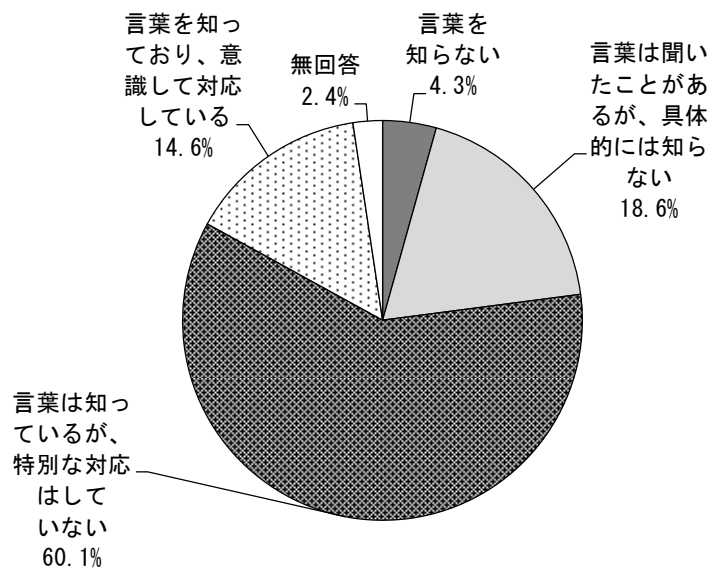
### 3 ヤングケアラーについて

#### ①「ヤングケアラー」という概念の認識

問 3. 「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。(あてはまる番号1つに○をしてください)

「言葉は知っているが、特別な対応はしていない」が 60.1%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない」が 18.6%、「言葉を知っており、意識して対応している」が 14.6%、「言葉を知らない」が 4.3%となっている。

n=253



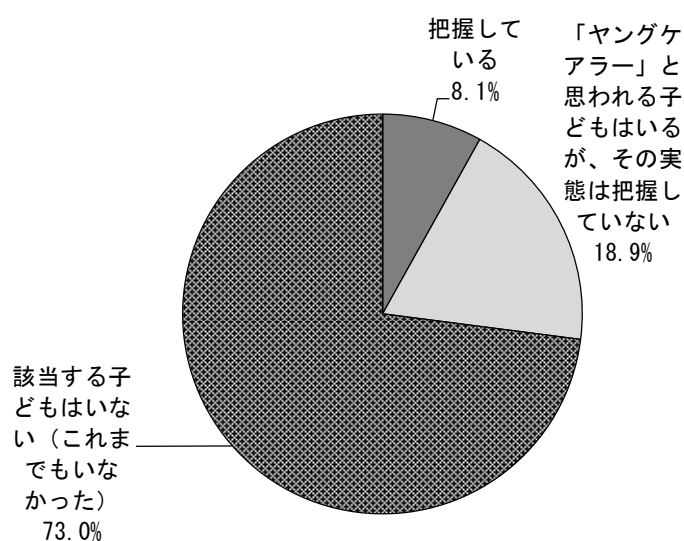
## ②「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握状況

問 4. 問 3 で「4. 言葉を知っており、意識して対応している」と答えた方にお伺いします。

「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまる番号1つに○をしてください)

「把握している」が 8.1%、「『ヤングケアラー』と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が 18.9%、「該当する子どもはいない(これまでもいなかった)」が 73.0%となっている。

n=37



## ③実態把握の方法

問 5. 問 4 で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を「1. 把握している」と答えた方にお伺いします。どのように把握をしていますか。(あてはまる番号全てに○をしてください)

回答者は3人で、「特定のツールはないが、できるだけ『ヤングケアラー』の視点を持って検討・対応している」「その他」がそれぞれ1件となっている。



#### ④ヤングケアラーと思われる子どもの有無

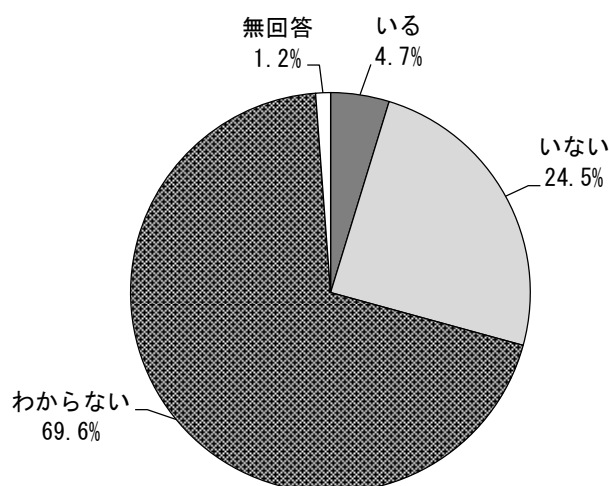
問 6. ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、今回の調査では「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」と捉えます。「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、設問にお答えください。

現在、担当する地域で、ヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。(あてはまる番号1つに○をしてください)

「いる」が 4.7%、「いない」が 24.5%、「わからない」が 69.6%となっている。

n=253



### ⑤ヤングケアラーと思われる子どもの状況

問 7. 問 6 で、ヤングケアラーと思われる子どもが「1. いる」と答えた方にお伺いします。

ヤングケアラーと思われる子どもの状況にあてはまる番号全てに○をしてください。

(「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、お答えください。)

回答者は 12 人で、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が6件、「障害や病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている」が4件、「家族の通訳をしている」「病気の家族の看病をしている」がそれぞれ2件となっている。

### ⑥関係機関の支援につないだケースの有無

問 8. 問 6 でヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。具体的

に関係機関(教育委員会、役所など)の支援につないだケースや、子ども総合センターへ通告したケースはありますか。(あてはまる番号全てに○をしてください)

回答者は 12 人で、「関係機関にはつながずに対応している」が5件、「子ども総合センターに通告するほどではないが、関係機関の支援につないだケースがある」が3件となっている。「子ども総合センターに通告したケースがある」という回答はなかった。

### ⑦子ども総合センターへ通告したケースについて

問 9. 問 8 で「1. 子ども総合センターへ通告したケースがある」、と回答した方へお伺いし

ます。該当する直近のケースについて、事例として 1 件お教えてください。

該当者がなかった。

### ⑧関係機関の支援につないだケースについて

問 10. 問 8 で「2. 子ども総合センターに通告するほどではないが、関係機関の支援につ

ないだケースがある」と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として1件お教えてください。

回答者は3人で、いずれも無回答だった。

### ⑨関係機関の支援につながらなかった理由

問 11. 問 8 で「3. 関係機関の支援にはつながらずに対応している」と答えた方にお伺いします。関係機関の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください。

関係機関の支援につながらなかった理由
①他の家族や近隣に親戚がいて対応している。
②母親が行政に対して不信感を持っているので、民生委員と言わずに対応。
③学校より報告があり、その時点ですでに関係機関へ通報済であったため。
④地域や学校等で見守りをして、状況を確認している段階のため。

その場合の対応方法
①声がけ、見守りなど、随時様子を見ている。
②学校との連絡は密にしたうえで、見守りなどを行っている。
③日常的に子どもの行動等に気をつけ、学校での保護者への声かけをしている。
④主任児童委員と情報交換・共有している。

⑩ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

問 12. ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること
①子供達の生活態度や明るさなど、子供たちの様子を、気をつけて観察する。
②学校訪問の際に該当することがないか聞くようにしている。また、児童の様子を気にしている。
③こちらから強制しない。見守りに重点を置く。
④まずは対象となりうる家庭の環境を調べる(親子関係等)。
⑤町会の役員会や班長会で、心あたりがある時は、連絡下さいと依頼している。
⑥学校、登校時に不定期ですが、見守りをしています。

⑪ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

問 13. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること
①家庭内の問題なので見つけるのがむずかしい。表面化してこない事。家庭内でかくそう(それがあたりまえ)とってしまう事。子は親を守ってしまう(悪く思われたくない)。
②周囲がそれと気付かない。気付けない。また本人も話をしない。聞き出すことの難しさ(誘導していないか、など)。
③普段の生活の中では担当地域でのヤングケアラーの把握は難しい。学校等を通して「注意してほしい」「見守り」の要請があれば、学校関係、児童相談所等と連携しながら、対応できることもあると思われる。
④子どもが支援を得られる事を知らないし、家庭内での自分の立場(親等からの強制)について声を出せないし、誰に話をすれば良いのかも気づけない。
⑤子ども本人へのアプローチ方法。信頼関係ができるまでに時間がかかってしまうのではないかとと思われる。
⑥地域差もあると思うが。主に高齢者支援にかかわることが多い。具体的に私達にわかる事は何かあるか。知る機会が必要。
⑦接点が少ない(コロナ禍)ので顔なじみになれないために問題点が伝わらず把握が出来ていない。
⑧本人と周囲の考え方・とらえ方のちがいで見逃してしまったり気づかないこと。又、本人その人たちが本音で、向きあってこようとしなにかぎり、こちらからの行動がとりにくいのでは。

⑫ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について

問 14. 問 2 で伺った項目について、ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目として活用する場合、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお答えください。

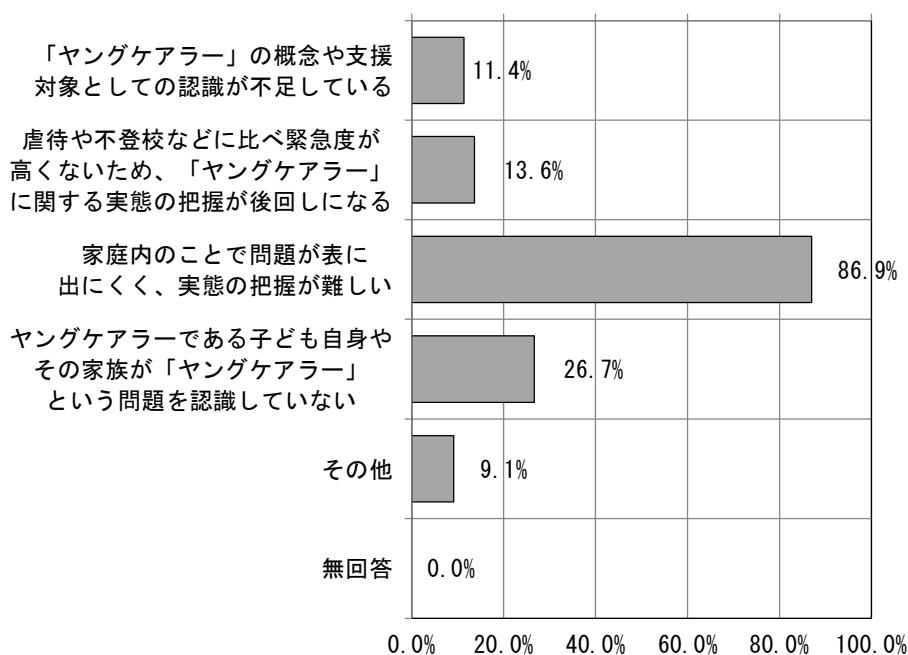
ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について
①身体的にやせている。
②授業中、眠たそうな事が多い。
③ネグレクトなのか、ケアラーなのかの判別が難しい。
④放課後や休日の過ごし方(友人と遊べない、おけいこにいけない等有る)。
⑤チェック項目を見る限り、教育現場で発見され易い件と思われます。
⑥すごくまじめな子ども(中学生や高校生も)で家族思い。親孝行ですごく良い子だと思われる。外国人の場合、連絡や書類など日本語のわかる子どもが負担してしまう。
⑦民生児童委員が把握するのは難しいのではないか。組織的な対応が必要だと思う。
⑧研修会や資料などすでに勉強はしています。ヤングケアラーは、やはり学校との連携が大切だと思います。
⑨チェック項目はほとんどが、ヤングケアラーの特徴だけではなくて、引きこもり・いじめによる不登校や学校に(教室に)入れないなど多方面にわたる、子どもの問題にあてはまるもので、把握はむずかしいと思う。
⑩ヘルプカードの導入(本人が辛かったり、苦しかったりする事)を学校や、児童館などに設置した箱に入れる事で、誰かに知ってもらい、解決に向けて大人達が動く事になると思う(相談室などは、なかなか行きづらいと思う為)。

### ⑬ ヤングケアラーと思われる子どもの存在がわからない理由

問 15. 問 6 で、ヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもがいるかについて「3. 分からない」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をしてください)

「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が 86.9%と最も多く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が『ヤングケアラー』という問題を認識していない」が 26.7%、「虐待や不登校などに比べ緊急度が低いいため、『ヤングケアラー』に関する実態の把握が後回しになる」が 13.6%、「『ヤングケアラー』の概念や支援対象としての認識が不足している」が 11.4%となっている。

n=176

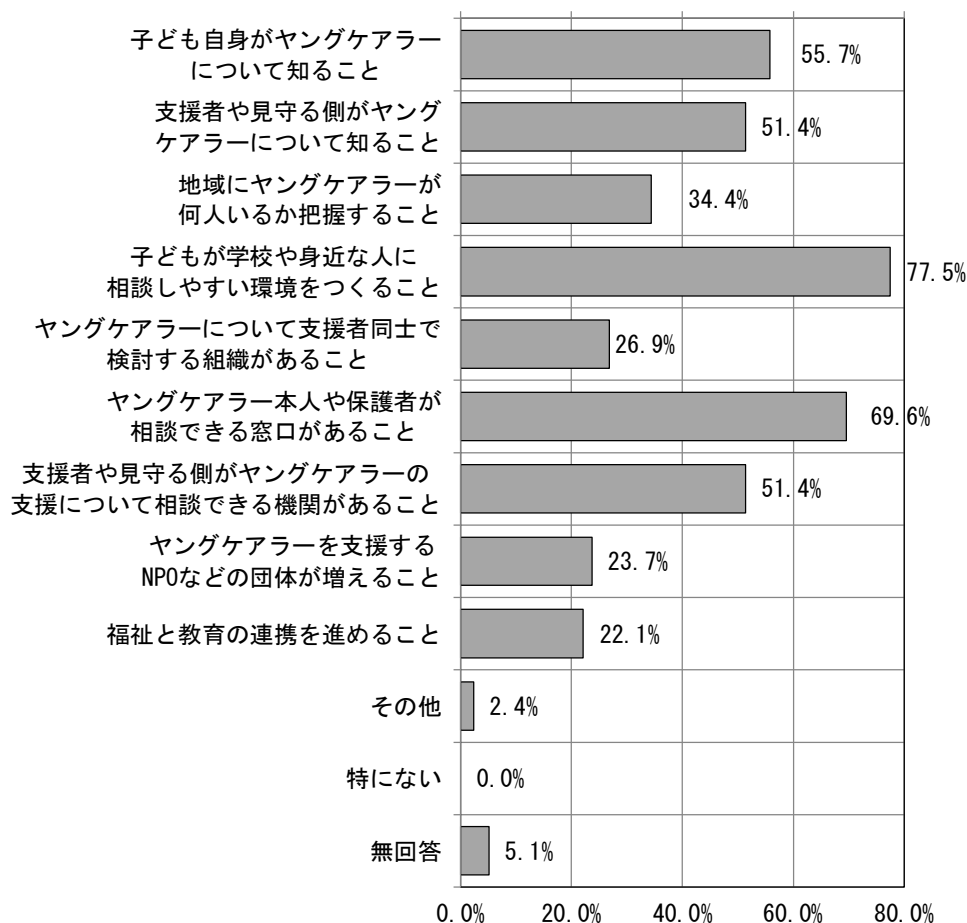


#### ⑭ ヤングケアラーを支援するために必要なこと

問 16. ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号全てに○をしてください)

「子どもが学校や身近な人に相談しやすい環境をつくること」が 77.5%と最も多く、次いで「ヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」が 69.6%、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が 55.7%、「支援者や見守る側がヤングケアラーについて知ること」「支援者や見守る側がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」がそれぞれ 51.4%となっている。

n=253



## 4 自由意見

問 17. ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

自由意見には 106 件の回答があった。「ヤングケアラーに該当する家庭があったが、支援を受けたがらなかった」「自分自身がきょうだいの世話をしていたが、家族のことなので大変だとは思わなかった」「外部から家庭内の事情を把握するのは難しい」「一人で悩まず、民生委員などに相談してほしい」などの意見があった。

自由意見(主な回答)
①たまたま、その子供がイベントで家族のことを話して知りました。家族が病気で家のお手伝いをしている。その発表後、保護者の方とお話をし、子供食堂におさそいをしましたが、今の所大丈夫とのこと。お子さんはとてもしっかりとしていて、他に問題はないと言っていました。
②お子さんと2人暮らしの女性から、重篤な病気の時2人で乗り切ろうと、だれも頼らなかったと聞いた。こういうことで表に出てこないこともあると思った。
③家庭内のことで実態の把握が難しいと思います。私もきょうだいの面倒や食事の仕度をした時期があり、家族なので大変だとつらいとかはありませんでした。その体験は後の私の人生でプラスになりました。しかし現代のさまざまな状況下で、支援を差しのべることは、昔とは変わってきているので大事なことなど考えます。皆と同じように学校生活を送ってほしいと思います。福祉と教育の連携を切に望みます。
④いわゆる普通のお手伝いと、ヤングケアラーとしての仕事の境界線があいまいなので、そこを見極めるのもむずかしく、自分がヤングケアラーだと自覚していない子どもも多いのではないのでしょうか。
⑤家庭内の問題で非常に見えにくいいため外部からの把握がむずかしい。教育現場が気付きやすく、民生委員はそこに協力していく。保護者や生活している大人の意識にも問題があると考えられる。行政、教育現場、民生委員のかかわりで、支援していく。
⑥一次対応支援は専門機関がするべきだと思います(デリケートな問題だと思います)。地域(民生委員)は見守ることしかできないのではないのでしょうか。お子様の信頼が得られれば別ですが。なかなか難しいと思います。
⑦今まで表にでなかったため実態がわからなかったがテレビなどで大変な思いをされている子供(ヤングケアラー)がいることを知りました。地域の中にヤングケアラーがいるかどうか情報がないと分からない。今までは子に対して支援がなかったと思う。妹弟の世話をすることは普通にあると思うが親の代わりに家事等もやることは負担になるので支援を進めてほしいと思います。
⑧親が子供に負担をさせている場合、世間から気づかれないよう「お手伝い」という言い方で



片付けている場合があるように思う。経済的・介護を必要としている家族がいる共働きの家庭など、様々なパターンがあるだろう。行政と民間が協力し合い、国の援助等、あらゆる機関が連携し、情報を共有し、困っている家庭ごとのケアプランのようなものを作成し、子供らしく生活できるようなサポートのしくみが必要であり、急ぎ進めるべき問題と思っている。

⑨苦しくても相談できる場がある、と子どもに認知できることがまず一歩だと思う。学校などにヤングケアラーについてのパンフレット、ポスターなど掲示するなどの活動が必要。

⑩子どもがヤングケアラーの対象となる場合は、金銭的な不安や家庭中での両親の無関心等が多くある様に思います。子どもの人格の尊重は無く、従順(力や言葉により)させる事により大人がやるべき事を日常的に子どもに行わせている。家庭の中で弱い立場の子ども家族だからと負担を負わされている事が多い様に思います。家庭の中の事で外へは見えずらい。

⑪子ども自身が「ヤングケアラー」としての自覚はないので育っている環境の中で、何か、支援をできる様に、子どもの話をよく聞いて、具体的に困っている事に対して対応できるように、まわりの大人、学校、機関との連携、本人、家族との信頼関係が大事になると思います。

⑫ろう者の親を家庭内で通訳などの支援を健常の子がするのは支援が必要な「ヤングケアラー」と決めてしまうのはどうでしょう。家族同士の思いやり助け合いは素晴らしいと思います。そのような家族はいらっしゃると思います。ただそれによって子の日常や学校生活に大きな負担がないように見守る「まなざし」と困ったときいつでも話せる「場」が家族や子にあるといいですね。



# 資料編



## ヤングケアラーについてのアンケート（小学生）

### 【アンケートの答え方】

- ① 答えは、質問の後のあてはまるものにチェックを入れてください。
- ② 「その他」にチェックを入れたときは、空欄に自分で考えた答えを入力してください。
- ③ 質問に、「あてはまるもの全てにチェックをしてください。」と書いてあるときは、いくつでもチェックが入れます。あてはまると思ったもの全てにチェックを入れてください。
- ④ 答えたくない質問は答えず、次の質問に進んでください。
- ⑤ アンケートに名前を書くことはありません。あなたの回答がだれかに知られたり、あなたの家族に連絡が入ったりすることはありません。安心して答えてください。

### ① あなたのことについて教えてください。

問1. あなたの性別について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 男  女  その他  わからない・答えたくない

問2. あなたの学年を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 小学4年生  小学5年生  小学6年生  
 中学1年生  中学2年生  中学3年生  わからない・答えたくない

問3. 今、いっしょに住んでいる人について教えてください。あてはまるもの全てにチェックをしてください。「( )人」と書かれているものは、何人いるか入力してください。

- お母さん  お父さん  おばあさん  おじいさん  お兄さん・お姉さん ( )人  
 弟・妹 ( )人  しんせきの人 ( )人  その他 ( )人  
 わからない・答えたくない

問4. あなたの体調について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- よい まあよい ふつう あまりよくない よくない 分からない・答えたくない

②ふだんの生活について教えてください

問5. 学校を休むことがありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ほとんど休まない たまに休む よく休む 分からない・答えたくない

問6. 学校に遅刻をしたり、早退をすることがありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ほとんどしない たまにする よくする 分からない・答えたくない

問7. 放課後、塾や習い事、クラブ活動、部活動などをしていますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- はい いいえ 分からない・答えたくない

問8. ふだんの学校生活において、あてはまるものはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 授業中に寝てしまうことが多い
- 宿題ができていないことが多い
- 持ち物の忘れ物が多い
- 塾や習い事、クラブ活動、部活動を休むことが多い
- 提出物を出すのが遅れることが多い
- 修学旅行などの宿泊行事を休む
- 保健室ですごくすることが多い
- 学校では1人ですごくすることが多い
- 友だちとあそんだり、おしゃべりをする時間が少ない
- とくにない
- 分からない・答えたくない

問9. 「悩み」や「こまっていること」があるとき、相談をしたり、話を聞いてくれる人が近くにいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいるが、相談や話はなるべくしたくない
- 分からない・答えたくない

問10. 今、悩んでいることやこまっていることはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 友だちとのこと
- 学校の成績のこと
- 進路のこと
- 塾やクラブ活動、部活動のこと
- 習い事のこと
- 生活にかかるお金のこと ※食費や病院にかかるお金、電気・ガス・水道代など
- 学校でかかるお金のこと ※給食費や教科書代など
- 自分と家族の関係のこと
- 自分以外の家庭内の人間関係のこと ※両親のなかがよくないなど
- 病気や障害のある家族のこと
- 自分のために使える時間が少ない ※あそんだり勉強をする時間など
- とくにない
- その他( )
- 分からない・答えたくない

問11. 問10で答えた「悩み」や「こまっていること」について、相談できる場所を知っていますか。知っているもの全てにチェックをしてください。

- 学校の先生
- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- 子ども総合センター
- 総合教育センター
- 児童館・子ども未来プラザ
- 民生委員・児童委員
- 児童相談所
- ひとつも知らない
- その他( )
- 分からない・答えたくない

③家族やお家のことについて教えてください

問12. 家族の中に、あなたが世話をしている人はいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

※ここで言う「お世話」とは、以下のようなことです。

- 家事 ※食事の用意やかたづけ、そうじ、服の洗濯、買い物など
- きょうだいのお世話や送り迎え
- 着がえやお風呂・トイレのてつだい
- 病院や買い物、散歩などいっしょに行き、手助けをする
- 話し相手になったり、こまりごとを聞く
- 転んだり、あぶないことをしないか見守る
- 通訳 ※日本語が苦手な人のために通訳したり、耳が不自由な人へ手話で通訳をする
- 家のお金の管理
  - ※生活に必要なお金をあずかっている・使い道を考えたり、買い物をするなど
- 薬の管理 ※薬を飲んだか、多く飲んでないかなどをたしかめたり、手助けをする

いる ⇒問13へ

いない ⇒問28へ

わからない・答えたくない ⇒問28へ

問13. 問13から問27までは、問12で、家族の中に、あなたが世話をしている人が「いる」と答えた人にお聞きします。あなたが世話をしている人はだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- お母さん    お父さん    おばあさん    おじいさん    きょうだい    その他(      )
- わからない・答えたくない



問14. その人は、どのような理由で世話を必要としていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 高齢のため ※65才以上
- おさないため ※小さいため
- 介護が必要 ※ここで言う「介護」とは、食事や身の回りのお世話などをすることです。
- 認知症のため
  - ※ものをおぼえたり考えたりする力が弱くなって、今までどおり生活ができなくなっている
- 身体障害のため
  - ※足や体が自由に動かない、目や耳が不自由など
- 知的障害のため
- こころの病気のため ※うつ病など。そうかもしれない場合も、チェックをしてください。
- 依存症のため
  - ※お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題をかかえている。そうかもしれない場合も、
  - チェックをしてください。
- その他の病気やけがのため
- 日本語が苦手なため
- その他（      ）
- 分からない・答えたくない

問15. あなたはどのような世話をしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 家事 ※食事の用意やかたづけ、そうじ、服の洗濯、買い物など
- きょうだいのお世話や送り迎え
- 着がえやお風呂・トイレのてつだい
- 買い物や散歩にいっしょに行き、手助けをする
- 病院へいっしょに行き、手助けをする
- 話し相手になったり、こまりごとを聞く
- 転んだり、あぶないことをしないか見守る
- 通訳 ※日本語が苦手な人のために通訳したり、耳が不自由な人へ手話で通訳をする
- 家のお金の管理 ※生活に必要なお金をあずかっている・使い道を考えたり、買い物をするなど

- 薬の管理 ※薬を飲んだか、多く飲んでないかなどをたしかめたり、手助けをする
- その他（ ）
- 分からない・答えたくない

問16. あなたはお世話をだれといっしょにしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- お母さん お父さん おばあさん おじいさん きょうだい しんせきのひと
- 自分のみ 福祉サービスのひと ※ヘルパーさんなど その他（ ）
- 分からない・答えたくない

問17. あなたはお世話を何才の時からしていますか。※はっきりと分からない場合は、だいたいどの年で答えてください。

（ ）才から

問18. あなたはどれくらいお世話をしていますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ほぼ毎日 週に3～5日 週に1～2日 1か月に数日 その他（ ）
- 分からない・答えたくない

問19. あなたは1日のうち、何時間くらいお世話をしていますか。

※日によってちがう場合は、この1か月でいちばん長かった日の時間を教えてください。

1日（ ）時間くらい

問20. お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 学校を休んでしまう
- 遅刻や早退をしてしまう
- 宿題など、勉強をする時間がない
- 眠る時間がたりない
- 友だちとあそぶことができない
- 塾や習い事、クラブ活動、部活動ができない

- 将来や進路のことを考えられない
- 自分の時間がとれない
- とくにない
- その他（      ）
- 分からない・答えたくない

問21. お世話をすることにたいへんさを感じていますか。あてはまるもの全てにチェックしてください。

- 体力の面でたいへん
- 気持ちの面でたいへん
- 時間の余裕がない ※もっと自分のための時間がほしい
- とくにたいへんさは感じていない
- たいへんだけど、やりがいを感じている
- たいへんだけど、楽しいと感じている
- 分からない・答えたくない

問22. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことはありますか。

あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ある ⇒問23 へ
- ない ⇒問24 へ
- 分からない・答えたくない ⇒問 26 へ

問23. 問22 で、お世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことが「ある」と答え

た人にお聞きします。それはだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 家族 ※お母さん、お父さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい
- しんせき ※おじ、おば など
- 友だち
- 学校の先生 ※保健室の先生以外
- 保健室の先生
- スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー

- 病院の先生や看護師、その他病院の人
- ヘルパーやケアマネジャーなどの福祉サービスの人の
- 区役所や保健センターの人の
- 近所の人の
- SNS で知り合った人 ※ツイッターやLINE・インターネットなどで知り合った人の
- その他（ ）
- 分からない・答えたくない

問24. 問24 と問25 は、問22 で、お世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことが「ない」と答えた人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- だれかに相談するほどこまっていないから
- 家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから
- だれに相談をするのがよいか分からないから
- 相談できる人がいないから
- 家族のことは話しにくいから
- 家族のことを知られたくないから
- 家族のことをへんな目で見られたくないから
  - ※親が何もしない、といったように、親を悪く思われたくないなど
- 相談をしても何もかわらないから
- 自分のことをかわいそうと思われたり、へんに思われたりしたくないから
- その他（ ）
- 分からない・答えたくない






問25. お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人は近くにいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- いる  いない  分からない・答えたくない



④ヤングケアラーについて

ヤングケアラーについての質問です。ヤングケアラーとは、大人がやると考えられているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことで、責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。たとえば、次のような子どもです。

				
障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。	家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている	障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている	目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている	日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている
				
家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている	アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している	がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている	障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている	障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

イラスト出典元：厚生労働省ホームページ

問28. 「ヤングケアラー」という言葉を、これまでに聞いたことがありましたか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 聞いたことがあり、内容も知っている ⇒問29 へ
- 聞いたことはあるが、よく知らない ⇒問29 へ
- 聞いたことはない ⇒問30 へ
- わからない・答えたくない ⇒問30 へ

問29. 問28で「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた人にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- テレビや新聞、ラジオ
- 雑誌や本
- SNS ※ツイッターやLINE・インターネットなど
- 広告やチラシ、掲示物
- イベントや交流会など
- 学校
- 友達や知り合いから聞いた
- その他（ ）
- 分からない・答えたくない

問30. あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- あてはまる
- あてはまらない
- 分からない・答えたくない

問31. 自由に入力してください。

家族のお世話をしている子どもやヤングケアラーのために、必要だと思うこと、学校やまわりの人にしてもらいたいこと、このアンケートへの感想、悩みや区役所にやってほしいことなど、何でも入力してください。

アンケートは以上で終わりです。答えてくださりありがとうございました。

## ヤングケアラーについてのアンケート（中学生）

### 【アンケートの答え方】

- ①答えは、質問の後のあてはまるものにチェックを入れてください。
- ②「その他」にチェックを入れた時は、空欄<sup>くうらん</sup>に自分で考えた答えを入力してください。
- ③質問に、「あてはまるもの全てにチェックをしてください。」と書いてある時は、いくつでもチェックが入れます。あてはまると思ったもの全てにチェックを入れてください。
- ④答えたくない質問は答えず、次の質問に進んでください。
- ⑤アンケートに名前を書くことはありません。あなたの回答がだれかに知られたり、あなたの家族に連絡が入ったりすることはありません。安心して答えてください。

### ①あなたのことについて教えてください。

問1. あなたの性別について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 男 女 その他 分からない・答えたくない

問2. あなたの学年を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 小学4年生 小学5年生 小学6年生  
中学1年生 中学2年生 中学3年生 分からない・答えたくない

問3. 今、いっしょに住んでいる人について教えてください。あてはまるもの全てにチェックをしてください。「( )人」と書かれているものは、何人いるか入力してください。

- お母さん お父さん おばあさん おじいさん お兄さん・お姉さん ( )人  
弟・妹 ( )人 しんせきの人 ( )人 その他 ( )人  
分からない・答えたくない



問 4. あなたの体調について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- よい まあよい ふつう あまりよくない よくない 分からない・答えたくない

②ふだんの生活について教えてください

問 5. 学校を休むことがありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ほとんど休まない たまに休む よく休む 分からない・答えたくない

問 6. 学校に遅刻<sup>ちこく</sup>をしたり、早退<sup>ちゆうたい</sup>をすることがありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ほとんどしない たまにする よくする 分からない・答えたくない

問 7. 放課後<sup>じゆうく</sup>、塾<sup>じゆうく</sup>や習い事、クラブ活動、部活動などをしてしていますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- はい いいえ 分からない・答えたくない

問 8. ふだんの学校生活において、あてはまるものはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 授業中に寝<sup>ね</sup>てしまうことが多い  
宿題<sup>しゅくご</sup>ができていないことが多い  
持ち物の忘れ物が多い  
塾<sup>じゆうく</sup>や習い事、クラブ活動、部活動を休むことが多い  
提出物<sup>ていしゅつぶつ</sup>を出すのが遅<sup>おそ</sup>れることが多い  
修学旅行などの宿泊<sup>しゅうくはく</sup>行事を休む  
保健室で過ごすことが多い  
学校では1人で過ごすことが多い  
友だちとあそんだり、おしゃべりをする時間が少ない  
特<sup>とく</sup>にない  
分からない・答えたくない

問 9. 「<sup>なや</sup>悩み」や「困っていること」があるとき、相談をしたり、話を聞いてくれる人が近くにいますか。  
あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいるが、相談や話はなるべくしたくない
- 分からない・答えたくない

問 10. 今、<sup>なや</sup>悩んでいることや困っていることはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 友だちとのこと
- 学校の成績のこと
- 進路のこと
- <sup>じゆく</sup>塾やクラブ活動、部活動のこと
- 習い事のこと
- 生活にかかるお金のこと ※食費や病院にかかるお金、電気・ガス・水道代など
- 学校でかかるお金のこと ※給食費や教科書代など
- 自分と家族の関係のこと
- 自分以外の家庭内の人間関係のこと ※両親の仲がよくないなど
- 病気や障害のある家族のこと
- 自分のために使える時間が少ない ※あそんだり勉強をする時間など
- 特にない
- その他( )
- 分からない・答えたくない

問 11. 問 10 で答えた「<sup>なや</sup>悩み」や「困っていること」について、相談できる場所を知っていますか。知っているもの全てにチェックをしてください。

- 学校の先生  スクールカウンセラー  スクールソーシャルワーカー  子ども総合センター
- 総合教育センター  児童館・子ども未来プラザ  民生委員・児童委員  児童相談所
- ひとつも知らない  その他( )  分からない・答えたくない

③家族やお家のことについて教えてください

問 12. 家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

※ここで言う「お世話」とは、以下のようなことです。

- 家事 ※食事の用意や片付け、そうじ、服の洗濯<sup>せんたく</sup>、買い物など
- きょうだいのお世話や送り迎え<sup>むか</sup>
- 着がえやお風呂<sup>ふろ</sup>・トイレの手伝い
- 病院や買い物、散歩などにいっしょに行き、手助けをする
- 話し相手になったり、困りごとを聞く
- 転んだり、危ないことをしないか見守る
- 通訳 ※日本語が苦手な人のために通訳したり、耳が不自由な人へ手話で通訳をする
- 家のお金の管理 ※生活に必要なお金を預かっている・使い道を考えたり、買い物をするなど
- 薬の管理 ※薬を飲んだか、多く飲んでないかなどを確かめたり、手助けをする

いる ⇒問 13 へ

いない ⇒問 28 へ

分からない・答えたくない ⇒問 28 へ

問 13. 問 13 から問 27 までは、問 12 で、家族の中に、あなたがお世話をしている人が「いる」と答えた人にお聞きします。あなたがお世話をしている人はだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- お母さん  お父さん  おばあさん  おじいさん  きょうだい  その他( )
- 分からない・答えたくない

問 14. その人は、どのような理由でお世話を必要としていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

高齢のため ※65 才以上

おさないため ※小さいため

介護が必要 ※ここで言う「介護」とは、食事や身の回りのお世話などをすることです。

認知症のため

※ものを覚えたり考えたりする力が弱くなって、今までどおり生活ができなくなってしまっている

身体障害のため ※足や体が自由に動かない、目や耳が不自由など

知的障害のため

心身の病気のため ※うつ病など。そうかもしれない場合も、チェックをしてください。

依存症のため

※お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題をかかえている。そうかもしれない場合も、チェックをしてください。

その他の病気やけがのため

日本語が苦手なため

その他（ ）

分からない・答えたくない

問 15. あなたはどのようなお世話をしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

家事 ※食事の用意や片付け、そうじ、服の洗濯、買い物など

きょうだいのお世話や送り迎え

着がえやお風呂・トイレの手伝い

買い物や散歩にいっしょに行き、手助けをする

病院へいっしょに行き、手助けをする

話し相手になったり、困りごとを聞く

転んだり、危ないことをしないか見守る

通訳 ※日本語が苦手な人のために通訳したり、耳が不自由な人へ手話で通訳をする

家のお金の管理 ※生活に必要なお金を預かっている・使い道を考えたり、買い物をするなど

薬の管理 ※薬を飲んだか、多く飲んでないかなどを確かめたり、手助けをする

その他（ ）

分からない・答えたくない

**問 16. あなたはお世話をだれといっしょにしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。**

お母さん  お父さん  おばあさん  おじいさん  きょうだい  しんせきの人

自分のみ  福祉サービスの人 ※ヘルパーさんなど  その他（ ）

分からない・答えたくない

**問 17. あなたはお世話を何才の時からしていますか。**

**※はっきりと分からない場合は、大体の年で答えてください。**

（ ）才から

**問 18. あなたはどれくらいお世話をしていますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。**

ほぼ毎日  週に3～5日  週に1～2日  1か月に数日  その他（ ）

分からない・答えたくない

**問 19. あなたは1日のうち、何時間くらいお世話をしていますか。**

※日によってちがう場合は、この1か月でいちばん長かった日の時間を教えてください。

1日（ ）時間くらい

**問 20. お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。**

学校を休んでしまう

遅刻や早退をしてしまう

宿題など、勉強をする時間がない

眠る時間がたりない

友だちとあそぶことができない

塾や習い事、クラブ活動、部活動ができない

将来や進路のことを考えられない

- 自分の時間がとれない
- 特にない
- その他（        ）
- 分からない・答えたくない

問 21. お世話をすることに大変さを感じていますか。あてはまるもの全てにチェックしてください。

- 体力の面で大変
- 気持ちの面で大変
- 時間の余裕がない ※もっと自分のための時間が欲しい
- 特に大変さは感じていない
- 大変だけど、やりがいを感じている
- 大変だけど、楽しいと感じている
- 分からない・答えたくない

問 22. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことはありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ある ⇒問 23 へ
- ない ⇒問 24 へ
- 分からない・答えたくない ⇒問 26 へ

問 23. 問 22 で、お世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことが「ある」と答えた人にお聞きします。それはだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 家族 ※お母さん、お父さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい
- しんせき ※おじ、おば など
- 友だち
- 学校の先生 ※保健室の先生以外
- 保健室の先生
- スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
- 病院の先生や看護師、その他病院の人

- ヘルパーやケアマネジャーなどの福祉サービスの人
- 区役所や保健センターの人
- 近所の人
- SNS で知り合った人 ※ツイッターやLINE・インターネットなどで知り合った人
- その他（      ）
- 分からない・答えたくない

問 24. 問 24 と問 25 は、問 22 で、お世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことが「ない」と答えた人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- だれかに相談するほど困っていないから
- 家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから
- だれに相談をするのがよいか分からないから
- 相談できる人がいないから
- 家族のことは話しにくいから
- 家族のことを知られたくないから
- 家族のことを変な目で見られたくないから
  - ※親が何もしない、といったように、親を悪く思われたくないなど
- 相談をしても何も変わらないから
- 自分のことをかわいそうと思われたり、変に思われたりしたくないから
- その他（      ）
- 分からない・答えたくない

問 25. お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人は近くにいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- いる   いない   分からない・答えたくない





④ヤングケアラーについて

ヤングケアラーについての質問です。ヤングケアラーとは、大人がやると考えられているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことで、責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。たとえば、次のような子どもです。

<p>しょうがい びょうき 障害や病気のある かぞく か 家族に代わり、買い物・ 料理・掃除・洗濯など かじ の家事をしている。</p>	<p>かぞく か おきな 家族に代わり、幼 いきょうだいの せわ 世話をしている</p>	<p>しょうがい びょうき 障害や病気のある いきょうだいのせ わ 話や見守りをして いる</p>	<p>め はな 目を離せない家族の みまも こえ 見守りや声かけなど き の気づかいをしている</p>	<p>にほんご だいちげんご 日本語が第一言語で ない家族やしょうがい かぞく ある家族のために つうやく 通訳をしている</p>
<p>かけい 家計を支えるため に労働をして、障 害や病気のある かぞく たす 家族を助けている</p>	<p>さくぶつ アルコール・薬物・ ギャンブル問題を かか 抱える家族に対応 している</p>	<p>がん なんびょう せいしん がん・難病・精神 しつかん 疾患など慢性的 びょうき な病気の家族の かんびょう 看病をしている</p>	<p>しょうがい びょうき 障害や病気のある かぞく み まわ 家族の身の回り せわ の世話をしている</p>	<p>しょうがい びょうき 障害や病気のある かぞく にゆうもく 家族の入浴や かいじよ トイレの介助をし ている</p>

イラスト出典元：厚生労働省ホームページ

問 28. 「ヤングケアラー」という言葉を、これまでに聞いたことがありましたか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 聞いたことがあります、内容も知っている ⇒問 29 へ
- 聞いたことはあるが、よく知らない ⇒問 29 へ
- 聞いたことはない ⇒問 30 へ
- 分からない・答えたくない ⇒問 30 へ

問 29. 問 28 で「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた人にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- テレビや新聞、ラジオ
- 雑誌や本
- SNS ※ツイッターや LINE・インターネットなど
- 広告やチラシ、<sup>けいじぶつ</sup>掲示物
- イベントや交流会など
- 学校
- 友だちや知り合いから聞いた
- その他（      ）
- 分からない・答えたくない

問 30. あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。あてはまるもの 1 つにチェックをしてください。

- あてはまる     あてはまらない     分からない・答えたくない

問 31. 自由に入力してください。

家族のお世話をしている子どもやヤングケアラーのために、必要だと思うこと、学校や周りの人にしてもらいたいこと、このアンケートへの感想、<sup>なや</sup>悩みや区役所にやってほしいことなど、何でも入力してください。

アンケートは以上で終わりです。答えてくださりありがとうございました。

## ヤングケアラーについてのアンケート（高校生世代）

### 【アンケートの答え方】

- ①答えは、質問の後のあてはまるものにチェックを入れてください。
- ②「その他」にチェックを入れた時は、空欄に自分で考えた答えを入力してください。
- ③質問に、「あてはまるもの全てにチェックをしてください。」と書いてある時は、何個でもチェックが入られます。あてはまると思ったもの全てにチェックを入れてください。
- ④答えたくない質問は答えず、次の質問に進んでください。
- ⑤アンケートに名前を書くことはありません。あなたの回答がだれかに知られたり、あなたの家族に連絡が入ったりすることはありません。安心して答えてください。

### ①あなたのことについて教えてください。

問 1. あなたの性別について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

男 女 その他 分からない・答えたくない

問 2. あなたの学年を教えてください。「その他」に該当する方は、令和4年11月1日現在の年齢を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

高校（ ）年生 定時制高校（ ）年生 その他（ ）才 分からない・答えたくない

問 3. 今、一緒に住んでいる家族について教えてください。あてはまるもの全てにチェックをしてください。「（ ）人」と書かれているものは、何人いるか入力してください。

母親 父親 祖母 祖父 兄・姉（ ）人 弟・妹（ ）人

親戚の人（ ）人 その他（ ）人 分からない・答えたくない

問 4. あなたの健康状態について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- よい まあよい ふつう あまりよくない よくない 分からない・答えたくない

②ふだんの生活について教えてください

問 5. 学校への通学状況について教えてください。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ほとんど休まない たまに休む よく休む 分からない・答えたくない

問 6. 学校に遅刻をしたり、早退をすることがありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ほとんどしない たまにする よくする 分からない・答えたくない

問 7. 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- はい いいえ 分からない・答えたくない

問 8. 普段の学校生活において、あてはまるものはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 授業中に居眠りをすることが多い  
宿題や課題ができていないことが多い  
持ち物の忘れ物が多い  
塾や習い事、部活動を休むことが多い  
提出物を出すのが遅れることが多い  
修学旅行などの宿泊行事を欠席する  
保健室で過ごすことが多い  
学校では1人で過ごすことが多い  
友人と遊んだり、おしゃべりをする時間が少ない  
特にない  
分からない・答えたくない

問 9. 「悩み」や「困っていること」があるとき、相談をしたり、話を聞いてくれる人が近くにいますか。  
あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
- 相談相手や話を聞いてくれる人がいるが、相談や話はなるべくしたくない
- 分からない・答えたくない

問 10. 今、悩んでいることや困っていることはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 友人との関係のこと
- 学業成績のこと
- 進路のこと
- 塾や部活動のこと
- 習い事のこと
- 家庭の経済的状況など
- 学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと
- 自分と家族の関係のこと
- 家族内の人間関係のこと ※両親の仲がよくないなど
- 病気や障害のある家族のこと
- 自分のために使える時間が少ない
- 特にない
- その他( )
- 分からない・答えたくない

問 11. 問 10 で答えた「悩み」や「困っていること」について、相談できる場所を知っていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 学校の先生    スクールカウンセラー    スクールソーシャルワーカー    子ども総合センター
- 児童館・子ども未来プラザ    民生委員・児童委員    児童相談所    ひとつも知らない
- その他( )    分からない・答えたくない

③家族や家庭のことについて教えてください

問 12. 家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

※ここで言う「お世話」とは、以下のようなことです。

- 家事 ※食事の用意や片付け、そうじ、服の洗濯、買い物など
- きょうだいのお世話や送り迎え
- 着替えやお風呂・トイレの手伝い
- 病院や買い物、散歩などに一緒に行き、手助けをする
- 話し相手になったり、困りごとを聞く
- 転んだり、危ないことをしないか見守る
- 通訳 ※日本語が苦手な人のために通訳したり、耳が不自由な人へ手話で通訳をする
- 家のお金の管理 ※生活に必要なお金を預かっている・使い道を考えたり、買い物をするなど
- 薬の管理 ※薬を飲んだか、多く飲んでないかなどを確かめたり、手助けをする

いる ⇒問 13 へ

いない ⇒問 28 へ

分からない・答えたくない ⇒問 28 へ

問 13. 問 13 から問 27 までは、問 12 で、家族の中に、あなたがお世話をしている人が「いる」と答えた人にお聞きします。あなたがお世話をしている人はだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 母親
- 父親
- 祖母
- 祖父
- きょうだい
- その他(      )
- 分からない・答えたくない

問 14. その人は、どのような理由でお世話を必要としていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

高齢のため ※65 才以上

幼いため

介護が必要 ※ここで言う「介護」とは、食事や身の回りのお世話などをすることです。

認知症のため

※ものを覚えたり考えたりする力が弱くなって、今までどおり生活ができなくなっている

身体障害のため ※足や体が自由に動かない、目や耳が不自由など

知的障害のため

こころの病気のため ※うつ病など。そうかもしれない場合もチェックをしてください。

依存症のため ※お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている。そうかもしれない場合もチェックをしてください。

その他の病気やけがのため

日本語が苦手なため

その他（      ）

分からない・答えたくない

問 15. あなたはどのようなお世話をしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

家事 ※食事の準備や掃除、洗濯、買い物など

きょうだいの世話や保育所等への送迎など

身体的な介護 ※入浴やトイレのお世話など

外出の付き添い ※買い物、散歩など

通院の付き添い

感情面のサポート ※愚痴を聞く、話し相手になるなど

転んだり、危ないことをしないか見守る

通訳 ※日本語が苦手な人のために通訳したり、耳が不自由な人へ手話で通訳をする

金銭管理 ※生活に必要なお金を預かっている・使い道を考えたり、買い物をするなど

薬の管理 ※薬を飲んだか、多く飲んでないかなどを確かめたり、手助けをする

その他（      ）

分からない・答えたくない

問 16. あなたはお世話をだれと一緒にしていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 母親 父親 祖母 祖父 きょうだい 親戚の人 自分のみ  
福祉サービスの人 ※ヘルパーさんなど その他（ ） 分からない・答えたくない

問 17. あなたはお世話を何才の時からしていますか。

※はっきりと分からない場合は、大体の年で答えてください。

（ ）才から

問 18. あなたはどれくらいお世話をしていますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ほぼ毎日 週に3～5日 週に1～2日 1か月に数日 その他（ ）  
分からない・答えたくない

問 19. あなたは1日のうち、何時間くらいお世話をしていますか。

※日によって違う場合は、この1か月でいちばん長かった日の時間を教えてください。

1日（ ）時間くらい

問 20. お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 学校を休んでしまう  
どうしても学校を遅刻・早退してしまう  
宿題など、勉強をする時間がない  
睡眠が十分に取れない  
友人と遊ぶことができない  
部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった  
進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した  
自分の時間がとれない  
特にない  
その他（ ）  
分からない・答えたくない



問 21. お世話をすることに大変さを感じていますか。あてはまるもの全てにチェックをしてください

- 体力の面で大変
- 気持ちの面で大変
- 時間の余裕がない ※もっと自分のための時間がほしい
- 特に大変さは感じていない
- 大変だけど、やりがいを感じている
- 大変だけど、楽しいと感じている
- 分からない・答えたくない

問 22. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことはありますか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- ある ⇒問 23 へ
- ない ⇒問 24 へ
- 分からない・答えたくない ⇒問 26 へ

問 23. 問 22 で、お世話をしている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことが「ある」と答えた人にお聞きします。それはだれですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 家族 ※母親、父親、祖母、祖父、きょうだい
- 親戚 ※おじ、おば など
- 友人
- 学校の先生 ※保健室の先生以外
- 保健室の先生
- スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
- 病院の先生や看護師、その他病院の人
- ヘルパーやケアマネジャーなどの福祉サービスの人
- 区役所や保健センターの人
- 近所の人
- SNS 上で知り合った人 ※ツイッターや LINE・インターネットなどで知り合った人
- その他（ ）
- 分からない・答えたくない



- 進路や就職など将来の相談にのってほしい
- 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
- 家庭への経済的な支援
- 特にない
- その他（      ）
- 分からない・答えたくない

問 27. 問 26 で「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた人にお聞きします。どのような方法で話や相談をしたいですか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- 直接会って話したい   電話   SNS   ※ツイッターやLINE・インターネットなど   メール
- その他（      ）   分からない・答えたくない

④ヤングケアラーについて

ヤングケアラーについての質問です。ヤングケアラーとは、大人がやると考えられているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことで、責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。たとえば、次のような子どもです。



しょうがい びょうき  
障害や病気のある  
かぞく か もの  
家族に代わり、買い物・  
りょうり せうじ せんたく  
料理・掃除・洗濯など  
かじ  
の家事を行っている。



かぞく か おきな  
家族に代わり、幼  
いきょうだいの  
せわ  
世話をしている



しょうがい びょうき  
障害や病気のある  
いきょうだいのせ  
わ や みまも  
話や見守りをして  
いる



め ほな かぞく  
目を離せない家族の  
みまも びさ  
見守りや声かけなど  
き  
の気づかいをしている



にほんご だいいげんご  
日本語が第一言語で  
かぞく しょうがい  
ない家族や障害の  
かぞく  
ある家族のために  
つうやく  
通訳をしている



かはい きさ  
家計を支えるため  
に労働をして、障  
がい びょうき  
害や病気のある  
かぞく たす  
家族を助けている



あくぶつ  
アルコール・薬物・  
ギャンブル問題を  
かぞく たいごう  
抱える家族に対応  
している



がん なんびょう せいしん  
がん・難病・精神  
しつかん まんせいてき  
疾患など慢性的  
びょうき かぞく  
な病気の家族の  
かんびょう  
看病をしている



しょうがい びょうき  
障害や病気のある  
かぞく み まわ  
家族の身の回り  
のせわ  
の世話をしている



しょうがい びょうき  
障害や病気のある  
かぞく にゅうもく  
家族の入浴や  
かいじよ  
トイレの介助をし  
ている

イラスト出典元：厚生労働省ホームページ

問 28. 「ヤングケアラー」という言葉を、これまでに聞いたことがありましたか。あてはまるもの1つにチェックをしてください。

- 聞いたことがあり、内容も知っている
- 聞いたことはあるが、よく知らない
- 聞いたことはない
- 分からない・答えたくない

問 29. 問 28 で「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と答えた人にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。あてはまるもの全てにチェックをしてください。

- テレビや新聞、ラジオ
- 雑誌や本
- SNS ※ツイッターや LINE・インターネットなど
- 広告やチラシ、掲示物
- イベントや交流会など
- 学校
- 友だちや知り合いから聞いた
- その他（      ）
- 分からない・答えたくない

問 30. あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。あてはまるもの 1 つにチェックをしてください。

- あてはまる
- あてはまらない
- 分からない・答えたくない

問 31. 自由に入力してください。

家族のお世話をしている子どもやヤングケアラーのために、必要だと思うこと、学校や周りの人にしてもらいたいこと、このアンケートへの感想、悩みや区役所への要望など、何でも入力してください。

アンケートは以上で終わりです。答えてくださりありがとうございました。

## ヤングケアラーへの対応についてのアンケート（小・中学校）

【アンケートのご回答について】

- ①ご回答は、選択肢を選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- ②ご回答いただいた内容は、今後のヤングケアラーに対する包括的支援の検討を進めていくための基礎資料のみに使用し、他の目的には使用いたしません。集計結果を含めた報告書は、葛飾区ホームページなどで公表します。また、各校の名称は答える必要はございません。報告書への名称掲載もいたしません。
- ③この調査では、回答の途中で一時保存ができます。

### 1 基本情報

問 1. 貴校の学校区分を教えてください。（あてはまるもの1つにチェックをしてください）

- 小学校 中学校

問 2. 対象者の在籍人数をお聞かせください。（令和4年11月1日時点）

※小学校は小学4年から6年生の全児童数、中学校は、全校生徒数

（            ）人

### 2 支援が必要と思われる子どもへの対応

問 3. 下記の子どもについて、校内で共有しているケースはありますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 学校を休みがちである
- 遅刻や早退が多い
- 保健室で過ごしていることが多い
- 精神的な不安定さがある
- 身だしなみが整っていない
- 学力が低下している
- 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- 学校に必要なものを用意してもらえない
- 部活を途中でやめてしまった
- 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- 給食費などの校納金が遅れる、未払い
- その他（        ）

問 4. 問 3 の「校内で共有しているケース」について、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。（あてはまるもの 1 つにチェックをしてください）

- 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している →問 5 へ
- 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している →問 5 へ
- 個別に対応している（決まった検討体制はない）→問 7 へ

問 5. 問 4 で、「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方に伺います。校内では、どのような体制で情報共有・検討を行っていますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- ケース会議 →問 6 へ
- 生活指導部・委員会など →問 6 へ
- 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有
- 教育相談コーディネーターなど、学校内・関係機関との連絡調整、会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活躍する教職員の配置・指名
- その他（ ） →問 6 へ

問 6. 問 5 で「ケース会議」、「生活指導部・委員会など」、「その他」で情報共有・検討を行っているとお伺いします。どの教職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

	参加者	頻度
ケース会議	<input type="checkbox"/> 校長 <input type="checkbox"/> 副校長 <input type="checkbox"/> 主幹教諭 <input type="checkbox"/> 生活指導主任 <input type="checkbox"/> 学年主任 <input type="checkbox"/> 担任 <input type="checkbox"/> 養護教諭 <input type="checkbox"/> SSW <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> 外部の関係機関（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 2週間に1回以上 <input type="checkbox"/> 月に1回程度 <input type="checkbox"/> 半年に1回程度 <input type="checkbox"/> 年に1回程度 <input type="checkbox"/> その他
生活指導部・委員会	<input type="checkbox"/> 校長 <input type="checkbox"/> 副校長 <input type="checkbox"/> 主幹教諭 <input type="checkbox"/> 生活指導主任 <input type="checkbox"/> 学年主任 <input type="checkbox"/> 担任 <input type="checkbox"/> 養護教諭 <input type="checkbox"/> SSW <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> 外部の関係機関（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 2週間に1回以上 <input type="checkbox"/> 月に1回程度 <input type="checkbox"/> 半年に1回程度 <input type="checkbox"/> 年に1回程度 <input type="checkbox"/> その他
その他	<input type="checkbox"/> 校長 <input type="checkbox"/> 副校長 <input type="checkbox"/> 主幹教諭 <input type="checkbox"/> 生活指導主任 <input type="checkbox"/> 学年主任 <input type="checkbox"/> 担任 <input type="checkbox"/> 養護教諭 <input type="checkbox"/> SSW <input type="checkbox"/> SC <input type="checkbox"/> 外部の関係機関（ ） <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 2週間に1回以上 <input type="checkbox"/> 月に1回程度 <input type="checkbox"/> 半年に1回程度 <input type="checkbox"/> 年に1回程度 <input type="checkbox"/> その他

問 7. 問 4 で「個別に対応している」と回答した方にお伺いします。問 3 の「校内で共有しているケース」について、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えください。（自由記述）

問 8. 問 3 の「校内で共有しているケース」について、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関をすべてチェックしてください。

	体制	関係機関
子ども総合センター等の登録ケース	<input type="checkbox"/> あり →関係機関選択 <input type="checkbox"/> なし	以下選択肢から あてはまるもの全てにチェック
不登校のケース	<input type="checkbox"/> あり →関係機関選択 <input type="checkbox"/> なし	
それ以外	<input type="checkbox"/> あり →関係機関選択 <input type="checkbox"/> なし	
関係機関選択肢		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●区教育委員会</li> <li>●区保健部門</li> <li>●総合教育センター（適応指導教室）</li> <li>●児童相談所</li> <li>●民生委員・児童委員</li> <li>●病院</li> <li>●区福祉部門(子ども総合センター/虐待対応部門以外)</li> <li>●子ども総合センター/虐待対応部門</li> <li>●フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設</li> <li>●地域包括支援センター・居宅介護支援事業所</li> <li>●障害者相談支援事業所</li> <li>●警察や刑事司法関係機関</li> <li>●その他（ ）</li> </ul>		

問 9. 関係機関と連携する場合に、特に必要な情報はありますか。（あてはまるもの全てにチェック）

- どのような関係機関があるのか 関係機関の事業内容や、対応可能なこと  
連携の具体的な方法 個人情報の取り扱い 連携の調整役  
その他（ ） 必要な情報は特になし

### 3 ヤングケアラーについて

問 10. 貴校では、「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。（あてはまるもの1つにチェックをしてください）

- 言葉を知らない →問 13 へ  
言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない →問 13 へ  
言葉は知っているが、学校として特別な対応をしていない →問 13 へ  
言葉を知っており、学校として意識して対応している →問 11 へ

問 11. 問 10 で「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と答えた方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。（あてはまるもの1つにチェックをしてください）

- 把握している →問 12 へ  
「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない →問 13 へ  
該当する子どもはいない（これまでもいなかった） →問 13 へ



問 12. 問 11 で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を「把握している」と答えた方にお伺いします。どのように把握をしていますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
- 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
- その他（ ）

問 13. ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、今回の調査では「本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。」と捉えます。次の「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、以下の設問にお答えください。

（ヤングケアラーのイメージ(例)）



イラスト出典元：厚生労働省ホームページ

現在、貴校にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。（あてはまるもの1つにチェックをしてください）

- いる → 問 14 へ
- いない → 問 23 へ
- わからない → 問 22 へ

問 14. 問 13 で、ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる子どもの状況にあてはまるもの全てにチェックをしてください。（「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、お答えください。）

- 障害や病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
- 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
- 家族の代わりに、障害や病気のあるきょうだいの世話をしている
- 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
- 家族の通訳をしている
- 家計を支えるために、アルバイト等をしている
- アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
- 病気の家族の看病をしている
- 障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている
- 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
- その他（ ）

問 15. 引き続き、問 13 でヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、子ども総合センターなど）の支援につないだケースはありますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 子ども総合センターに通告したケースがある →問 16 へ
- 子ども総合センターに通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある →問 17 へ
- 外部の支援にはつないでいない（学校で対応している） →問 18 へ

問 16. 問 15 で「子ども総合センターへ通告したケースがある」、と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として 1 件お教えてください。

性別(1つにチェック)	<input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
学年(1つにチェック)	<input type="checkbox"/> 小学4年生 <input type="checkbox"/> 小学5年生 <input type="checkbox"/> 小学6年生 <input type="checkbox"/> 中学1年生 <input type="checkbox"/> 中学2年生 <input type="checkbox"/> 中学3年生		
学校生活の状況 (あてはまるもの全てにチェック)	<input type="checkbox"/> 学校を休みがちである <input type="checkbox"/> 遅刻や早退が多い <input type="checkbox"/> 保健室で過ごしていることが多い <input type="checkbox"/> 精神的な不安定さがある <input type="checkbox"/> 身だしなみが整っていない <input type="checkbox"/> 学力が低下している <input type="checkbox"/> 宿題や持ち物の忘れ物が多い	<input type="checkbox"/> 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い <input type="checkbox"/> 学校に必要なものを用意してもらえない <input type="checkbox"/> 部活を途中でやめてしまった <input type="checkbox"/> 修学旅行や宿泊行事等を欠席する <input type="checkbox"/> 校納金が遅れる、未払い <input type="checkbox"/> その他 ( )	
家族構成 (あてはまるもの全てにチェック)	<input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> きょうだい <input type="checkbox"/> その他 ( )		
家庭でのケアの状況 (あてはまるもの全てにチェック)	ケアの状況を把握しているか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	ケアの状況を把握している場合、ケアの具体的な内容 (あてはまるもの全てにチェック)		
	ケアを必要としている人	ケアを必要としている人の状況	
	<input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> きょうだい <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 高齢 (65歳以上) <input type="checkbox"/> 若い <input type="checkbox"/> 要介護 (介護が必要な状態) <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 身体障害 <input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 精神疾患 (疑い含む) <input type="checkbox"/> 依存症 (疑い含む) <input type="checkbox"/> 精神疾患や依存症以外の病気 <input type="checkbox"/> 日本語を第一言語としていない (通訳が必要) <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 分からない
	ケアの内容		
<input type="checkbox"/> 家事 (食事の準備や掃除、洗濯) <input type="checkbox"/> きょうだいの世話や保育所への送迎など <input type="checkbox"/> 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など) <input type="checkbox"/> 外出の付き添い (買い物、散歩など) <input type="checkbox"/> 通院の付き添い <input type="checkbox"/> 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)		<input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 通訳 (日本語や手話など) <input type="checkbox"/> 金銭管理 <input type="checkbox"/> 薬の管理 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 分からない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
子ども総合センターへの通告ルート	<input type="checkbox"/> 学校から直接連絡 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
学校で行った支援(子ども総合センターとの連携も含めて)			
支援した結果、子どもへの変化			

問 17. 問 15 で「子ども総合センターに通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として 1 件お教えください。

性別(1つにチェック)	<input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
学年(1つにチェック)	<input type="checkbox"/> 小学4年生 <input type="checkbox"/> 小学5年生 <input type="checkbox"/> 小学6年生 <input type="checkbox"/> 中学1年生 <input type="checkbox"/> 中学2年生 <input type="checkbox"/> 中学3年生		
学校生活の状況 (あてはまるもの全てにチェック)	<input type="checkbox"/> 学校を休みがちである <input type="checkbox"/> 遅刻や早退が多い <input type="checkbox"/> 保健室で過ごしていることが多い <input type="checkbox"/> 精神的な不安定さがある <input type="checkbox"/> 身だしなみが整っていない <input type="checkbox"/> 学力が低下している <input type="checkbox"/> 宿題や持ち物の忘れ物が多い	<input type="checkbox"/> 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い <input type="checkbox"/> 学校に必要なものを用意してもらえない <input type="checkbox"/> 部活を途中でやめてしまった <input type="checkbox"/> 修学旅行や宿泊行事等を欠席する <input type="checkbox"/> 校納金が遅れる、未払い <input type="checkbox"/> その他 ( )	
家族構成 (あてはまるもの全てにチェック)	<input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> きょうだい <input type="checkbox"/> その他 ( )		
家庭でのケアの状況 (あてはまるもの全てにチェック)	ケアの状況を把握しているか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	ケアの状況を把握している場合、ケアの具体的な内容 (あてはまるもの全てにチェック)		
	ケアを必要としている人	ケアを必要としている人の状況	
	<input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> きょうだい <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 高齢 (65歳以上) <input type="checkbox"/> 若い <input type="checkbox"/> 要介護 (介護が必要な状態) <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 身体障害 <input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 精神疾患 (疑い含む) <input type="checkbox"/> 依存症 (疑い含む) <input type="checkbox"/> 精神疾患や依存症以外の病気 <input type="checkbox"/> 日本語を第一言語としていない (通訳が必要) <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 分からない
	ケアの内容		
<input type="checkbox"/> 家事 (食事の準備や掃除、洗濯) <input type="checkbox"/> きょうだいの世話や保育所への送迎など <input type="checkbox"/> 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など) <input type="checkbox"/> 外出の付き添い (買い物、散歩など) <input type="checkbox"/> 通院の付き添い <input type="checkbox"/> 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	<input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 通訳 (日本語や手話など) <input type="checkbox"/> 金銭管理 <input type="checkbox"/> 薬の管理 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 分からない		
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
つないだ機関			
外部機関へのつなぎ方	<input type="checkbox"/> 区教育委員会経由 <input type="checkbox"/> 学校から直接連絡 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
学校で行った支援(つなぎ先との連携も含めて)			
支援した結果、子どもへの変化			

問 18. 問 15 で「外部の支援にはつないでいない（学校で対応している）」と答えた方にお伺いします。外部の支援先につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください。（自由記述）

問 19. ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。（自由記述）

問 20. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。（自由記述）

問 21. 問 3 で伺った項目について、ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目として活用する場合、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。（自由記述）

（参考）問 3 のチェック項目

- ・ 学校を休みがちである
- ・ 遅刻や早退が多い
- ・ 保健室で過ごしていることが多い
- ・ 精神的な不安定さがある
- ・ 身だしなみが整っていない
- ・ 学力が低下している
- ・ 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- ・ 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- ・ 学校に必要なものを用意してもらえない
- ・ 部活を途中でやめてしまった
- ・ 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- ・ 給食費などの校納金が遅れる、未払い

問 22. 問 13 で、ヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもがいるか「分からない」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
- 不登校やいじめなどに比べ緊急度が低いいため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
- 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
- ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
- その他（ ）

問 23. ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
- 教職員がヤングケアラーについて知ること
- 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
- SSW や SC などの専門職の配置が充実すること
- 子どもが教員に相談しやすい環境をつくること
- ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること

- 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
- 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
- ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること
- 福祉と教育の連携を進めること（具体的に：　　）
- その他（　　） 特にない

**問 24. ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。（自由記述）**

アンケート調査は以上で終わりです。お忙しいところ、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

## ヤングケアラーへの対応についてのアンケート（事業所）

【アンケートのご回答について】

- ①ご回答は、選択肢を選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- ②ご回答いただいた内容は、今後のヤングケアラーに対する包括的支援の検討を進めていくための基礎資料のみに使用し、他の目的には使用いたしません。集計結果を含めた報告書は、葛飾区ホームページなどで公表します。また、事業所の名称は答える必要はございません。報告書への名称掲載もいたしません。
- ③この調査では、回答の途中で一時保存ができます。

### 1 基本情報

問 1. 事業所で行っているサービスの対象者を教えてください。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 要支援・要介護者 身体障害者 知的障害者 精神障害者 その他（ ）

### 2 支援が必要と思われる子どもへの対応

問 2. 下記の子どものついて、事業所内で共有しているケースはありますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 学校を休みがちである
- 遅刻や早退が多い
- 保健室で過ごしていることが多い
- 精神的な不安定さがある
- 身だしなみが整っていない
- 学力が低下している
- 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- 学校に必要なものを用意してもらえない
- 部活を途中でやめてしまった
- 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- 給食費などの校納金が遅れる、未払い
- その他（ ）

問3. 問2の「事業所内で共有しているケース」について、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。（あてはまるもの1つにチェックをしてください）

- 事業所内に検討体制があり、特に不登校の子どもがいるケースについて、情報共有・対応の検討をしている →問4へ
- 事業所内に検討体制があり、問2にあるようなケースがあったら、情報共有・対応の検討をしている。→問4へ
- 個別に対応している（決まった検討体制はない）→問6へ

問4. 問3で、「事業所内に検討体制があり、特に不登校の子どもがいるケースについて、情報共有・対応の検討をしている」、「事業所内に検討体制があり、問2にあるようなケースがあったら、情報共有・対応の検討をしている。」と回答した方に伺います。事業所内では、どのような体制で情報共有・検討を行っていますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- ケース会議 →問5へ
- 支援シートなど共通様式による情報共有
- 事業所内・関係機関との連絡調整、会議開催の調整など子どもの抱える課題の解決に向けて調整役として活躍する職員の配置・指名
- その他（ ） →問5へ

問5. 問4で「ケース会議」、「その他」で情報共有・検討を行っているとお伺いします。どの職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

	参加者	頻度
ケース会議	<input type="checkbox"/> 管理者 <input type="checkbox"/> サービス提供責任者 <input type="checkbox"/> 訪問介護従事者 （訪問介護員、重度訪問介護従事者など） <input type="checkbox"/> 訪問看護従事者（訪問看護師など） <input type="checkbox"/> 介護支援専門員 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 2週間に1回以上 <input type="checkbox"/> 月に1回程度 <input type="checkbox"/> 半年に1回程度 <input type="checkbox"/> 年に1回程度 <input type="checkbox"/> その他
その他	<input type="checkbox"/> 管理者 <input type="checkbox"/> サービス提供責任者 <input type="checkbox"/> 訪問介護従事者 （訪問介護員、重度訪問介護従事者など） <input type="checkbox"/> 訪問看護従事者（訪問看護師など） <input type="checkbox"/> 介護支援専門員 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 2週間に1回以上 <input type="checkbox"/> 月に1回程度 <input type="checkbox"/> 半年に1回程度 <input type="checkbox"/> 年に1回程度 <input type="checkbox"/> その他

問6. 問3で「個別に対応している」と回答した方に伺います。問2の「事業所内で共有しているケース」について、どのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にお教えてください。（自由記述）



問7. 問2の「事業所内で共有しているケース」について、関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関をすべてチェックしてください。

	体制	連携する関係機関
不登校の子どもがいるケース	<input type="checkbox"/> あり →関係機関選択 <input type="checkbox"/> なし	以下選択肢から あてはまるもの全てにチェック
それ以外	<input type="checkbox"/> あり →関係機関選択 <input type="checkbox"/> なし	
関係機関選択肢		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●区教育委員会</li> <li>●区保健部門</li> <li>●総合教育センター（適応指導教室）</li> <li>●児童相談所</li> <li>●民生委員・児童委員</li> <li>●病院</li> <li>●福祉部門(子ども総合センター/虐待対応部門以外)</li> <li>●子ども総合センター/虐待対応部門</li> <li>●フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設</li> <li>●地域包括支援センター・居宅介護支援事業所</li> <li>●障害者相談支援事業所</li> <li>●警察や刑事司法関係機関 ●その他（ ）</li> </ul>		

問8. 関係機関と連携する場合に、特に必要な情報はありますか。（あてはまるもの全てにチェック）

- どのような関係機関があるのか
- 関係機関の事業内容や、対応可能なこと
- 連携の具体的な方法
- 個人情報の取り扱い
- 連携の調整役
- その他（ ）
- 必要な情報は特にない

### 3 ヤングケアラーについて

問9. 貴事業所の職員は、「ヤングケアラー」という概念を知っていますか。（職員の多くにあてはまると思われるもの1つにチェックをしてください）

- 言葉を知らない →問12へ
- 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない →問12へ
- 言葉は知っているが、事業所として特別な対応をしていない →問12へ
- 言葉を知っており、事業所として意識して対応している →問10へ

問10. 問9で「言葉を知っており、事業所として意識して対応している」と答えた方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。（あてはまるもの1つにチェックをしてください）

- 把握している →問11へ
- 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない →問12へ
- 該当する子どもはいない（これまでもいなかった） →問12へ

問 11. 問 10 で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を「把握している」と答えた方にお伺いします。どのように把握をしていますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
- 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
- その他（ ）

問 12. 全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、今回の調査では「本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。」と捉えます。次の「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、以下の設問にお答えください。

（ヤングケアラーのイメージ(例)）



イラスト出典元：厚生労働省ホームページ

現在、貴事業所にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。（あてはまるもの1つにチェックをしてください）

- いる →問 13 へ
- いない →問 22 へ
- わからない →問 21 へ

問 13. 問 12 で、ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる子どもの状況にあてはまるもの全てにチェックをしてください。（「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、お答えください。）

- 障害や病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
- 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
- 家族の代わりに、障害や病気のあるきょうだいの世話をしている
- 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
- 家族の通訳をしている
- 家計を支えるために、アルバイト等をしている
- アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題を抱える家族に対応している
- 病気の家族の看病をしている
- 障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている
- 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
- その他（ ）

問 14. 問 12 でヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。具体的に関係機関（教育委員会、役所など）の支援につないだケースや、子ども総合センターへ通告したケースはありますか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 子ども総合センターに通告したケースがある →問 15 へ
- 子ども総合センターに通告するほどではないが、関係機関の支援につないだケースがある  
→問 16 へ
- 関係機関にはつながずに対応している →問 17 へ

問 15. 問 14 で「子ども総合センターへ通告したケースがある」、と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として 1 件お教えてください。

性別(1つにチェック)	<input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
学年(1つにチェック)	<input type="checkbox"/> 小学4年生 <input type="checkbox"/> 小学5年生 <input type="checkbox"/> 小学6年生 <input type="checkbox"/> 中学1年生 <input type="checkbox"/> 中学2年生 <input type="checkbox"/> 中学3年生 <input type="checkbox"/> 高校1年生 <input type="checkbox"/> 高校2年生 <input type="checkbox"/> 高校3年生 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
学校生活の状況 (あてはまるもの全てにチェック)	<input type="checkbox"/> 学校を休みがちである <input type="checkbox"/> 遅刻や早退が多い <input type="checkbox"/> 保健室で過ごしていることが多い <input type="checkbox"/> 精神的な不安定さがある <input type="checkbox"/> 身だしなみが整っていない <input type="checkbox"/> 学力が低下している <input type="checkbox"/> 宿題や持ち物の忘れ物が多い	<input type="checkbox"/> 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い <input type="checkbox"/> 学校に必要なものを用意してもらえない <input type="checkbox"/> 部活を途中でやめてしまった <input type="checkbox"/> 修学旅行や宿泊行事等を欠席する <input type="checkbox"/> 給食費などの校納金が遅れる、未払い <input type="checkbox"/> その他 ( )	
家族構成 (あてはまるもの全てにチェック)	<input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> きょうだい <input type="checkbox"/> その他 ( )		
家庭でのケアの状況 (あてはまるもの全てにチェック)	ケアの状況を把握しているか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	ケアの状況を把握している場合、ケアの具体的な内容 (あてはまるもの全てにチェック)		
	ケアを必要としている人	ケアを必要としている人の状況	
	<input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> きょうだい <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 高齢 (65歳以上) <input type="checkbox"/> 若い <input type="checkbox"/> 要介護 (介護が必要な状態) <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 身体障害 <input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 精神疾患 (疑い含む) <input type="checkbox"/> 依存症 (疑い含む) <input type="checkbox"/> 精神疾患や依存症以外の病気 <input type="checkbox"/> 日本語を第一言語としていない (通訳が必要) <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 分からない
	ケアの内容		
	<input type="checkbox"/> 家事 (食事の準備や掃除、洗濯) <input type="checkbox"/> きょうだいの世話や保育所への送迎など <input type="checkbox"/> 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など) <input type="checkbox"/> 外出の付き添い (買い物、散歩など) <input type="checkbox"/> 通院の付き添い <input type="checkbox"/> 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	<input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 通訳 (日本語や手話など) <input type="checkbox"/> 金銭管理 <input type="checkbox"/> 薬の管理 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 分からない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
子ども総合センターへの 通告ルート	<input type="checkbox"/> 事業所から直接連絡 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
事業所で行った支援(関係 機関との連携も含めて)			
支援した結果、子どもへ の変化			

問 16. 問 14 で「子ども総合センターに通告するほどではないが、関係機関の支援につないだケースがある」と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として 1 件お教えてください。

性別(1つにチェック)	<input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
学年(1つにチェック)	<input type="checkbox"/> 小学 4 年生 <input type="checkbox"/> 小学 5 年生 <input type="checkbox"/> 小学 6 年生 <input type="checkbox"/> 中学 1 年生 <input type="checkbox"/> 中学 2 年生 <input type="checkbox"/> 中学 3 年生 <input type="checkbox"/> 高校 1 年生 <input type="checkbox"/> 高校 2 年生 <input type="checkbox"/> 高校 3 年生 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
学校生活の状況 (あてはまるもの全てに チェック)	<input type="checkbox"/> 学校を休みがちである <input type="checkbox"/> 遅刻や早退が多い <input type="checkbox"/> 保健室で過ごしていることが多い <input type="checkbox"/> 精神的な不安定さがある <input type="checkbox"/> 身だしなみが整っていない <input type="checkbox"/> 学力が低下している <input type="checkbox"/> 宿題や持ち物の忘れ物が多い	<input type="checkbox"/> 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い <input type="checkbox"/> 学校に必要なものを用意してもらえない <input type="checkbox"/> 部活を途中でやめてしまった <input type="checkbox"/> 修学旅行や宿泊行事等を欠席する <input type="checkbox"/> 給食費などの校納金が遅れる、未払い <input type="checkbox"/> その他 ( )	
家族構成 (あてはまるもの全てに チェック)	<input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> きょうだい <input type="checkbox"/> その他 ( )		
家庭でのケアの状況 (あてはまるもの全てに チェック)	ケアの状況を把握しているか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	ケアの状況を把握している場合、ケアの具体的な内容 (あてはまるもの全てにチェック)		
	ケアを必要としている人	ケアを必要としている人の状況	
	<input type="checkbox"/> 母親 <input type="checkbox"/> 父親 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> きょうだい <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 高齢 (65歳以上) <input type="checkbox"/> 若い <input type="checkbox"/> 要介護 (介護が必要な状態) <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 身体障害 <input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 精神疾患 (疑い含む) <input type="checkbox"/> 依存症 (疑い含む) <input type="checkbox"/> 精神疾患や依存症以外の病気 <input type="checkbox"/> 日本語を第一言語としていない (通訳が必要) <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 分からない
	ケアの内容		
	<input type="checkbox"/> 家事 (食事の準備や掃除、洗濯) <input type="checkbox"/> きょうだいの世話や保育所への送迎など <input type="checkbox"/> 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など) <input type="checkbox"/> 外出の付き添い (買い物、散歩など) <input type="checkbox"/> 通院の付き添い <input type="checkbox"/> 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	<input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 通訳 (日本語や手話など) <input type="checkbox"/> 金銭管理 <input type="checkbox"/> 薬の管理 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 分からない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
つないだ機関			
関係機関へのつなぎ方	<input type="checkbox"/> 事業所から直接連絡 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
事業所で行った支援(つなぎ先との連携も含めて)			
支援した結果、子どもへの変化			

問 17. 問 14 で「関係機関にはつながずに対応している」と答えた方にお伺いします。関係機関につながなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください（自由記述）

問 18. ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。（自由記述）

問 19. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。（自由記述）

問 20. 問 2 で伺った項目について、ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目として活用する場合、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。（自由記述）

（参考）問 2 のチェック項目

- ・ 学校を休みがちである
- ・ 遅刻や早退が多い
- ・ 保健室で過ごしていることが多い
- ・ 精神的な不安定さがある
- ・ 身だしなみが整っていない
- ・ 学力が低下している
- ・ 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- ・ 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- ・ 学校に必要なものを用意してもらえない
- ・ 部活を途中でやめてしまった
- ・ 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
- ・ 給食費などの校納金が遅れる、未払い

問 21. 問 12 で、ヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもがいるか「分からない」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 事業所において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
- 本人への介護などと比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
- 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
- ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
- その他（ ）

問 22. ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。（あてはまるもの全てにチェックをしてください）

- 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
- 職員がヤングケアラーについて知ること
- 地域にヤングケアラーが何人いるか把握すること
- 子どもが学校や身近な人に相談しやすい環境をつくること
- ヤングケアラーについて支援者同士で検討する組織があること
- ヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
- 支援者や見守る側がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること

ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること

福祉と教育の連携を進めること（具体的に： ）

その他（ ）

特にない

**問 23. ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。（自由記述）**

アンケート調査は以上で終わりです。お忙しいところ、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。





### 3 ヤングケアラーについて

問3. 「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。（あてはまる番号1つに○をしてください）

1. 言葉を知らない →問6へ
2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない →問6へ
3. 言葉は知っているが、特別な対応はしていない →問6へ
4. 言葉を知っており、意識して対応している →問4へ

問4. 問3で「4. 言葉を知っており、意識して対応している」と答えた方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。（あてはまる番号1つに○をしてください）

1. 把握している →問5へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない →問6へ
3. 該当する子どもはいない（これまでもいなかった） →問6へ

問5. 問4で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を「1. 把握している」と答えた方にお伺いします。どのように把握をしていますか。（あてはまる番号全てに○をしてください）

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
3. その他( )

問6. ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、今回の調査では「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」と捉えます。3ページの「ヤングケアラーのイメージ」を参考に、設問にお答えください。



問8. 問6でヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と答えた方にお伺いします。具体的に関係機関（教育委員会、役所など）の支援につないだケースや、子ども総合センターへ通告したケースはありますか。（あてはまる番号全てに○をしてください）

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 子ども総合センターに通告したケースがある →問 9 へ</li><li>2. 子ども総合センターに通告するほどではないが、関係機関の支援につないだケースがある<br/>→問 10 へ</li><li>3. 関係機関にはつながらずに対応している →問 11 へ</li></ol> |
|--|

問9. 問8で「1. 子ども総合センターへ通告したケースがある」、と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として1件お教えてください。（7ページの表に回答してください。）

問 10. 問8で「2. 子ども総合センターに通告するほどではないが、関係機関の支援につないだケースがある」と回答した方へお伺いします。該当する直近のケースについて、事例として1件お教えてください。（8ページの表に回答してください。）

問 11. 問8で「3. 関係機関の支援にはつながらずに対応している」と答えた方にお伺いします。関係機関の支援につなげなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのか教えてください

関係機関の支援につなげなかった理由
対応方法

問 12. ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

問 13. ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

問 14. 問2（以下参考のとおり）で伺った項目について、ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目として活用する場合、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお答えください。

**(参考)問2のチェック項目**

- |                  |                             |
|------------------|-----------------------------|
| ・学校を休みがちである      | ・保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い |
| ・遅刻や早退が多い        | ・学校に必要なものを用意してもらえない         |
| ・保健室で過ごしていることが多い | ・部活を途中でやめてしまった              |
| ・精神的な不安定さがある     | ・修学旅行や宿泊行事等を欠席する            |
| ・身だしなみが整っていない    | ・給食費などの校納金が遅れる、未払い          |
| ・学力が低下している       |                             |
| ・宿題や持ち物の忘れ物が多い   |                             |

問 15. 問6で、ヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもがいるかについて「3. 分からない」と答えた方にお伺いします。その理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○をしてください)

1. 「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 虐待や不登校などに比べ緊急度が低いいため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3. 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5. その他( )

問 16. ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号全てに○をしてください)

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 1. 子ども自身がヤングケアラーについて<br>知ることに○        | 6. ヤングケアラー本人や保護者が相談でき<br>る窓口があることに○          |
| 2. 支援者や見守る側がヤングケアラーに<br>ついて知ることに○     | 7. 支援者や見守る側がヤングケアラーの支<br>援について相談できる機関があることに○ |
| 3. 地域にヤングケアラーが何人いるか把握<br>することに○       | 9. ヤングケアラーを支援する NPO などの団<br>体が増えることに○        |
| 4. 子どもが学校や身近な人に相談<br>しやすい環境をつくることに○   | 10. 福祉と教育の連携を進めること<br>(具体的に: )               |
| 5. ヤングケアラーについて支援者同士で<br>検討する組織があることに○ | 11. その他( )                                   |
|                                       | 12. 特になし                                     |

問 17. ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

**別紙 問 9. 子ども総合センターへ通告したケース**

性別	1.女性 2.男性 3.その他( )		
学年	1.就学前 2.小学( )年生 3.中学( )年生 4.高校( )年生 5.その他( )		
学校や生活の状況 (あてはまる数字 全てに○)	1.学校を休みがちである 2.遅刻や早退が多い 3.保健室で過ごしていることが多い 4.精神的な不安定さがある 5.身だしなみが整っていない 6.学力が低下している 7.宿題や持ち物の忘れ物が多い	8.保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや 提出忘れが多い 9.学校に必要なものを用意してもらえない 10.部活を途中でやめてしまった 11.修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12.給食費などの校納金が遅れる、未払い 13.その他( )	
家族構成 (あてはまる数字 全てに○)	1.母親 2.父親 3.祖母 4.祖父 5.きょうだい 6.その他( )		
家庭での ケアの状況 (あてはまる数字全て に○)	ケアの状況を把握しているか	1.はい 2.いいえ	
	→ケアの状況を把握している場合、ケアの具体的な内容(あてはまるもの全てに○)		
	ケアを必要としている人	ケアを必要としている人の状況	
	1.母親	1.高齢(65歳以上)	7.精神疾患(疑い含む)
	2.父親	2.若い	8.依存症(疑い含む)
	3.祖母	3.要介護	9.精神疾患や依存症以外の病気
4.祖父	(介護が必要な状態)	10.日本語を第一言語としていない (通訳が必要)	
5.きょうだい	4.認知症	11.その他( )	
6.その他 ( )	5.身体障害	12.分からない	
	6.知的障害		
ケアの内容			
1.家事(食事の準備や掃除、洗濯)	7.見守り		
2.きょうだいの世話や保育所への送迎など	8.通訳(日本語や手話など)		
3.身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	9.金銭管理		
4.外出の付き添い(買い物、散歩など)	10.薬の管理		
5.通院の付き添い	11.その他( )		
6.感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	12.分からない		
ヤングケアラーと 気づいた理由・ きっかけ			
子ども総合センターへ の通告ルート			
行った支援 (連携も含めて)			
支援した結果、 子どもへの変化			

**別紙 問 10. 子ども総合センター以外の関係機関の支援につないだケース**

性別	1.女性 2.男性 3.その他( )	
学年	1.就学前 2.小学( )年生 3.中学( )年生 4.高校( )年生 5.その他( )	
学校や生活の状況 (あてはまる数字 全てに○)	1.学校を休みがちである 2.遅刻や早退が多い 3.保健室で過ごしていることが多い 4.精神的な不安定さがある 5.身だしなみが整っていない 6.学力が低下している 7.宿題や持ち物の忘れ物が多い	8.保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや 提出忘れが多い 9.学校に必要なものを用意してもらえない 10.部活を途中でやめてしまった 11.修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12.給食費などの校納金が遅れる、未払い 13.その他( )
家族構成 (あてはまる数字全て に○)	1.母親 2.父親 3.祖母 4.祖父 5.きょうだい 6.その他( )	
家庭での ケアの状況 (あてはまる数字 全てに○)	ケアの状況を把握しているか 1.はい 2.いいえ	
	→ケアの状況を把握している場合、ケアの具体的な内容(あてはまるもの全てに○)	
	ケアを必要としている人	ケアを必要としている人の状況
	1.母親 2.父親 3.祖母 4.祖父 5.きょうだい 6.その他 ( )	1.高齢(65歳以上) 2.幼い 3.要介護 (介護が必要な状態) 4.認知症 5.身体障害 6.知的障害
		7.精神疾患(疑い含む) 8.依存症(疑い含む) 9.精神疾患や依存症以外の病気 10.日本語を第一言語としていない (通訳が必要) 11.その他( ) 12.分からない
	ケアの内容	
1.家事(食事の準備や掃除、洗濯) 2.きょうだいの世話や保育所への送迎など 3.身体的な介護(入浴やトイレのお世話など) 4.外出の付き添い(買い物、散歩など) 5.通院の付き添い 6.感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	7.見守り 8.通訳(日本語や手話など) 9.金銭管理 10.薬の管理 11.その他( ) 12.分からない	
ヤングケアラーと 気づいた理由・ きっかけ		
つないだ機関		
関係機関との つなぎ方		
行った支援 (連携も含めて)		
支援した結果、 子どもへの変化		

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。